

(様式4)

一般社団法人薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成25年5月1日)

九州保健福祉大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成25年度評価対象大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成24年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況・休学退学者数・学士課程修了状況	11-13
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	14-33
基礎資料 4	カリキュラムマップ	34
基礎資料 5	語学教育の要素	35
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	36-41
基礎資料 7	学生受入状況	42-43
基礎資料 8	教員・事務職員数	44
基礎資料 9	専任教員年齢構成	45
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	46-52
基礎資料11	卒業研究の配属状況	53
基礎資料12	講義室等の数と面積	54-55
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	56
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	57
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	58-141

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	英語 I	前期	70	2	135	コ		ソ	2	
	英語 II	後期	140	1	136	コ		ソ	2	
	メディアリテラシー	前期	140	1	139	コ		ソ	2	
	情報処理入門	後期	140	1	155	コ		ソ	2	
	エンカレッジ教育	前期	140	1	135	コ	S		2	
	キャリア教育	前期	140	1	135	コ	S	ソ	2	
	コミュニケーション論	前期	140	1	135	コ			2	
	(択) QOL概論	前期	140	1	133	コ			1	
	(択) 人間の尊厳	前期	140	1	130	コ	S	ソ	1	
	(択) 日向国地域論	後期	140	1	5	コ			2	
	(択) ボランティア活動	前期・後期	140	1	14	コ		ソ	2	
	外書講読 I	後期	140	1	146	コ		ソ	1	
	理科系作文法 I	前期	140	1	143	コ		ソ	1	
	理科系作文法 II	後期	140	1	140	コ			1	
	法学 I	前期	140	1	137	コ			1	
	法学 II	後期	140	1	136	コ			1	
	生物学 I	前期	140	1	139	コ			1	
	(択) 生物学 II	前期	140	1	129	コ			1	
	物理学 I	前期	140	1	168	コ			1	
	(択) 物理学 II	前期	140	1	73	コ			1	
	化学 I	前期	140	1	156	コ			1	
	(択) 化学 II	前期	140	1	133	コ			1	
	(自) 化学演習 I	前期	70	2	78	コ		ソ	1	
	(自) 化学演習 II	後期	140	1	34	コ		ソ	1	
	(択) 倫理学	前期	140	1	73	コ			1	
	病気を知る	前期	140	1	136	コ		ソ	1	
	総合学習 I	前期	140	1	136		S		1	
薬学専門教育	薬学入門	後期	140	1	138	コ			1	
	(択) 早期体験学習	後期	140	1	79	コ	S	ソ	1	
	薬学数学	前期	140	1	158	コ		ソ	1	
	(自) 薬学数学演習	後期	140	1	42			ソ	1	
	プレゼンテーション概論	前期	140	1	137	コ		ソ	1	
	医療概論	後期	140	1	137	コ	S		1	
	無機化学 I	後期	140	1	194	コ			1	
	有機化学 I	後期	140	1	162	コ		ソ	1	
	分析化学 I	後期	140	1	150	コ			1	
	基礎生化学	後期	140	1	174	コ		ソ	1	
	薬用植物学	後期	140	1	163	コ		ソ	1	
	機能形態学 I	後期	140	1	158	コ			1	
	機能形態学 II	後期	140	1	177	コ			1	
	環境科学	前期	140	1	142	コ			1	
実習										
演習										
単位数の合計									(必須科目)	36
									(選択科目)	11
									(自由科目)	3
									合計	50

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)情報処理演習	前期	140	1	12	コ		ソ	2
	(択)国際保健福祉論	前期	140	1	10	コ			2
	(択)国際人道援助論	後期	140	1	0	コ			2
	外書講読Ⅱ	前期	140	1	110	コ		ソ	1
	(択)人間関係論	前期	140	1	0	コ			1
	哲学	前期	140	1	16	コ			1
	総合学習Ⅱ	前期	140	1	102		S		1
薬学専門教育	(択)くすりの歩み	前期	140	1	100	コ			1
	薬学と生命倫理Ⅰ	前期	140	1	102	コ		ソ	1
	(択)薬学英語Ⅰ	後期	140	1	96	コ		ソ	1
	無機化学Ⅱ	前期	140	1	139	コ		ソ	1
	有機化学Ⅱ	前期	140	1	203	コ			1
	有機化学Ⅲ	後期	140	1	150	コ		ソ	1
	放射化学・薬品学	前期	140	1	110	コ			1
	分析化学Ⅱ	前期	140	1	112	コ			1
	分析化学Ⅲ	後期	140	1	108	コ			1
	物理化学Ⅰ	前期	140	1	113	コ		ソ	1
	物理化学Ⅱ	後期	140	1	106	コ			1
	生化学Ⅰ	前期	140	1	135	コ	S	ソ	1
	生化学Ⅱ	後期	140	1	134	コ		ソ	1
	生化学Ⅲ	後期	140	1	139	コ	S		1
	ウイルス学	後期	140	1	112	コ	S		1
	生物統計学	前期	140	1	119	コ	S	ソ	1
	生薬学	前期	140	1	116	コ		ソ	1
	和漢薬学	後期	140	1	103	コ			1
	機能形態学Ⅲ	前期	140	1	135	コ		ソ	1
	病理学	前期	140	1	103	コ		ソ	1
	生理・薬理学Ⅰ	前期	140	1	118	コ			1
	生理・薬理学Ⅱ	前期	140	1	112	コ	S	ソ	1
	生理・薬理学Ⅲ	後期	140	1	126	コ			1
	生理・薬理学Ⅳ	後期	140	1	124	コ	S	ソ	1
	衛生化学Ⅰ	後期	140	1	107	コ		ソ	1
	身体の特異な働き	後期	140	1	103	コ			1
	薬剤学Ⅰ	後期	140	1	122	コ			1
	薬剤学Ⅱ	後期	140	1	118	コ			1
	(択)基礎薬物動態学	後期	140	1	104	コ			1
	実習	薬化学実習	後期	140	1	112			ソ
分析学実習		後期	140	1	102			ソ	1
基礎生化学実習		後期	140	1	114	コ	S	ソ	1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		32
							(選択科目)		10
							(自由科目)		0
							合計		42

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	外書講読Ⅲ	前期	140	1	102	コ			2
	総合学習Ⅲ	前期	140	1	112			ソ	2
薬学専門教育	(択) 医薬情報学	後期	140	1	32	コ		ソ	1
	薬学と生命倫理Ⅱ	前期	140	1	102	コ			1
	有機化学Ⅳ	後期	140	1	156	コ			1
	生物有機化学	前期	140	1	127	コ		ソ	1
	反応有機化学	後期	140	1	130	コ		ソ	1
	機器分析学	前期	140	1	115	コ			1
	応用機器分析学	後期	140	1	121	コ			1
	細菌学	前期	140	1	117	コ		ソ	1
	細胞生物学	前期	140	1	105	コ	S		1
	天然医薬品化学Ⅰ	後期	140	1	172	コ			1
	東洋医薬学	後期	140	1	104	コ			1
	生理・薬理学Ⅴ	前期	140	1	109	コ		ソ	1
	生理・薬理学Ⅵ	前期	140	1	113	コ	S	ソ	1
	応用薬理学	後期	140	1	133	コ			1
	免疫学	後期	140	1	113	コ	S		1
	衛生化学Ⅱ	前期	140	1	115	コ			1
	臨床検査学	前期	140	1	106	コ			1
	薬物代謝学	後期	140	1	165	コ			1
	公衆衛生学	後期	140	1	102	コ			1
	薬局方概論	後期	140	1	108	コ			1
	薬剤学Ⅲ	前期	140	1	120	コ			1
	製剤学	前期	140	1	165	コ		ソ	1
	調剤学	後期	140	1	117	コ			1
	薬物動態学Ⅰ	前期	140	1	122	コ			1
	薬物動態学Ⅱ	後期	140	1	117	コ			1
	薬物治療学Ⅰ	後期	140	1	119	コ			1
薬物治療学Ⅱ	後期	140	1	122	コ			1	
実習	生薬学実習	前期	140	1	102			ソ	1
	生化学実習	前期	140	1	102		S	ソ	1
	基礎薬理学実習	前期	140	1	102	コ		ソ	1
	薬理学実習	後期	140	1	102	コ		ソ	1
	薬剤学実習	後期	140	1	102			ソ	1
	衛生薬学実習	後期	140	1	102			ソ	1
演習									
単位数の合計							(必須科目)		36
							(選択科目)		1
							(自由科目)		0
							合計		37

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 医薬情報学演習	後期	140	1	9	コ		ソ	1
	コミュニケーション演習	後期	140	1	102	コ		ソ	1
	(択) 薬学英語Ⅱ	後期	140	1	10	コ		ソ	1
	医薬品化学	前期	140	1	106	コ			1
	遺伝子工学	前期	140	1	106	コ		ソ	1
	腫瘍治療学	後期	140	1	114	コ	S		1
	天然医薬品化学Ⅱ	前期	140	1	104	コ			1
	漢方治療学	前期	140	1	103	コ			1
	臨床医学概論	後期	140	1	104	コ			1
	(択) 食品栄養学	前期	140	1	79	コ		ソ	1
	(択) 栄養管理学	後期	140	1	86	コ		ソ	1
	薬物治療学Ⅲ	前期	140	1	103	コ			1
	薬物治療学Ⅳ	前期	140	1	106	コ		ソ	1
	薬物治療学Ⅴ	後期	140	1	104	コ			1
	薬物治療学Ⅵ	後期	140	1	110	コ		ソ	1
	一般用医薬品学	前期	140	1	103	コ			1
	医事法学演習	後期	140	1	103	コ	S	ソ	1
	薬事関係法規Ⅰ	前期	140	1	103	コ			1
基礎薬学総合演習	前期・後期	140	1	107	コ		ソ	8	
実習	実務実習事前学習Ⅰ	前期	140	1	103			ソ	2
	実務実習事前学習Ⅱ	後期	140	1	103			ソ	3
演習									
単位数の合計							(必須科目)		27
							(選択科目)		4
							(自由科目)		0
							合計		31

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	(択) セーフティマネジメント演習	前期・後期	180	1	70	コ	S	ソ	1	
	(択) 先端医療学	前期・後期	180	1	55	コ			1	
	(択) 病院薬学演習	前期・後期	180	1	53	コ		ソ	1	
	(択) 薬局経営管理学	前期・後期	180	1	65	コ			1	
	(択) 一般用医薬品学演習	前期・後期	180	1	65	コ		ソ	1	
	(択) 食品医薬品相互作用論	前期・後期	180	1	65	コ	S		1	
	(択) 乱用薬物・毒物学	前期・後期	180	1	115	コ		ソ	1	
	(択) 漢方治療学演習	前期・後期	180	1	17		S	ソ	1	
実習	実務実習 I	前期・後期	180	1	119	コ		ソ	10	
	実務実習 II	前期・後期	180	1	119			ソ	10	
演習	特別研究 I	前期・後期	180	1	120			ソ	7	
単位数の合計							(必須科目)			27
							(選択科目)			8
							(自由科目)			0
							合計			35

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	薬事関係法規Ⅱ	前期	180	1	156	コ			1
	治験コーディネーター論	前期	180	1	151	コ		ソ	1
	薬学総合演習Ⅰ	前期	180	1	155			ソ	9
	薬学総合演習Ⅱ	後期	180	1	157			ソ	10
実習									
演習	特別研究Ⅱ	前期	180	1	155			ソ	15
単位数の合計						(必須科目)			36
						(選択科目)			0
						(自由科目)			0
						合計			36

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習/その他=ソ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	13	14
教養教育科目	22	29
語学教育科目	9	12
医療安全教育科目	9	12
生涯学習の意欲醸成科目	6	7
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	6	8

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数			
	必須科目	選択科目	自由科目	合計
1 年 次	36	11	3	50
2 年 次	32	10	0	42
3 年 次	36	1	0	37
4 年 次	27	4	0	31
5 年 次	27	8	0	35
6 年 次	36	0	0	36
合計	194	34	3	231

(基礎資料 2-1) 修学状況

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	140	140	140	140	180	180	920	A	
	編入定員数								B	
	入学者数	139	127	140	140	133	196			
基準日 における	各学年の在籍学生数	163	137	141	108	120	175	844	C	
	編入学生数(内)		3		5	1	2	11	D	
	留年者数(内)	24	35	38	5	0	20	122		
	留年者の 入学年度	平成18年度			1	2		11	14	
		平成19年度			4	1		9	14	
		平成20年度			4	1			5	
		平成21年度	1		13	1			15	
		平成22年度		15	16				31	
		平成23年度	2	20					22	
		平成24年度	21						21	
平成25年度								0		
C / (A+B)		0.92								
D / B										

- [注] 1 「C / (A+B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料 2 - 2) 休学者数および退学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
総在籍学生数	528		636		758		876		871		844	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数
1年次	8	13	5	7	4	5	2	11	5	12	3	13
2年次		2	4	5	5	11	3	4	5	19	1	5
3年次	2		1	1	1	5	2	6	1	4	1	3
4年次						1		2		1		1
5年次												
6年次									2		2	
合計	10	15	10	13	10	22	7	23	13	36	7	22

[注] 平成25年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月 卒業)	平成24年度 (平成25年3月 卒業)	平成25年度 (平成26年3 月卒業)	平成26年度 (平成27年3月 卒業)	平成27年度 (平成28年3月 卒業)	平成28年度 (平成29年3月 卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		100 名	120 名	名	名	名	名			
卒業生の入学 年度内訳	平成18年度入学者	100 名	19 名	名	名	名	名	平成18年度	205 名	48.8%
	平成19年度入学者	名	101 名	名	名	名	名	平成19年度	164 名	61.6%
	平成20年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成20年度	196 名	0.0%
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成21年度	133 名	0.0%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	140 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	140 名	0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)						
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	医療概論	薬学と生命倫理 I	薬学と生命倫理 II			
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。						
5) 自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)						
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。		薬学と生命倫理 I	薬学と生命倫理 II			
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。		薬学と生命倫理 I			先端医療学	
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	エンカレッジ教育/薬学入門/キャリア教育/医療概論					
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	エンカレッジ教育/薬学入門/医療概論	薬学と生命倫理 I		薬学と生命倫理 II		
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	エンカレッジ教育/薬学入門/キャリア教育/医療概論					
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療概論					
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	コミュニケーション論/医療概論	薬学と生命倫理 I		薬学と生命倫理 II		治験コーディネーター論
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)	医療概論					
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)					セーフティマネージメント演習	
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。						
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)						先端医療学/特別研究
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	キャリア教育/医療概論					
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療概論					治験コーディネーター論
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	医療概論				セーフティマネージメント演習	
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	コミュニケーション論/医療概論				コミュニケーション演習	セーフティマネージメント演習
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	コミュニケーション論/医療概論				コミュニケーション演習	セーフティマネージメント演習
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)						
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	コミュニケーション論/医療概論					
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)					コミュニケーション演習	
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)	キャリア教育/コミュニケーション論/医療概論					
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	医療概論					
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。	コミュニケーション論/医療概論				コミュニケーション演習/実務実習事前学習 I・II	セーフティマネージメント演習
2) チームに参加し、協力的態度で役割を果たす。(態度)	医療概論					治験コーディネーター論
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)					コミュニケーション演習	
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	早期体験学習/医療概論					
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)						
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学入門					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。	早期体験学習/エンカレッジ教育/薬学入門/キャリア教育					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	早期体験学習/エンカレッジ教育/薬学入門					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	エンカレッジ教育/薬学入門/調剤学/キャリア教育					
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	エンカレッジ教育/薬学入門/キャリア教育					
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。				薬局方概論		
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	エンカレッジ教育/薬学入門					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						治験コーディネーター論
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。				薬局方概論	薬物治療学VI	
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。					一般用医薬品学	一般用医薬品学演習
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。						先端医療学
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬学入門					
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						治験コーディネーター論
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。			薬局方概論			
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)					実務実習事前学習 I	
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)			薬局方概論			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(2) 早期体験学習							
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習						
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)							
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)							
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)							
C 薬学専門教育							
[物理系薬学を学ぶ]							
C1 物質の物理的性質							
(1) 物質の構造							
【化学結合】							
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	無機化学 I		有機化学 III / 有機化学 II	反応有機化学			
2) 軌道の混成について説明できる。			無機化学 II / 有機化学 II				
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。							
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。		無機化学 I / 有機化学 I	有機化学 II	反応有機化学			
【分子間相互作用】							
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学 I						
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		薬剤学 II					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。							
4) 分散力について例を挙げて説明できる。							
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		薬剤学 II	反応有機化学 / 生物有機化学				
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。			反応有機化学				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		薬剤学 II					
【原子・分子】							
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。			機器分析学				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。			応用機器分析学				
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	無機化学 I						
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		薬化学実習	機器分析学				
6) 偏光および旋光性について説明できる。							
7) 散乱および干渉について説明できる。							
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。			薬剤学 III / 応用機器分析学				
【放射線と放射能】							
1) 原子の構造と放射線について説明できる。		放射化学・薬品学					
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。							
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。							
4) 核反応および放射平衡について説明できる。							
5) 放射線の測定原理について説明できる。							
(2) 物質の状態 I							
【総論】							
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学 I / 物理化学 II					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。							
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。							
【エネルギー】							
1) 系、外界、境界について説明できる。		物理化学 I					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。							
3) 仕事および熱の概念を説明できる。							
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。							
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。							
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)							
7) エンタルピーについて説明できる。							
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)							
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。							
【自発的な変化】							
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学 I					
2) 熱力学第二法則について説明できる。							
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)							
4) 熱力学第三法則について説明できる。							
5) 自由エネルギーについて説明できる。							
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)							
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。							
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。							
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。							
(3) 物質の状態 II							
【物理平衡】							
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		物理化学 I / 物理化学 II					
2) 相平衡と相律について説明できる。		薬剤学 II / 物理化学 II					
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。							
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		物理化学 I / 物理化学 II					
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。							
6) 界面における平衡について説明できる。							
7) 吸着平衡について説明できる。							
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)							
【溶液の化学】							
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。				基礎薬学演習			
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学 II					
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。							
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		物理化学 II					
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。	分析化学 I						
6) イオン強度について説明できる。		物理化学 I					
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。		物理化学 I / 物理化学 II					
【電気化学】							
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理化学 II		基礎薬学演習			
2) 標準電極電位について説明できる。							
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。							
4) Nernstの式が誘導できる。							
5) 濃淡電池について説明できる。							
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 I				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物理化学 I / 有機化学 II	有機化学 IV			
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		生化学 I				
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		薬剤学 II				
2) 沈降現象について説明できる。		物理化学 I				
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	理科系作文法 I / 化学演習 I / 分析化学 I					
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)	理科系作文法 I / 分析化学 I					
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	理科系作文法 I / 化学演習 I, II / 分析化学 I / 総合学習 I	薬化学実習				
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	理科系作文法 I / 化学演習 II / 分析化学 I					
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	理科系作文法 I / 分析化学 I					
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	理科系作文法 I / 化学演習 II / 分析化学 I	薬剤学 II / 薬化学実習				
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 I	無機化学 II				
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。						
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学 II	薬局方概論			
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学 II / 薬化学実習		医薬品化学		
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学 II				
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		分析学実習				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学 I					
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
6) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)			分析学実習			
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			機器分析学			
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		分析化学 II	機器分析学			
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)				薬化学実習 / 分析化学 II		
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		基礎生化学実習 / 生化学実習				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析化学 III				
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析化学 III				
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。						
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。						
9) 薬学領域で緊要されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。		分析化学 III				
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学				
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		応用機器分析学				
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学				
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)		応用機器分析学				
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		応用機器分析学	天然医薬品化学 II			
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【質量分析】							
1) 質量分析法の原理を説明できる。			応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ			
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。							
【X線結晶解析】							
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			応用機器分析学・薬剤学Ⅲ				
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。			応用機器分析学				
【相互作用の解析法】							
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			応用機器分析学				
(2) 生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。		生化学Ⅰ	生物有機化学				
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。							
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。							
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。							
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。				生物有機化学			
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
【相互作用】							
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。		生化学Ⅰ					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。							
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要素の重要性を、具体例を挙げて説明できる。							
C4 化学物質の性質と反応							
(1) 化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	化学Ⅱ/化学演習Ⅱ/ 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ/有機化学Ⅳ				
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。		有機化学Ⅱ/薬学実習					
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学Ⅰ	無機化学Ⅱ/有機化学Ⅱ/薬学実習	有機化学Ⅲ/生物有機化学/ 有機化学Ⅳ				
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。		有機化学Ⅱ/薬学実習	有機化学Ⅳ				
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。							
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。		無機化学Ⅱ	反応有機化学				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	無機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ/有機化学Ⅲ/薬学実習	反応有機化学/有機化学Ⅳ				
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ					
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。		有機化学Ⅱ/有機化学Ⅲ/薬学実習	反応有機化学/有機化学Ⅳ				
【有機化合物の立体構造】							
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	化学Ⅱ/化学演習Ⅱ/ 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	生物有機化学				
2) キラリティーと光学活性を概説できる。							
3) エナンチオマーとジアステロマーについて説明できる。	化学演習Ⅱ/有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	生物有機化学/有機化学Ⅳ				
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。							
5) 絶対配置の表示法を説明できる。							
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。			生物有機化学				
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学Ⅰ						
【無機化合物】							
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。		無機化学Ⅱ					
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。							
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。							
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。							
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。							
【錯体】							
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。		無機化学Ⅱ					
2) 配位結合を説明できる。	無機化学Ⅰ						
3) 代表的なドナー原子、配位子、キレート試薬を列挙できる。		無機化学Ⅱ 薬学実習					
4) 錯体の安定度定数について説明できる。							
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。							
6) 錯体の反応性について説明できる。							
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。							
(2) 有機化合物の骨格							
【アルカン】							
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	化学Ⅱ/有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	化学Ⅱ						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	化学Ⅱ/有機化学Ⅰ						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学Ⅰ		生物有機化学				
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。							
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。							
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。							
【アルケン・アルキンの反応性】							
1) アルケンへの代表的なシシ型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。		有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ				
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。							
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。							
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。							
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。							
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。							
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。							
【芳香族化合物の反応性】							
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	生物有機化学				
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。	無機化学Ⅰ						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。							
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。							
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	化学演習Ⅱ/有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ			
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	有機化学Ⅰ					
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。				医薬品化学		
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		薬化学実習	薬局方概論			
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		無機化学Ⅱ				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。		有機化学Ⅲ	有機化学Ⅳ			
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	化学Ⅱ	有機化学Ⅲ/無機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ			
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。				有機化学Ⅳ/反応有機化学		
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	化学Ⅱ					
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ/有機化学Ⅲ	反応有機化学/有機化学Ⅳ			
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ/有機化学Ⅲ	薬局方概論/反応有機化学			
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		薬化学実習	反応有機化学			
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。						
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ	薬化学実習	反応有機化学			
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。	化学Ⅱ	薬化学実習		天然医薬品化学Ⅱ		
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	化学Ⅱ					
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピニング結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		薬化学実習	応用機器分析学			
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。				応用機器分析学		
【マスマスペクトル】						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。						
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)				機器分析学		
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		薬化学実習				
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ			
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ				
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。				有機化学Ⅳ 反応有機化学		
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。						
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。				反応有機化学		
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。				有機化学Ⅳ/反応有機化学		
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		薬化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。						
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。						
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。						
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。						
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)						
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。						
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。						
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。						
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。						
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が用いられる根拠を説明できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4) 代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。						
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。						
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。						
3) β -ラクタムを持つ医薬品的作用機序を化学的に説明できる。						
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。						
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)						
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。						
【生薬成分の構造と合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
【農薬、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。						
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。	薬用植物学			天然医薬品化学Ⅱ		
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)				天然医薬品化学Ⅱ		
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。						
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			細菌学	天然医薬品化学Ⅱ		
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。						
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			細菌学			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。		和漢薬学/生薬学	東洋医学			
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		生薬学		漢方治療学		
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。		病理学				
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/機能形態学Ⅱ	病理学				
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅱ	病理学				
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅱ					
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		病理学				
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/機能形態学Ⅱ	生理・薬理学Ⅱ/ 生理・薬理学Ⅳ/病理学				
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	病理学				
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		病理学				
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	病理学	生理・薬理学Ⅵ	薬物治療学Ⅵ		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	生理・薬理学Ⅳ/機能形態学Ⅲ/病理学				
【生殖系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	病理学				
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学Ⅲ/病理学		薬物治療学Ⅵ		
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	病理学		薬物治療学Ⅵ		
【血液・造血系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ	病理学				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。			細胞生物学			
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ					
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/基礎生化学		細胞生物学			
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/基礎生化学		細胞生物学			
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。			細胞生物学			
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。					腫瘍治療学	
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。			細胞生物学			
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/機能形態学Ⅱ					
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/機能形態学Ⅱ					
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		機能形態学Ⅱ、Ⅲ				
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ/機能形態学Ⅱ					
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ					
2) 血糖の調節機構を説明できる。	生物学Ⅰ、Ⅱ					
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	機能形態学Ⅱ	生理薬理学Ⅳ				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。	機能形態学Ⅰ					
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		機能形態学Ⅲ/生理薬理学Ⅲ				
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。			生理・薬理学VI/機能形態学III	薬物治療学VI		
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	機能形態学II					
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中の微生物の役割について説明できる。			細菌学			
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		ウイルス学	細菌学			
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		ウイルス学	細菌学			
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。			細菌学			
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。		ウイルス学				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		ウイルス学	細菌学			
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。						
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)		ウイルス学・生化学実習	薬局方概論/生化学実習			
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)				生化学実習		
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生化学実習				
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。				細菌学		
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	基礎生化学	生化学I				
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学I 生化学II				
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	基礎生化学	生化学I		栄養管理学		
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	基礎生化学	生化学I		栄養管理学		
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)				薬局方概論		
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学I		栄養管理学		
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。		衛生化学I/生化学I		食品栄養学/栄養管理学		
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。						
2) DNAの構造について説明できる。	生物学I、II/基礎生化学	生化学III				
3) RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生化学					
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	生物学I、II/基礎生化学	生化学III		遺伝子工学		
4) 染色体の構造を説明できる。						
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	基礎生化学					
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	生物学I、II					
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。		生化学III				
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。						
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生物学I、II					
5) リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。						
2) 遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。		生化学III				
3) DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		生化学III		遺伝子工学		
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生物学I、II/基礎生化学			栄養管理学		
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	基礎生化学	生化学I				
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生物学I、II					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。		生化学I				
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【酵素以外の機能タンパク質】							
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。		生化学 I					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。							
3) 血漿リボタンパク質の種類と機能を概説できる。							
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。							
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。							
【タンパク質の取扱い】							
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		基礎生化学実習					
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)		基礎生化学実習/生化学実習					
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	基礎生化学	基礎生化学実習					
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学 I / 生化学 II		栄養管理学			
【ATPの産生】							
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生化学 II		栄養管理学			
2) 解糖系について説明できる。							
3) クエン酸回路について説明できる。							
4) 電子伝達系(酸化リン酸化)について説明できる。							
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。							
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。							
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。							
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。							
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。							
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。							
【飢餓状態と飽食状態】							
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学 II		栄養管理学			
2) 糖新生について説明できる。							
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。							
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。							
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。							
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。							
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。							
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。							
(5) 生理活性分子とシグナル分子							
【ホルモン】							
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生化学 I					
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。							
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。							
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。							
【オートコイドなど】							
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	基礎生化学	生化学 I					
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。							
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。							
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。							
5) 主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。			生理・薬理学 II / 生化学 I				
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。			生化学 I				
【神経伝達物質】							
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		生化学 I		応用薬理学			
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】							
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		免疫学/生化学 I					
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。							
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。							
【細胞内情報伝達】							
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		生理・薬理学 II / 生化学 I		応用薬理学			
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。							
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。							
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。			生化学 I				
(6) 遺伝子操作							
【遺伝子操作の基本】							
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		生化学 III		細胞生物学	遺伝子工学		
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		生化学 III・生化学実習					
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)							
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)							
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)		生化学 III					
【遺伝子のクローニング技術】							
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		生化学 III		遺伝子工学			
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。							
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。							
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生化学 III・生化学実習					
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。							
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		生化学 III					
7) コンピューターを用いて特異的な塩基配列を検索できる。(技能)							
【遺伝子機能の解析技術】							
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		生化学 III		細胞生物学	遺伝子工学		
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。							
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。							
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。							
C10 生体防御							
(1) 身体をまもる							
【生体防御反応】							
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫学					
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。							
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。							
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。							
5) クローン選択説を説明できる。							
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。	生物学 I, II						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【免疫を担当する組織・細胞】							
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫学					
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。							
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。							
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。							
【分子レベルで見た免疫のしくみ】							
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学					
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。							
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。							
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。							
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。							
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用							
【免疫系が関係する疾患】							
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		免疫学					
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。							
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。							
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。							
【免疫応答のコントロール】							
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学					
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。							
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。							
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。							
【予防接種】							
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。		免疫学・ウイルス学					
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。							
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。							
【免疫反応の利用】							
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。		免疫学	細胞製剤学				
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。							
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）							
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）							
(3) 感染症にかかる							
【代表的な感染症】							
1) 主なDNAウイルス（Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		ウイルス学	細菌学				
2) 主なRNAウイルス（Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。							
4) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
5) グラム陰性球菌（淋菌、Δ髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
6) グラム陽性桿菌（破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
7) グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、肺炎ピロリ菌、緑膿菌、Δブルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
8) グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
9) 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
11) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。							
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。				ウイルス学/衛生化学 I			
【感染症の予防】							
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		ウイルス学	細菌学				
【健康と環境】							
C11 健康							
(1) 栄養と健康							
【栄養素】							
1) 栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		衛生化学 I / 生化学 I	栄養管理学				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。							
3) 脂質の体内運搬における脂質リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。							
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。							
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。							
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。							
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。							
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。				衛生化学 I			
【食品の品質と管理】							
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。		衛生化学 I	食品栄養学				
2) 油脂が変質する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）							
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。							
4) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。							
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。							
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。							
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。							
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）							
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。							
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）							
【食中毒】							
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		衛生化学 I	食品栄養学				
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。							
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。							
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。							
5) 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。				衛生化学 II			
(2) 社会・集団と健康							
【保健統計】							
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		公衆衛生学					
2) 人口動態と人口動態について説明できる。							
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。							
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。							
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。							
【健康と疾病をめぐる日本の現状】							
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。		公衆衛生学					
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。							
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学			
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究 (コホート研究) の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学			
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学			
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。		衛生化学 I / 衛生化学 II	公衆衛生学			
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学			
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			公衆衛生学			
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			薬物代謝学			
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝学/衛生薬学実習			
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			薬物代謝学			
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			薬物代謝学			
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生化学 II			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						乱用薬物・毒物学
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			薬物代謝学/衛生化学 II			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						乱用薬物・毒物学
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。		放射化学・薬品学	衛生化学 II			
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。		放射化学・薬品学	衛生化学 II			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			衛生化学 II			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	環境科学					
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						乱用薬物・毒物学
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。	放射化学・薬品学					
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境科学	衛生薬学実習			
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。		環境科学	衛生薬学実習			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生化学 II / 衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			衛生化学 II			
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			衛生化学Ⅱ			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	環境科学				乱用薬物・毒物学	
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅰ	基礎薬理学実習			
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		生理・薬理Ⅰ/基礎薬物動態学	薬物動態学Ⅰ・Ⅱ			
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学Ⅰ			
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		生理・薬理Ⅲ				
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。	エンカレッジ教育	基礎薬物動態学				
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。			薬物動態学Ⅰ・Ⅱ/薬局方概論			
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。			薬物動態学Ⅰ			
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。	エンカレッジ教育					
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						治験コーディネーター論
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理学実習/基礎薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅲ	応用薬理学			
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						基礎薬理学実習
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅰ	応用薬理学			
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない						基礎薬理学実習
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅰ	応用薬理学			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理学Ⅱ				
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				生理・薬理学Ⅳ		
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅲ				
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						薬物治療学Ⅳ
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			応用薬理学			
(3) 薬の効き方Ⅱ						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅴ				
2) 代表的な糖質コルチコイド剤の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン剤および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理学Ⅵ	薬物治療学Ⅵ			
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		生理・薬理学Ⅳ				
【血液・造血系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅰ	薬物治療学Ⅳ			
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	生理・薬理Ⅴ				
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				生理・薬理学Ⅵ		
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				生理・薬理Ⅴ		
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	エンカレッジ教育	免疫学/生理・薬理Ⅲ				
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(4) 薬物の臓器への到達と消失							
【吸収】							
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。							
3) 受動拡散 (単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。							
4) 能動輸送の特徴を説明できる。							
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。							
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。							
【分布】							
到達目標:							
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。							
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。							
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。							
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。							
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。							
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)		基礎薬物動態学					
【代謝】							
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。					食品医薬品相互作用論		
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。							
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。		薬剤学 I					
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。					食品医薬品相互作用論		
8) 初回通過効果について説明できる。		薬剤学 I / 基礎薬物動態学					
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。							
【排泄】							
1) 腎における排泄機構について説明できる。		薬剤学 I					
2) 腎クリアランスについて説明できる。							
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。							
4) 胆汁中排泄について説明できる。							
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。							
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。							
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。							
【相互作用】							
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学 I	薬物治療学 VI	食品医薬品相互作用論		
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。							
(5) 薬物動態の解析							
【薬動学】							
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学 I				
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。							
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)							
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)							
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。							
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)							
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学 II				
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。							
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。							
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)							
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)							
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)							
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】							
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学 II				
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。							
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)							
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメータを用いて説明できる。							
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)							
C14 薬物治療							
(1) 体の変化を知る							
【症候】							
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			臨床検査学	薬物治療学 VI / 臨床医学概論			
【症候と臨床検査値】							
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査学		薬物治療学 VI / 臨床医学概論			
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				臨床医学概論			
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。							
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。							
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。							
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						薬物治療学 VI / 臨床医学概論 臨床医学概論 薬物治療学 VI / 臨床医学概論 臨床医学概論 薬物治療学 V / 臨床医学概論	
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)							
【薬物治療の位置づけ】							
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。							
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)							
【心臓・血管系の疾患】							
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。		薬物治療 V / 臨床医学概論					
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【血液・造血器の疾患】							
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学IV/臨床医学概論			
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓							
【消化器系疾患】							
1) 消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)に代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学VI/基礎薬学総合演習I・II/臨床医学概論			
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病							
【総合演習】							
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物治療学VI/臨床医学概論			
(3) 疾患と薬物治療(腎臓疾患等)							
【腎臓・尿路の疾患】							
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学III/基礎薬学総合演習I・II/臨床医学概論		薬学総合演習I・II	
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石							
【生殖系疾患】							
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学III/基礎薬学総合演習I・II/臨床医学概論		薬学総合演習I・II	
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症							
【呼吸器・胸部の疾患】							
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学IV/臨床医学概論			
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌							
【内分泌系疾患】							
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学VI/臨床医学概論			
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病							
【代謝性疾患】							
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学III/基礎薬学総合演習I・II		薬学総合演習I・II	
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
【神経・筋の疾患】							
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学II	臨床医学概論		
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆							
【総合演習】							
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療学II	臨床医学概論		
(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)							
【精神疾患】							
1) 代表的な精神疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学II	臨床医学概論		
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症							
【耳鼻咽喉の疾患】							
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学II	臨床医学概論		
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎							
【皮膚疾患】							
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学I	臨床医学概論		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。尋麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症							
【眼疾患】							
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学VI/基礎薬学総合演習I・II/臨床医学概論	臨床医学概論		
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症							
【骨・関節の疾患】							
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げる事ができる。				薬物治療学I	臨床医学概論		
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症							
【アレルギー・免疫疾患】							
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げる事ができる。				免疫学	薬物治療学I	臨床医学概論	
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
【移植医療】							
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			免疫学		薬物治療学III/基礎薬学総合演習I・II/臨床医学概論	薬学総合演習I・II	
【緩和ケアと長期療養】							
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				薬物治療学I/薬学と生命倫理II	腫瘍治療学		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。							
【総合演習】							
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)					臨床医学概論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		ウイルス学				
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			細菌学	薬物治療学IV		
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ビリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗寄生虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗寄生虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		ウイルス学				
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		ウイルス学				
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		ウイルス学				
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機序を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				薬物治療学IV/腫瘍治療学		
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				腫瘍治療学		
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機序を説明できる。				腫瘍治療学		
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。	早期体験学習/薬学入門		調剤学			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。	薬学入門					
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						治験コーディネーター論
5) 医薬品情報に関する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			調剤学/医薬情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			調剤学			治験コーディネーター論
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			調剤学/医薬情報学			
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			調剤学			
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)			医薬情報学			
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			調剤学			
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			調剤学/医薬情報学			
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)			医薬情報学			
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)						
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			調剤学			
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			調剤学			
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)				実務実習事前学習 I・II		
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			調剤学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				実務実習事前学習 I・II		
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。		基礎薬物動態学				
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物治療学IV		
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学II			
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		基礎薬物動態学				
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。		基礎薬物動態学	薬物動態学II			
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）						
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				薬物動態学II	実務実習事前学習I・II	
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			薬剤学II			
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			物理化学I			
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			薬剤学II			
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。（技能）						
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）				薬剤学III/製剤学	薬剤学実習	
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				薬局方概論/薬剤学III/製剤学		
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。						
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）					薬剤学実習	
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。						
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				薬剤学III/製剤学		
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				薬剤学III/製剤学		
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				薬剤学III/製剤学		
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				製剤学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				基礎薬学総合演習		
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。				基礎薬学総合演習		
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						治験コーディネーター論
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	薬学入門					
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						治験コーディネーター論
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				基礎薬学総合演習		
3) 医薬品製造において環境安全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。	薬学入門					治験コーディネーター論
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				基礎薬学総合演習		
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	薬学入門					治験コーディネーター論
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				医薬品化学		
【標的分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				基礎薬学総合演習		
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				医薬品化学		
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。						
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				基礎薬学総合演習		
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						
2) 生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。				医薬品化学		
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。		生化学Ⅲ	細胞生物学			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		生化学Ⅲ	細胞生物学			
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		生化学Ⅲ	細胞生物学			
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンプロット法など）について概説できる。	生化学Ⅲ		細胞生物学			
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。		生化学Ⅲ				
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。	薬学入門					治験コーディネーター論
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割（治験管理者など）を説明できる。						
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。	薬学入門					治験コーディネーター論
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。						
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法（t検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）		生物統計学				
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）						
6) 主な多重比較検定法（分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。				基礎薬学総合演習		
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。						
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。				基礎薬学総合演習		
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						
5) 基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)	薬学入門	薬学と生命倫理 I			セーフティマネージメント演習	
2) 医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	法学 I・II			薬事関係法規 I 医事法学演習		薬事関係法規 II
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。	法学 II					
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度について概説できる。				基礎薬学総合演習		
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。	法学 II			薬事関係法規 I 医事法学演習		薬事関係法規 II
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。						
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				基礎薬学総合演習		
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。	薬学入門		調剤学		薬局経営管理学	
2) 在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。					薬局経営管理学	
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。	薬学入門		調剤学		薬局経営管理学	
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療費担当規則を概説できる。					薬局経営管理学	
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。			調剤学			
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。					薬局経営管理学	
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。			調剤学			
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)	エンカレッジ教育			一般用医薬品学	一般用医薬品学演習	
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。		生薬学				

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

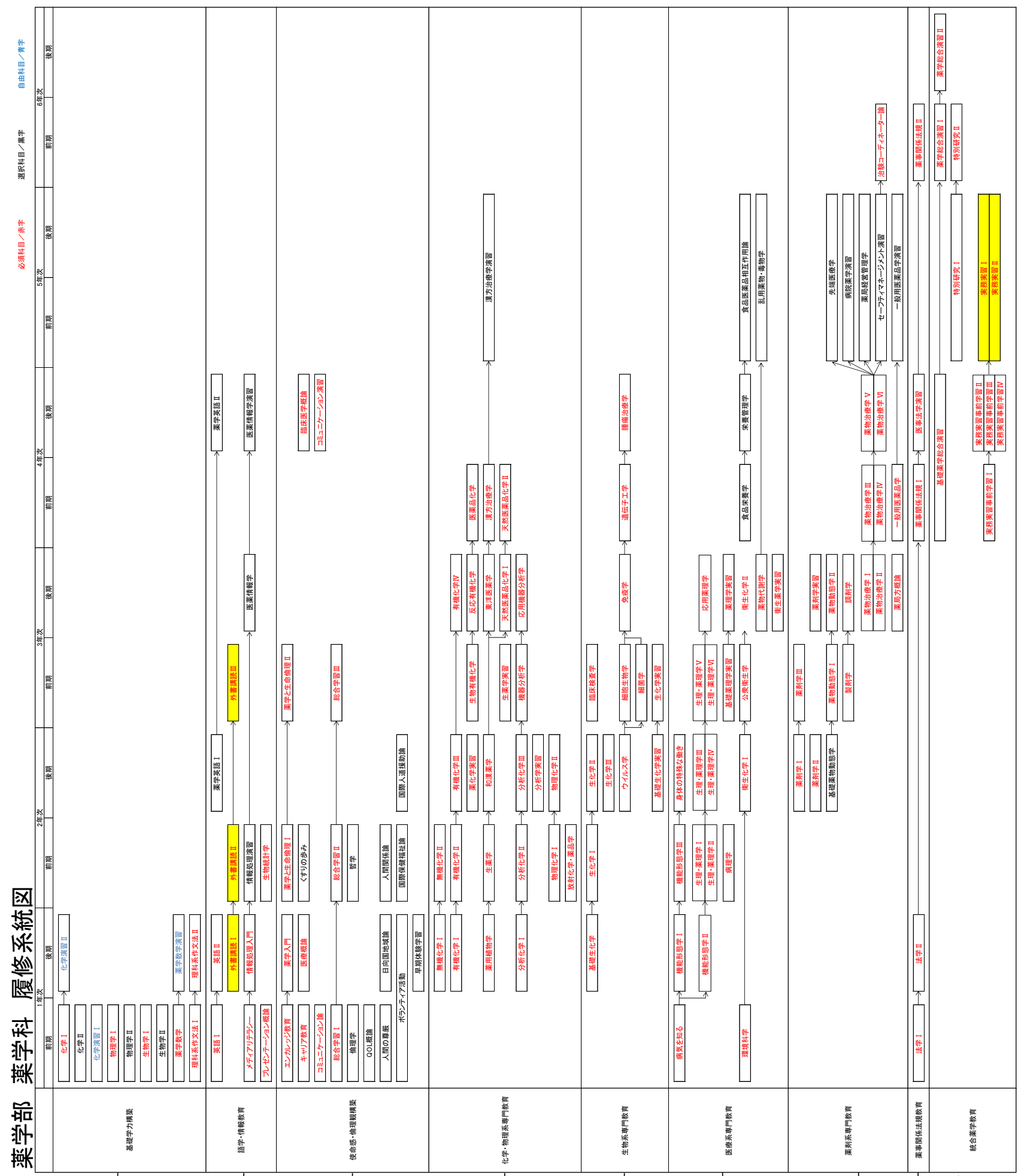
- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	調剤学		セーフティマネージメント演習
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		実務実習事前学習 I・II	セーフティマネージメント演習
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	調剤学		
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	調剤学	薬事関係法規 I / 実務実習事前学習 I・II	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		実務実習事前学習 I・II	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		実務実習事前学習 I・II / 薬事関係法規 I	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習 I・II	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	調剤学	実務実習事前学習 I・II	
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習 II	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)	調剤学	実務実習事前学習 I・II	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)			
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)			
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)			
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)			
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	調剤学	薬事関係法規 I / 実務実習事前学習 I・II	
		実務実習事前学習 I・II	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)			
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	調剤学	実務実習事前学習 I・II	
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)	調剤学	実務実習事前学習 I・II	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。			
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。			
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。			
9. 疑義照会の流れを説明できる。			
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)			

(4) 医薬品の管理と供給					
《医薬品の安定性に注目する》					
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。					
《特別な配慮を要する医薬品》					
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	薬事関係法規Ⅰ/実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		薬事関係法規Ⅰ			
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ			
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		基礎薬学総合演習/実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。					
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。					
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		基礎薬学総合演習			
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。					
《製剤化の基礎》					
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	調剤学	実務実習事前学習Ⅰ			
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）					
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
《注射剤と輸液》					
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ			
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）					
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		栄養管理学			
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）					
《消毒薬》					
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		基礎薬学総合演習/実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。					
(5) リスクマネジメント					
《安全管理に注目する》					
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。					
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ	セーフティマネジメント演習		
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		基礎薬学総合演習			
《副作用に注目する》					
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
《リスクマネジメント入門》					
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ	セーフティマネジメント演習		
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）					
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）					
(6) 服薬指導と患者情報					
《服薬指導に必要な技能と態度》					
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	調剤学	実務実習事前学習Ⅱ			
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ			
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅱ			
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）					
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）					
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）		コミュニケーション演習/実務実習事前学習Ⅱ			
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅱ			
《患者情報の重要性に注目する》					
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	調剤学	実務実習事前学習Ⅱ			
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		コミュニケーション演習/実務実習事前学習Ⅱ			
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。					
《服薬指導入門》					
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前学習Ⅱ			
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		コミュニケーション演習/実務実習事前学習Ⅱ			
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		コミュニケーション演習/実務実習事前学習Ⅱ			
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		実務実習事前学習Ⅱ			
(7) 事前学習のまとめ					

(基礎資料4) カリキュラムマップ

- [注] 1 任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。
- 2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
英語 I	1	読み	書き	聞く	話す
英語 II	1	読み	書き	聞く	話す
外書講読 I	1	読み	書き		
外書講読 II	2	読み	書き		
外書講読 III	3	読み	書き		
薬学英语 I	2	読み	書き	聞く	
薬学英语 II	4	読み	書き		

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

読み	読み
書き	書き
聞く	聞く
話す	話す

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年4月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月	8日						
	火	9日						
	水	10日						
	木	11日						
	金	12日						
第3週	月	15日						
	火	16日			S201・S202講義	S406講義、S203演習	S210実習	
	水	17日			S104・S105講義	S106演習、S402講義	S210実習	
	木	18日			S501・S502講義	S506・S507演習	S210実習	
	金	19日						
第4週	月	22日						
	火	23日			S301・S303講義	S302実習	S304・S211演習	
	水	24日			S306実習	S306実習	S306実習	
	木	25日			S201・S205講義			
	金	26日						
第5週	月	29日	祝日					
	火	30日	祝日					
	水							
	木							
	金							

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年5月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水	1日	職員研修振替休日					
	木	2日	創立記念日振替休日					
	金	3日	祝日					
第2週	月	6日	祝日					
	火	7日						
	水	8日						
	木	9日						
	金	10日						
第3週	月	13日						
	火	14日			S102講義・演習	S406実習	S506講義・演習	
	水	15日			S506演習	S210実習	S210実習	
	木	16日			S602講義	S302実習	S302実習	
	金	17日						
第4週	月	20日						
	火	21日			S401・S402講義	S409講義・演習	S206・S207講義・演習	
	水	22日			S206演習	S207演習	S402演習	
	木	23日			S604講義			
	金	24日						
第5週	月	27日						
	火	28日			S201講義	S202講義・演習	S303講義	
	水	29日			S210実習	S210実習	S406講義・演習	
	木	30日			S304演習・実習	S306演習・実習	S306演習・実習	
	金	31日						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	3日				S209講義	
	火	4日			S302実習	S412実習	S412実習
	水	5日			S504講義	S505実習	S505実習
	木	6日					
	金	7日					
第2週	月	10日					
	火	11日					
	水	12日					
	木	13日					
	金	14日					
第3週	月	17日					
	火	18日					
	水	19日					
	木	20日			S101・S103・S107講義		
	金	21日					
第4週	月	24日					
	火	25日					
	水	26日					
	木	27日					
	金	28日					
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年7月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月	1日						
	火	2日			S407講義			
	水	3日						
	木	4日						
	金	5日						
第2週	月	8日						
	火	9日						
	水	10日						
	木	11日						
	金	12日						
第3週	月	15日	祝日					
	火	16日						
	水	17日						
	木	18日			S305講義			
	金	19日						
第4週	月	22日						
	火	23日						
	水	24日						
	木	25日						
	金	26日						
第5週	月	29日						
	火	30日						
	水	31日						
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年10月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火	1日			S201・S202講義	S302実習	S406実習	
	水	2日			S210実習	S210実習	S210実習	
	木	3日			S210実習	S408講義	S410実習	
	金	4日						
第2週	月	7日						
	火	8日			S410実習	S411実習	S411実習	
	水	9日			S105講義	S207講義・演習	S208講義・演習	
	木	10日			S210・S406実習	S210・S406実習	S210・S406実習	
	金	11日						
第3週	月	14日	祝日					
	火	15日			S302実習	S210・S406実習	S210・S406実習	
	水	16日						
	木	17日			S413・S414・S503講義・演習 ※ S413は4年次の栄養管理学においても実施			
	金	18日						
第4週	月	21日						
	火	22日			S603講義・演習	S605演習	S605演習	
	水	23日			S204・S205講義・演習	S207・S303演習	S306演習	
	木	24日			S301講義	S306実習	S306実習	
	金	25日						
第5週	月	28日						
	火	29日			S203講義	S210実習	S211演習	
	水	30日			S601・S602講義	S606演習	S606演習	
	木	31日			S603演習	S606演習	S606演習	
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成25年11月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月		祝日				
	火						
	水						
	木						
	金	1日	学祭準備のため休講(補講日)				
第2週	月	4日	祝日				
	火	5日			S505実習	S606演習	S606演習
	水	6日					
	木	7日			S504講義	S505実習	S505実習
	金	8日					
第3週	月	11日					
	火	12日			S603演習	S603演習	S603演習
	水	13日			S605演習	S605演習	S605演習
	木	14日			S606演習	S606演習	S606演習
	金	15日					
第4週	月	18日			S403・S404・S405講義		
	火	19日			S411実習	S411実習	S411実習
	水	20日			S411実習	S411実習	S411実習
	木	21日			S411実習	S411実習	S411実習
	金	22日					
第5週	月	25日					
	火	26日			S701実習	S701実習	S701実習
	水	27日			S701実習	S701実習	S701実習
	木	28日			S701実習	S701実習	S701実習
	金	29日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況

学部	学科名	入試の種類		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(20年度実施)	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	264	301	208	153	187	203	
			合格者数	263	295	188	149	178	139	
			入学者数(A)	63	63	37	47	54	41	
			募集定員数(B)	65	65	65	65	65		
			A/B*100(%)	96.9%	96.9%	56.9%	72.3%	83.1%		
		大学入試センター入試	受験者数	136	176	191	174	179	184	
			合格者数	136	176	190	173	152	165	
			入学者数(A)	17	32	34	38	32	44	
			募集定員数(B)	25	30	26	26	26		
			A/B*100(%)	68.0%	106.7%	130.8%	146.2%	123.1%		
		AO入試	受験者数	24	21	23	16	23	16	
			合格者数	24	21	23	16	22	16	
			入学者数(A)	19	19	22	14	21	16	
			募集定員数(B)	15	18	16	16	16		
			A/B*100(%)	126.7%	105.6%	137.5%	87.5%	131.3%		
		附属校推薦(関連校)	受験者数	1	1	1	0	0	0	
			合格者数	1	1	1	0	0	0	
			入学者数(A)	0	1	1	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)							
		指定校推薦	受験者数	22	15	35	21	20	13	
			合格者数	22	15	35	21	20	13	
			入学者数(A)	21	15	34	21	20	13	
			募集定員数(B)	20	16	16	16	16		
			A/B*100(%)	105.0%	93.8%	212.5%	131.3%	125.0%		
		公募推薦入試	受験者数	33	20	18	15	16	10	
			合格者数	33	20	18	15	16	10	
			入学者数(A)	12	10	10	5	10	6	
			募集定員数(B)	55	42	32	32	32		
			A/B*100(%)	21.8%	23.8%	31.3%	15.6%	31.3%		
		社会人入試	受験者数	1	0	0	0	1	0	
			合格者数	1	0	0	0	1	0	
			入学者数(A)	1	0	0	0	1	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)							
		留学生入試	受験者数	0	0	2	2	1	3	
合格者数	0		0	2	2	1	3			
入学者数(A)	0		0	2	2	1	2			
募集定員数(B)	若干名		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
A/B*100(%)										
帰国生徒入試	受験者数	0	0	0	0		0			
	合格者数	0	0	0	0		0			
	入学者数(A)	0	0	0	0		0			
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名				
	A/B*100(%)									
	受験者数									
	合格者数									
	入学者数(A)									
	募集定員数(B)									
	A/B*100(%)									

学科名	入試の種類		平成21年度 入試（20年度 実施）	平成22年度 入試（21年度 実施）	平成23年度 入試（22年度 実施）	平成24年度 入試（23年度 実施）	平成25年度 入試（24年度 実施）	平成26年度 入試（25年度 実施）	募集定員数に 対する入学者 数の比率（6 年間の平均）
学 科 計		受験者数	481	534	478	381	427	429	
		合格者数	480	528	457	376	390	346	
		入学者数(A)	133	140	140	127	139	122	
		募集定員数(B)	180	180	140	140	140	140	
		A/B*100(%)	73.9%	77.8%	100.0%	90.7%	99.3%	87.1%	

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	28名
②設置基準において、必要な実務家教員数	5名

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	2	1				
語学教育	1		1			
薬学基礎教育	3	2	2	4		
専門薬学教育	10	1	3	2		
実務実習教育	2	2	2	3	1	
小計	18	6	8	9	1	
専任教員数	(42)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	1	4	37(18)	10	参与、参事、主任
法人業務関連						
小計	1	1	4	37(18)	10	
事務職員数	53 (18)					

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、（ ）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝6名のうち2名が特任）
- 4 該当する場合は、（ ）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝3名のうち1名が嘱託事務職員）
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員（例えば、いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	6(1)	11(1)	1	0	0	18(2)
	0.0%	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
准教授	0	0	0	4	2(1)	0	6(1)
	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
専任講師	0	0	0	3	5(1)	0	8(1)
	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%	100.0%
助教	0	0	0	0	6(2)	3(1)	9(3)
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%
合計	0	6(1)	11(1)	8	13(4)	3(1)	41(7)
	0.0%	14.6%	26.8%	19.5%	31.7%	7.3%	100.0%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎 週授業時間 数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科 (兼全学 科)	薬理学第1 講座	教授	やまもと りゆいち 山本 隆一	男	63	1999. 4. 1	2003. 4. 1	人間の尊厳	0.8						0.8	0.0	5.6	第一薬科大 学 卒業 医学博士
								病気を 知る	0.3					0.3	0.0			
								生理・薬理 学Ⅴ(薬理 学Ⅲ)	1.2					1.2	0.0			
								生理・薬理 学Ⅰ(薬理 学Ⅰ)	1.2					1.2	0.0			
								総合学 習Ⅱ	0.3					0.3	0.0			
								生理・薬理 学Ⅱ(薬理 学Ⅱ)		1.2				0.0	1.2			
								薬学総合 演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0			
								薬学総合 演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0			
								基礎薬学 総合演習			0.2			0.2	0.2			
								薬学総合 演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4			
								薬理学実 習					2.3	0.0	2.3			
								人間の尊 厳	0.8					0.8	0.0			
								眼薬理学	0.1	0.1				0.1	0.1			
								医療薬学 基礎演習Ⅱ			0.3			0.3	0.0			
								薬品作用 学特論Ⅰ		0.8				0.0	0.8			
薬品作用 学特論Ⅱ		0.7				0.0	0.7											
計	4.6	2.8	1.1	0.5	0.0	2.3	5.7	5.5										
薬学科	臨床薬学 第1講座	教授	もとや としろう 本屋 敏郎	男	60	2003. 4. 1	2003. 4. 1	薬物動態 学・薬物動 態学Ⅰ	1.2					1.2	0.0	7.5	熊本大学 薬学研究 科 修士課程 修了 医学博士	
								エンカ レッジ教 育	1.5					1.5	0.0			
								総合学 習Ⅲ	0.4					0.4	0.0			
								薬物治療 学Ⅱ・薬物 治療学Ⅰ		1.2				0.0	1.2			
								薬学入 門		1.2				0.0	1.2			
								薬物動態 学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								薬学総合 演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4			
								コミュニ ケーション 演習				0.5		0.0	0.5			
								薬学総合 演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0			
								薬学総合 演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0			
								基礎薬学 総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2			
								一般用薬 品学演習			0.2	0.2		0.2	0.2			
								実務実習 事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3			
								実務実習 事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0			
								臨床薬学 特論Ⅰ	1.0					1.0	0.0			
臨床薬学 特論Ⅱ	0.8					0.8	0.0											
医療薬学 基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5											
計	4.9	3.6	1.0	1.7	1.5	2.3	7.4	7.6										
薬学科	生化学講 座	教授	くろかわ まさひこ 黒川 昌彦	男	58	2004. 4. 1	2004. 4. 1	病気を 知る	1.2					1.2	0.0	6.6	富山医科 薬科大 学 薬学研究 科 博士課程 修了 薬学博士	
								細胞工 学・細胞生 物学	1.2					1.2	0.0			
								総合学 習Ⅱ	0.3					0.3	0.0			
								生化学Ⅲ		1.2				0.0	1.2			
								免疫学		1.2				0.0	1.2			
								ウイルス 学		1.2				0.0	1.2			
								薬学総合 演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0			
								薬学総合 演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0			
								基礎薬学 総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2			
								薬学総合 演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4			
								生化学実 習					2.3	2.3	0.0			
								感染症治 療薬学特 論	0.9					0.9	0.0			
								医療薬学 基礎演習Ⅱ			0.5			0.5	0.0			
								医療公衆 衛生薬学 特論		0.7				0.0	0.7			
								免疫化学 療法特論		0.8				0.0	0.8			
医療薬学 基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5											
計	3.6	5.1	1.3	1.0	2.3	0.0	7.2	6.1										
薬学科	臨床薬学 第2講座	教授	たかむら のりと 高村 徳人	男	52	2003. 4. 1	2003. 4. 1	コミュニ ケーション 論	1.5					1.5	0.0	5.5	東京薬科 大 学 卒業 薬学博士	
								総合学 習Ⅲ	0.4					0.4	0.0			
								薬物治療 学Ⅴ・薬物 治療学Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								物理化学 Ⅱ		1.2				0.0	1.2			
								薬学総合 演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0			
								薬学総合 演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0			
								基礎薬学 総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2			
								病院薬学 演習			0.2	0.2		0.2	0.2			
								薬学総合 演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4			
								実務実習 事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3			
								実務実習 事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0			
								フィジカ ルアッセ メント特 論	0.8					0.8	0.0			
								医療薬学 基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5			
								計	2.7	2.4	1.0	1.2	1.5	2.3	5.1			5.8

薬学科	薬理学第2講座	教授	ひさ ひろあき	男	57	2003.4.1	2003.4.1	生物統計学	0.6	1.2	0.3	0.2	0.4	2.3	0.0	0.6	0.0	6.0	東北大学 薬学研究科 博士課程後 期課程修了 薬学博士																
			病気を知る					1.2	1.2											0.0															
			生理・薬理学Ⅰ (薬理学Ⅰ)					1.2	1.2											0.0															
			生理・薬理学Ⅱ (薬理学Ⅱ)					1.2	1.2											0.0															
			総合学習Ⅱ					0.3	0.3											0.0															
			生理・薬理学Ⅲ (薬理学Ⅲ)						0.0											1.2															
			薬学総合演習Ⅰ						0.3											0.0															
			薬学総合演習Ⅱ						0.4											0.0															
			基礎薬学総合演習						0.2											0.2															
			薬学総合演習Ⅱ																	0.4															
			基礎薬理学実習																	2.3															
			薬学研究方法特論					0.8												0.8															
			医療薬学基礎演習Ⅱ						0.5											0.5															
			薬品作用学特論Ⅰ						0.7											0.0															
薬品作用学特論Ⅱ		0.8	0.0																																
計	5.3	2.7	1.3	0.5	2.3	0.0	8.9	3.2																											
薬学科	薬学情報学 研究室	教授	まつおか としかず	男	62	2003.4.1	2003.4.1	情報処理入門	1.5	1.2	0.4	1.2	0.0	0.0	1.5	0.0	5.4	熊本大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬学博士																	
			生物統計学					0.6	0.6										0.0																
			プレゼンテーション概論					1.2	1.2										0.0																
			メディアリテラシー					1.5	1.5										0.0																
			総合学習Ⅱ					0.3	0.3										0.0																
			医薬情報学						0.0										1.2																
			薬学総合演習Ⅱ																0.4																
			医薬情報学演習																1.2																
			薬学総合演習Ⅰ						0.3										0.3																
			薬学総合演習Ⅱ						0.4										0.4																
			基礎薬学総合演習						0.2										0.2																
			情報処理演習						1.5										1.5																
			薬学研究方法特論					0.4											0.4																
			計					5.5	1.2										2.3	1.7	0.0	0.0	7.8	2.9											
薬学科	薬剤学講座	教授	よこやま しょうこ	女	58	2003.4.1	2003.4.1	薬剤学Ⅲ	1.2	1.2	0.3	0.2	0.4	2.3	0.0	1.2	0.0	4.7	京都大学 薬学研究科 博士後期課 程修了 薬学博士																
			物理化学Ⅰ					1.2	1.2											0.0															
			総合学習Ⅲ					0.4	0.4											0.0															
			薬剤学Ⅱ						0.0											1.2															
			薬学総合演習Ⅰ						0.3											0.0															
			薬学総合演習Ⅱ						0.4											0.0															
			基礎薬学総合演習						0.2											0.2															
			薬学総合演習Ⅱ																	0.4															
			薬剤学実習																	0.0															
			応用薬剤学特論					1.4												1.4															
			医療薬学基礎演習Ⅰ						0.4											0.0															
			計					4.2	1.2											0.8	0.9	0.0	2.3	5.0	4.4										
			薬学科					医事法学 研究室	教授											まえだ かずひこ	男	52	1999.4.1	2007.4.1	法学Ⅰ	1.2	1.2	0.4	1.2	0.0	0.0	1.2	0.0	5.2	大東文化大 学法学研究 科修士課程 修了 法学修士
																				薬学と生命倫理Ⅰ					1.2	1.2									
薬事関係法規Ⅰ	1.2	1.2		0.0																															
薬事関係法規Ⅱ	1.2	1.2		0.0																															
総合学習Ⅱ	0.3	0.3		0.0																															
法学Ⅱ		0.0		1.2																															
薬学総合演習Ⅱ				0.4																															
医事法学演習				1.2																															
薬学総合演習Ⅰ		0.3		0.0																															
薬学総合演習Ⅱ		0.4		0.0																															
基礎薬学総合演習		0.2		0.2																															
医療倫理学特論	1.5			1.5																															
計	6.6	1.2		0.8	1.7	0.0	0.0			7.4	2.9																								
薬学科	衛生薬学 講座	教授		まつの こうじ	男	60	2007.4.1			2007.4.1	環境科学	1.2	0.6	0.3	0.2	0.4	2.3	0.0	1.2	0.0					6.0	長崎大学 薬学研究科 修士課程 修了 医学博士									
			乱用薬物・毒物学	0.6				0.6	0.6																										
			公衆衛生学	1.2				1.2	0.0																										
			総合学習Ⅰ	0.3				0.3	0.0																										
			衛生化学Ⅱ					0.0	1.2																										
			薬学総合演習Ⅰ	0.3				0.3	0.6																										
			薬学総合演習Ⅱ	0.4				0.4	0.7																										
			基礎薬学総合演習	0.2				0.2	0.2																										
			薬学総合演習Ⅱ	0.4					0.4																										
			衛生薬学実習						0.0																										
			臨床分析化学特論	0.6					0.6																										
			医療薬学基礎演習Ⅱ	0.5					0.5																										
			医療公衆衛生薬学特論					0.9	0.0																										
			医療薬学基礎演習Ⅰ					0.2	0.0																										
計	5.6	2.9	0.8	0.5	0.0	2.3	6.4	5.7																											

薬学科	臨床生化学講座	教授	さとう けいぞう	男	51	2009.4.1	2009.4.1	臨床検査学Ⅱ	1.2								1.2	0.0	熊本大学 医学研究科 博士課程 修了 医学博士
			病理学					1.2							1.2	0.0			
			薬学と生命倫理Ⅱ					1.2								1.2	0.0		
			生化学Ⅰ					0.9								0.9	0.0		
			先端医療学					0.6	0.6							0.6	0.6		
			臨床検査学・(臨床検査学Ⅰ)					1.2								1.2	0.0		
			総合学習Ⅱ					0.3								0.3	0.0		
			医療概論						1.2							0.0	1.2		
			腫瘍治療学						0.8							0.0	0.8		
			臨床医学概論						1.2							0.0	1.2		
			薬学総合演習Ⅱ												0.4	0.0	0.4		
			基礎薬学総合演習											0.2	0.2	0.2	0.2		
			病院薬学演習											0.2	0.2	0.2	0.2		
			薬学総合演習Ⅰ											0.3		0.3	0.0		
			薬学総合演習Ⅱ											0.4		0.4	0.0		
			実務実習事前学習Ⅱ													2.3	0.0		
			実務実習事前学習Ⅰ													1.5	0.0		
			基礎生化学実習													2.3	0.0		
			医療倫理学特論					0.7								0.7	0.0		
			感染症治療薬学特論					1.0								1.0	0.0		
			フィジカルアセスメント特論					0.8								0.8	0.0		
			医療薬学基礎演習Ⅱ											0.5		0.5	0.0		
			免疫化学療法特論						0.7							0.0	0.7		
			医療薬学基礎演習Ⅲ												0.5	0.0	0.5		
医療薬学基礎演習Ⅲ								0.5	0.0	0.5									
計	9.1	4.5	1.5	1.7	1.5	4.5	12.1	10.6	11.3										
薬学科	生薬学講座	教授	かきうち のぶこ	女	61	2010.4.1	2010.4.1	漢方治療学演習	0.3	0.3							0.3	0.3	大阪大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬学博士
			生薬学					1.2							1.2	0.0			
			総合学習Ⅰ					0.3							0.3	0.0			
			薬用植物学						1.2						0.0	1.2			
			薬学英語Ⅰ						1.2						0.0	1.2			
			薬学総合演習Ⅰ					0.3		0.3					0.6	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ					0.4		0.4					0.7	0.0			
			基礎薬学総合演習					0.2		0.2					0.3	0.2			
			薬学総合演習Ⅱ					0.4							0.4	0.4			
			生薬学実習										2.3		2.3	0.0			
			薬学研究方法特論					0.5							0.5	0.0			
			医療分子機能化学特論					0.4							0.4	0.0			
			東洋薬学特論					1.1							1.1	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅰ								0.4				0.0	0.4			
			計					5.0	2.7	0.8	0.9	2.3	0.0	8.0	3.6	5.8			
薬学科	薬化学講座	教授	やまさき てつお	男	54	2003.4.1	2006.4.1	無機化学Ⅱ	1.2								1.2	0.0	熊本大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬学博士
			生物有機化学					0.6							0.6	0.0			
			総合学習Ⅰ					0.3							0.3	0.0			
			有機化学Ⅰ						0.9						0.0	0.9			
			反応有機化学						1.2						0.0	1.2			
			薬学総合演習Ⅱ										0.4		0.0	0.4			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3				0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4				0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2			0.2	0.2			
			薬化学実習										2.3		0.0	2.3			
			薬学研究方法特論					0.5							0.5	0.0			
			医療分子機能化学特論					0.2							0.2	0.0			
			臨床分析化学特論					0.6							0.6	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅰ						0.4						0.0	0.4			
計	3.4	2.5	0.8	0.5	0.0	2.3	4.2	5.3	4.7										
薬学科	微生物学研究室	教授	わたなべ わたる	男	52	2004.9.1	2008.4.1	食品栄養学	1.2								1.2	0.0	富山医科薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 医学博士
			遺伝子工学					1.2							1.2	0.0			
			細菌学					1.2							1.2	0.0			
			総合学習Ⅱ					0.3							0.3	0.0			
			腫瘍治療学						0.4						0.0	0.4			
			衛生化学Ⅰ						1.2						0.0	1.2			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3				0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4				0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2			0.2	0.2			
			薬学総合演習Ⅱ									0.4			0.0	0.4			
			生化学実習										2.3		2.3	0.0			
			感染症治療薬学特論					0.9							0.9	0.0			
			薬学研究方法特論					0.5							0.5	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅱ					0.5							0.5	0.0			
			医療公衆衛生薬学特論						0.7						0.0	0.7			
			免疫化学療法特論						0.7						0.0	0.7			
医療薬学基礎演習Ⅲ		0.5						0.0	0.5										
計	5.8	3.5	0.8	0.5	2.3	0.0	8.9	4.0	6.4										
薬学科	分析学講座	教授	いとら きよし	男	51	2012.4.1	2012.4.1	分析化学Ⅱ	1.2								1.2	0.0	千葉大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 薬学博士
			総合学習Ⅰ					0.3							0.3	0.0			
			分析化学Ⅲ					1.2	1.2						1.2	1.2			
			薬局方概論					0.6	0.6						0.6	0.6			
			分析化学Ⅰ					1.2	1.2						1.2	1.2			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3				0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4				0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2			0.2	0.2			
			薬学総合演習Ⅱ									0.4			0.0	0.4			
			分析学実習										2.3		0.0	2.3			
			臨床分析化学特論					0.8							0.8	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅰ									0.4			0.0	0.4			
			計					5.3	3.0	0.8	0.9	0.0	2.3	6.1	6.2	6.1			

薬学科 (動物生命薬科学科)	臨床医薬品 化学研究室	教授	ながい かつゆき	男	57	2012. 9. 1	2012. 9. 1	医薬品化学	1.2						1.2	0.0	九州大学 薬学研究所 博士課程単 位取得後退 学 薬学博士
								化学Ⅱ	1.2					1.2	0.0		
								化学Ⅰ	1.2					1.2	0.0		
								総合学習Ⅰ	0.3					0.3	0.0		
								物理化学Ⅰ・生物有機化学	1.5					1.5	0.0		
								有機化学Ⅲ		1.2				0.0	1.2		
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0		
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0		
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4		
								薬化学実習					2.3	0.0	2.3		
								薬用植物学	1.5					1.5	0.0		
								化学Ⅲ	1.5					1.5	0.0		
								医療分子機能化学特論	0.5					0.5	0.0		
								臨床分析化学特論	0.6					0.6	0.0		
医療薬学基礎演習Ⅰ				0.2		0.0	0.2										
計	9.5	1.2	0.8	0.7	0.0	2.3	10.3	4.2	7.2								
薬学科	臨床薬学 第3講座	教授	すずき あきと	男	48	2003. 4. 1	2012. 10. 1	治験コーディネーター論	1.2						1.2	0.0	九州大学 医学系研究 科 博士課程 修了 博士(医学)
								総合学習Ⅲ	0.4					0.4	0.0		
								早期体験学習		1.2				0.0	1.2		
								処方薬科学Ⅱ・薬物治療学Ⅱ		1.2				0.0	1.2		
								薬局方概論		0.6				0.0	0.6		
								栄養管理学		1.2				0.0	1.2		
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4		
								ヒューマンレジメンテーション演習			0.3	0.3		0.3	0.3		
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0		
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0		
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								実務実習事前学習Ⅱ					1.5	0.0	2.3		
								実務実習事前学習Ⅰ						1.5	0.0		
								医療倫理学特論	0.7					0.7	0.0		
								臨床薬学特論Ⅰ	0.6					0.6	0.0		
								応用薬理学特論	1.2					1.2	0.0		
								臨床薬学特論Ⅱ	0.8					0.8	0.0		
医療薬学基礎演習Ⅰ				0.3		0.0	0.3										
医療薬学基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5										
計	4.9	4.2	1.1	1.6	1.5	2.3	7.5	8.1	7.8								
薬学科	東洋医薬学 研究室	教授	てい へいきん	男	62	2007. 4. 1	2012. 10. 1	漢方治療学	1.2						1.2	0.0	天津中医薬 大学 博士課程 修了 医学博士
								くすりの歩み	1.2					1.2	0.0		
								総合学習Ⅰ	0.3					0.3	0.0		
								和漢薬学		1.2				0.0	1.2		
								東洋医薬学		1.2				0.0	1.2		
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4		
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0		
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0		
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								漢方治療学演習			0.3	0.3		0.3	0.3		
								生薬学実習					2.3	2.3	0.0		
								東洋医薬学特論	0.9					0.9	0.0		
								医療薬学基礎演習Ⅰ				0.4		0.0	0.4		
計	3.6	2.4	1.1	1.2	2.3	0.0	7.0	3.6	5.3								
薬学科	環境保健 薬学研究室	教授	しらさき てつや	男	51	2013. 4. 1	2013. 4. 1	薬学数学	0.8						0.8	0.0	東北大学 医学研究科 博士課程 修了 博士(医学)
								放射化学・薬品学	1.2					1.2	0.0		
								物理学Ⅱ	0.3					0.3	0.0		
								薬学数学演習				0.5		0.0	0.5		
								衛生薬学実習					2.3	0.0	2.3		
								計	2.3	0.0	0.0	0.5	0.0	2.3	2.3	2.8	
薬学科	臨床薬学 第1講座	准教授	かわち あきお	男	43	2004. 4. 1	2009. 4. 1	調剤学		1.2					0.0	1.2	鹿児島大学 医学研究科 修了 博士(医学)
								一般用医薬品学	1.2					1.2	0.0		
								総合学習Ⅲ	0.4					0.4	0.0		
								薬局経営管理学	0.6	0.6				0.6	0.6		
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0		
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0		
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								一般用医薬品学演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4		
								コミュニケーション演習				0.5		0.0	0.5		
								実務実習事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3		
								実務実習事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0		
								臨床薬学特論Ⅰ	0.6					0.6	0.0		
								臨床薬学特論Ⅱ	0.8					0.8	0.0		
医療薬学基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5										
計	3.6	1.8	1.0	1.7	1.5	2.3	6.1	5.8	5.9								
薬学科	分析学講座	准教授	おおかわら すずむ	男	44	2011. 9. 1	2011. 9. 1	機器分析学	1.2						1.2	0.0	北陸大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士(薬学)
								化学Ⅱ	1.2					1.2	0.0		
								化学Ⅰ	1.2					1.2	0.0		
								総合学習Ⅰ	0.3					0.3	0.0		
								応用機器分析学		1.2				0.0	1.2		
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0		
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0		
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2		
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4		
								分析学実習					2.3	0.0	2.3		
								臨床分析化学特論	0.6					0.6	0.0		
								医療薬学基礎演習Ⅰ				0.4		0.0	0.4		
								計	4.5	1.2	0.8	0.9	0.0	2.3	5.3	4.4	

薬学科	臨床薬学第2講座	准教授	とくなが じん	男	44	2003.4.1	2009.4.1	薬物治療学Ⅱ・処方薬学Ⅰ	1.2						1.2	0.0	熊本大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士(薬学)
			外書講読Ⅲ					1.5					1.5	0.0			
			生物学Ⅱ					1.2					1.2	0.0			
			総合学習Ⅲ					0.4					0.4	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.0	0.4			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3		0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2	0.2	0.2			
			病院薬学演習								0.2	0.2	0.2	0.2			
			実務実習事前学習Ⅱ										2.3	0.0	2.3		
			実務実習事前学習Ⅰ										1.5	1.5	0.0		
			フィジカルアセスメント特論					0.8						0.8	0.0		
			臨床分析化学特論					0.6						0.6	0.0		
			計					5.7	0.0	1.0	1.5	1.5	2.3	8.1	3.7	5.9	
薬学科	生物薬学研究室	准教授	ととりべ なおこ	女	38	2004.4.1	2012.4.1	キャリア教育	1.3						1.3	0.0	武庫川女子 大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博士(薬学)
			理科系作文法Ⅱ						1.2					0.0	1.2		
			生物学Ⅰ					1.2					1.2	0.0			
			総合学習Ⅱ					0.3					0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.0	0.4			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3		0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2	0.2	0.2			
			薬理学実習										2.3	0.0	2.3		
			基礎薬理学実習										2.3	0.0	2.3		
			眼薬理学					0.5	0.5				0.5	0.5			
			医療薬学基礎演習Ⅱ							0.5			0.5	0.0			
			薬品作用学特論Ⅰ					0.7					0.7	0.0			
			薬品作用学特論Ⅱ					0.7					0.7	0.0			
計	4.7	1.7	1.3	0.5	2.3	2.3	8.3	4.5	6.4								
薬学科	生薬学講座	准教授	おおつか いさお	男	39	2004.4.1	2013.4.1	天然医薬品化学Ⅱ	1.2						1.2	0.0	共立薬科大 学 薬学研究科 博士課程 修了 博士(薬学)
			天然医薬品化学Ⅰ						1.2					0.0	1.2		
			総合学習Ⅰ					0.3					0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.0	0.4			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3		0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2	0.2	0.2			
			生薬学実習										2.3	0.0	2.3		
			医療分子機能化学特論					0.4					0.4	0.0			
			応用薬剤学特論					1.2					1.2	0.0			
			東洋医薬学特論					0.9					0.9	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅰ								0.4		0.0	0.4			
			計					4.0	1.2	0.8	0.9	2.3	0.0	7.1	2.1	4.6	
			薬学科					薬理学第1講座	准教授	がもう しゅうじ	男	45	2010.5.1	2013.4.1	キャリア教育	0.7	
病気を知る	0.3						0.3			0.0							
物理学Ⅰ	0.9						0.9			0.0							
機能形態学Ⅲ	0.6						0.6			0.0							
総合学習Ⅱ	0.2						0.2			0.0							
機能形態学Ⅰ		1.2					0.0			1.2							
外書講読Ⅰ		1.2					0.0			1.2							
薬学総合演習Ⅰ					0.3		0.3			0.0							
薬学総合演習Ⅱ					0.4		0.4			0.0							
基礎薬学総合演習					0.2	0.2	0.2			0.2							
薬学総合演習Ⅱ						0.4	0.0			0.4							
薬理学実習							2.3			0.0					2.3		
眼薬理学	0.5	0.5					0.5			0.5							
薬学研究方法特論	0.3						0.3			0.0							
医療薬学基礎演習Ⅱ			0.5			0.5	0.0										
薬品作用学特論Ⅰ		0.7				0.0	0.7										
薬品作用学特論Ⅱ		0.7				0.0	0.7										
計	3.5	4.3	1.3	0.5	0.0	2.3	4.8	7.1	5.9								
薬学科	薬剤学講座	講師	つつみ としひこ	男	49	2003.4.1	2003.4.1	薬剤学Ⅰ		1.2					0.0	1.2	徳島大学 薬学研究科 博士課程後 期修了 薬学博士
			薬学英語Ⅱ						1.2					0.0	1.2		
			外書講読Ⅱ					1.2					1.2	0.0			
			総合学習Ⅲ					0.4					0.4	0.0			
			薬学総合演習Ⅰ								0.3		0.3	0.0			
			薬学総合演習Ⅱ								0.4		0.4	0.0			
			基礎薬学総合演習								0.2	0.2	0.2	0.2			
			薬学総合演習Ⅱ									0.4	0.0	0.4			
			薬剤学実習										2.3	0.0	2.3		
			応用薬剤学特論					1.3					1.3	0.0			
			医療薬学基礎演習Ⅰ								0.4		0.0	0.4			
			計					2.9	2.4	0.8	0.9	0.0	2.3	3.7	5.6	4.6	

薬学科 (臨床工 学科)	薬理学 第2講座	講師	むとう じゅんべい 武藤 純平	男	36	2005. 4. 1	2007. 4. 1	機能形態学Ⅲ	0.8						0.8	0.0	九州大学 薬学府 博士課程 修了 博士(薬学)									
								総合学習Ⅱ	0.3					0.3	0.0											
								機能形態学Ⅱ		1.2				0.0	1.2											
								応用薬理学		1.2				0.0	1.2											
								薬学総合演習Ⅰ	0.3		0.3			0.6	0.0											
								薬学総合演習Ⅱ	0.4		0.4			0.7	0.0											
								基礎薬学総合演習	0.2		0.2	0.2		0.3	0.2											
								薬学総合演習Ⅱ	0.4			0.4		0.4	0.4											
								基礎薬理学実習					2.3	2.3	0.0											
								臨床薬理学		1.5				0.0	1.5											
								眼薬理学	0.3	0.3				0.3	0.3											
								医療薬学基礎演習Ⅱ			0.5			0.5	0.0											
								薬品作用学特論Ⅰ		0.7				0.0	0.7											
								薬品作用学特論Ⅱ		0.7				0.0	0.7											
計	2.5	5.6	1.3	0.5	2.3	0.0	6.0	6.1	6.0																	
薬学科	臨床薬学 第2講座	講師	おがた けんじ 緒方 賢次	男	40	2008. 4. 1	2008. 4. 1	基礎薬物動態学		1.2					0.0	1.2	九州大学 薬学府 博士課程 単位取得後 退学 博士(薬学)									
								薬物治療学Ⅰ・薬物治療学Ⅲ	1.2					1.2	0.0											
								総合学習Ⅲ	0.4					0.4	0.0											
								医薬品開発論		1.2				0.0	1.2											
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4											
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0											
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0											
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2											
								病院薬学演習			0.2	0.2		0.2	0.2											
								実務実習事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3											
								実務実習事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0											
								フィジカルアセスメント特論	0.8					0.8	0.0											
								医療薬学基礎演習Ⅲ			0.5			0.0	0.5											
								計	2.4	2.4	1.0	1.2	1.5	2.3	4.8	5.8		5.3								
薬学科	臨床薬学 第1講座	講師	そのだ じゅんいちろう 園田 純一郎	男	46	2009. 4. 1	2009. 4. 1	食品医薬品相互作用論	0.6	0.6					0.6	0.6	鹿児島大学 医学研究科 博士課程 単位取得後 退学 博士(医学)									
								薬物治療学Ⅳ	1.2					1.2	0.0											
								総合学習Ⅲ	0.4					0.4	0.0											
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0											
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0											
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2											
								一般用医薬品学演習			0.2	0.2		0.2	0.2											
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4											
								コミュニケーション演習				0.5		0.0	0.5											
								実務実習事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0											
								実務実習事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3											
								薬理学	1.5					1.5	0.0											
								臨床薬学特論Ⅰ	0.6					0.6	0.0											
								臨床薬学特論Ⅱ	0.8					0.8	0.0											
医療薬学基礎演習Ⅲ			0.5			0.0	0.5																			
計	5.1	0.6	1.0	1.7	1.5	2.3	7.6	4.6	6.1																	
薬学科	薬化学講座	講師	わたなべ あきこ 渡邊 暁子	女	38	2004. 4. 1	2006. 4. 1	有機化学Ⅳ・有機合成化学		1.2					0.0	1.2	九州大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士(薬学)									
								無機化学Ⅰ		1.2				0.0	1.2											
								有機化学Ⅱ	1.2					1.2	0.0											
								総合学習Ⅰ	0.3					0.3	0.0											
								薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0											
								薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0											
								基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2											
								薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4											
								薬化学実習					2.3	0.0	2.3											
								医療分子機能化学特論	0.5					0.5	0.0											
								計	2.0	2.4	0.8	0.5	0.0	2.3	2.8	5.2		4.0								
								薬学科	臨床薬学 第3講座	講師	ひだか むねあき 日高 宗明	男	37	2007. 4. 1	2009. 4. 1	薬学数学		0.8						0.8	0.0	熊本大学 薬学教育部 博士課程 修了 博士(薬学)
																製剤学		1.2					1.2	0.0		
																物理学Ⅱ		1.2					1.2	0.0		
総合学習Ⅲ	0.4					0.4	0.0																			
早期体験学習		1.2				0.0	1.2																			
腫瘍治療学		0.4				0.0	0.4																			
薬学総合演習Ⅱ				0.4		0.0	0.4																			
セミナー/ゼミ演習			0.3	0.3		0.3	0.3																			
薬学総合演習Ⅰ			0.3			0.3	0.0																			
薬学総合演習Ⅱ			0.4			0.4	0.0																			
基礎薬学総合演習			0.2	0.2		0.2	0.2																			
実務実習事前学習Ⅱ					2.3	0.0	2.3																			
実務実習事前学習Ⅰ					1.5	1.5	0.0																			
臨床薬学特論Ⅰ	0.6					0.6	0.0																			
応用薬剤学特論	1.3					1.3	0.0																			
臨床薬学特論Ⅱ	0.8					0.8	0.0																			
医療薬学基礎演習Ⅰ				0.3		0.0	0.3																			
医療薬学基礎演習Ⅲ				0.5		0.0	0.5																			
計	6.2	1.6	1.1	1.6	1.5	2.3	8.8	5.4	7.1																	

薬学科	生化学講座	講師	よしだ ひろき	男	34	2007.10.1	2012.4.1	基礎生化学	0.3	1.2						0.0	1.2					熊本大学 薬学教育部 博士課程 修了 博士(薬学)								
			総合学習Ⅱ					0.3															0.0							
			生化学Ⅱ					1.2															0.0							
			薬学総合演習Ⅰ					0.3															0.0							
			薬学総合演習Ⅱ					0.4															0.0							
			基礎薬学総合演習					0.2															0.2							
			薬学総合演習Ⅱ					0.4															0.0							
			生化学実習																				2.3							
			医療薬学基礎演習Ⅱ					0.5															0.0							
			免疫化学療法特論					0.7															0.0							
計	0.3	3.1	1.3	0.5	2.3	0.0	3.9	3.6	3.7																					
薬学科	衛生薬学講座	講師	かい ひさひろ	男	34	2008.10.1	2013.4.1	理科系作文法Ⅰ	0.3	1.1						1.2	0.0					明治薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士(薬学)								
			総合学習Ⅰ					0.3															0.0							
			薬物代謝学					0.0															1.1							
			薬学総合演習Ⅰ					0.3															0.0							
			基礎薬学総合演習					0.2															0.2							
			化学演習Ⅰ					0.6															0.0							
			薬学総合演習Ⅱ																				0.4							
			化学演習Ⅱ																				0.3							
			衛生薬学実習																											
			計					1.5															1.1	1.1	0.8	0.0	2.3	2.6	4.2	3.4
薬学科	生薬学講座	助教	あつみ としゆき	男	30	2012.4.1	2012.4.1	生薬学	0.3							0.3	0.0					金沢大学 自然科学研究科 博士前期課程 修了 修士(薬学)								
			総合学習Ⅰ					0.3															0.0							
			化学演習Ⅰ																				0.6							
			化学演習Ⅱ																				0.3							
			生薬学実習																											
計	0.6	0.0	0.9	0.3	2.3	0.0	3.8	0.3	2.0																					
薬学科	薬理学第1講座	助教	かない たすく	男	31	2009.4.1	2012.4.1	物理学Ⅰ	0.4							0.4	0.0					宮崎大学 医学系研究科 修士課程 修了 修士(医学)								
			総合学習Ⅱ					0.3															0.0							
			計					0.7															0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4
薬学科	臨床薬学第1講座	助教	なるみ けいこ	女	35	2009.4.1	2012.4.1	生物学Ⅰ	1.2							1.2	0.0					熊本大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 修士(薬学)								
			総合学習Ⅲ					0.4															0.0							
			実務実習事前学習Ⅰ																											
			実務実習事前学習Ⅱ																											
計	1.6	0.0	0.0	0.0	3.8	2.3	5.3	2.3	3.8																					
薬学科	臨床生化学講座	助教	しんや とむひろ	男	30	2009.4.1	2012.4.1	生化学Ⅰ	0.3							0.3	0.0					摂南大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 修士(薬学)								
			総合学習Ⅱ					0.3															0.0							
			基礎生化学実習					2.3															2.3							
			計					2.9															0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.9	2.3	2.6
薬学科	分析学講座	助教	こやま ひろなり	男	31	2009.9.1	2012.4.1	総合学習Ⅰ	0.3							0.3	0.0					帝京大学 薬学研究科 修士課程 修了 修士(薬学)								
			化学演習Ⅰ					0.6															0.0							
			化学演習Ⅱ																				0.3							
			薬学数学演習																				0.5							
			分析学実習																											
計	0.9	0.8	0.0	2.3	0.0	0.0	0.9	3.1	2.0																					
薬学科	薬化学講座	助教	たんだ かずひろ	男	29	2009.9.1	2012.4.1	生物有機化学	0.3							0.3	0.0					九州大学 薬学府 修士課程 修了 修士(薬学)								
			総合学習Ⅰ					0.3															0.0							
			有機化学Ⅰ																				0.3							
			化学演習Ⅰ																				0.6							
			化学演習Ⅱ																				0.3							
			薬化学実習																											
計	0.6	0.3	0.0	0.9	0.0	2.3	0.6	3.5	2.0																					
薬学科	臨床薬学第2講座	助教	せとぐち なお	女	33	2009.4.1	2013.4.1	実務実習事前学習Ⅱ	1.5	2.3						0.0	2.3					九州保健福祉大学保健科学研究科 博士(後期)課程 修了 博士(保健科学)								
			実務実習事前学習Ⅰ					1.5															0.0							
			病院薬学演習					0.2															0.2							
			計					1.7															2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	2.4	2.0
薬学科	生化学講座	助教	すぎた ちひろ	女	28	2013.4.1	2013.4.1	生化学実習	2.3	2.3						2.3	2.3					宮崎大学 医学系研究科 博士課程 修了 博士(医学)								
			計					2.3															2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	2.3
薬学科	臨床薬学第3講座	助教	おだ ゆういちろう	男	25	2013.4.1	2013.4.1	実務実習事前学習Ⅰ	1.5							1.5	0.0					九州保健福祉大学 卒業 学士(薬学)								
			早期体験学習					1.2															1.2							
			実務実習事前学習Ⅱ					2.3															2.3							
			計					1.5															3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.5	2.5
薬学科	臨床薬学第1講座	助手	とみしげ えりさ	女	29	2008.12.1	2008.12.1									0.0	0.0					九州保健福祉大学 卒業 学士(薬学)								
								0.0															0.0							
								0.0															0.0							
			計					0.0															0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例:1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例:実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。)また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例:前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数 120 名

6年生の在籍学生数 155 名

	配属講座・研究室名	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	配属学生1名当 たりの研究室の 広さ (m ²)
1	生薬学講座	3	8	11	19	6.37
2	衛生薬学講座	2	9	10	19	6.47
3	分析学講座	3	9	12	21	5.76
4	薬化学講座	3	8	11	19	6.47
5	薬理学第Ⅰ講座	3	9	11	20	6.05
6	薬理学第Ⅱ講座	2	8	12	20	6.15
7	生化学講座	3	9	12	21	5.86
8	臨床生化学講座	2	9	12	21	5.76
9	薬剤学講座	2	9	11	20	6.05
10	臨床薬学第Ⅰ講座	5	8	11	19	6.37
11	臨床薬学第Ⅱ講座	4	7	12	19	6.47
12	臨床薬学第Ⅲ講座講座	3	7	10	17	7.24
13	微生物学研究室	1	4	5	9	2.58
14	臨床医薬品化学研究室	1	4	0	4	5.80
15	医事法学研究室	1	3	5	8	2.90
16	薬学情報学研究室	1	2	5	7	3.31
17	生物薬学研究室	1	4	0	4	5.80
18	東洋医薬学研究室	1	3	5	8	3.06
19	環境保健薬学研究室	1	0	0	0	—
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
	合計	42	120	155	275	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとってない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積 (㎡) (A)	専用・共 用の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人 当たり面積 (㎡) (A/B)	備考
延岡キャンパス (全学共通)	講義室	4	1,251.34	専用		938	1.33	
		29	3,116.46	共用	2,669	1,945	1.60	社会福祉学部(学生数450)、保健科学部(学生数529)、薬学部動物生命薬科学科(学生数122)
	情報処理室	1	62.40	専用		938	0.07	
		1	192.38	共用	50	1,945	0.10	社会福祉学部(学生数450)、保健科学部(学生数529)、薬学部動物生命薬科学科(学生数122)
	LL教室	1	108.80	共用	54	1,945	0.06	社会福祉学部(学生数450)、保健科学部(学生数529)、薬学部動物生命薬科学科(学生数122)
	医務室(相談室(1)(2))	1	87.15	共用		1,945	0.05	社会福祉学部(学生数450)、保健科学部(学生数529)、薬学部動物生命薬科学科(学生数122)
	ラーニングサポートセンター	1	121.20	共用		1,945	0.06	社会福祉学部(学生数450)、保健科学部(学生数529)、薬学部動物生命薬科学科(学生数122)
	演習室	4	550.00	専用				
	模擬調剤薬局	1	135.00	専用				
	模擬病院薬局	1	163.00	専用				
	準備室	4	133.70	専用				
	ベッドサイト実習室	1	134.00	専用				
	機器室	1	19.50	専用				
	NMR室	1	31.70	専用				
	実験室	1	19.00	専用				
	洗浄室	1	19.00	専用				
	飼育室	4	55.20	専用				
	危険物倉庫	1	36.00	専用				
	廃水処理施設	1	56.68	専用				
	細胞培養室1	1	29.30	専用				
	細胞培養室2	1	26.50	専用				
	第1会議室	1	72.50	専用				
	中央機器室	1	49.70	専用				
	サーバー室	1	9.70	専用				
	機器分析室1	1	29.30	専用				
	機器分析室2	1	26.50	専用				
	研究室	3	73.50	専用				
	研究室A	12	300.00	専用				
	研究室B	12	300.00	専用				
	研究室C	12	864.00	専用				
	研究室D	5	116.00	専用				
	共同研究室	1	32.07	専用				
	生薬保管庫	1	23.20	専用				
共同実験室1	1	48.32	専用					
共同実験室2	1	46.20	専用					
第1実習室A	1	335.96	専用					
第1実習室B	1	335.96	専用					

第2実習室A	1	335.96	専用				
第2実習室B	1	335.96	専用				
第3実習室A	1	357.66	専用				
第3実習室B	1	335.96	専用				
実習準備室	12	400.25	専用				
ロッカー室	2	129.00	専用				
ロッカールームA	1	85.50	専用				
ロッカールームB	1	45.00	専用				

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にも
 - 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
中央図書館	268	2,675	10.0				学 部 : 2,659人 大学院 : 16人
〇〇図書室							ただし、学生収容定員数に 通信教育部・通信制大学院 の定員を含めず
計	268	2,675	10.0	0	0	0	

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成22年度	平成23年度	平成24年度	
中央図書館	69,650	66,807	210	175	678	22	1,656	1,562	2,519	
計	69,650	66,807	210	175	678	22	1,656	1,562	2,519	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第1	職名 教授	氏名 山本 隆一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 生理・薬理学教育においては、疾病を中心とした病態生理学の知識および薬物の治療効果を解説している。薬学部での教育目的は、コアカリキュラムに従い、臨床の場で使用される薬物の効果また危険性などについて理解させることにある。(受講生の80%を超える学生が、授業案ケートで最高点をつけている)		～平成25年度	生理薬理学では、生理・薬理学全般にわたる重要な基礎事項について、学生の自主的な学習にもとづき解説し、臨床において用いる薬物について臨床薬理学の観点からも種類、各々の作用機序、適応、注意事項などについて毎年改定するレジュメを配布して系統的に講義している。
2 作成した教科書、教材、参考書 (著書) 新薬理学テキスト 【第3版】 生理・薬理学Ⅰ (～平成25年度) 講義配布資料 生理・薬理学Ⅲ (～平成25年度) 講義配布資料 生理・薬理学Ⅴ (～平成54年度) 講義配布資料		～平成25年度	学生が主体的に学ぶことができるように、教材は講義に先立ち各課題に対して質問形式の教材を与えている。この教材では、手順にそって調べていくことにより勉強のしかた・なにが重要かなど学ぶことができ、疾病と薬について有機的に捉えることが可能となると考えている。また、薬物の視機能に対する効果をグループで検討できるよう教材をスライドやデジタルビデオを用いて自主作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 講演「薬学部の学び・薬剤師の仕事」		～平成25年度	大分県立臼杵高校、宮崎学園高校の1、2年生を対象に、薬学部で学ぶ内容や、将来の業務などについて講演を行った。(入試広報からの依頼業務)
4 その他教育活動上特記すべき事項 演題「模擬患者および患者シミュレータを用いた新たな薬学教育」		平成24年7月1日	医学教育学会で薬学教育の取り組みについての講演をおこなった。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 新薬理学テキスト 【第3版】	共著	2011年2月	廣川書店 (233-278頁)
(論文) Rho-kinase, but not protein kinase C, is involved in generation of the spontaneous tone in the resting phase of the isolated pig iris sphincter muscle.	共著	2009年3月	Curr Eye Res. 34(3):177-83.
(論文) The defective protein level of myosin light chain phosphatase (MLCP) in the isolated saphenous vein, as a vascular conduit in coronary artery bypass grafting (CABG), harvested from patients with diabetes mellitus (DM).	共著	2011年8月	Biochem Biophys Res Commun. 412(2):323-7.
(論文) Insulin induces internalization of the plasma membrane 5-hydroxytryptamine2A (5-HT2A) receptor in the isolated human endothelium-denuded saphenous vein via the phosphatidylinositol 3-kinase pathway.	共著	2012年2月	J Pharmacol Sci. 118(2):178-85.

(総説) 5-Hydroxytryptamine receptors as targets for drug therapies of vascular-related diseases.	共著	2013年9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 36(9) :1410-15.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
昭和48年1月～現在	日本薬理学会会員		
昭和48年1月～現在	日本薬学会会員		
昭和62年1月～現在	日本脈管作働物質学会会員		
昭和63年3月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成13年4月～現在	日本眼薬理学会会員		
平成15年4月～現在	日本薬剤師会会員		
平成16年12月～現在	日本バイオイメージング学会会員		
平成17年8月～平成23年3月	都市エリア産学官連携促進事業における「共同研究推進会議」委員		
平成18年2月～現在	日本薬学会代議員		
平成19年4月～平成21年3月31日	日本薬剤師会学術大会大会副委員長		
平成19年4月～平成20年3月	日本薬学会九州支部副支部長		
平成19年4月～現在	宮崎県衛生環境研究所調査研究評価員委員		
平成20年4月～平成21年3月	日本薬学会九州支部支部長		
平成21年9月～平成23年3月	ふるさと雇用再生特別基金事業・チョウザメ・ブランド化事業に係る実行委員会委員		
平成22年4月～現在	日本脈管作働物質学会評議員		
平成22年7月～現在	宮崎県産業クラスター推進協議会企画運営委員会委員		
平成22年8月～現在	宮崎県産業科学技術振興指針策定委員会委員		
平成23年2月～現在	宮崎県ジェネリック医薬品安全使用促進協議会会長		
平成23年4月～現在	延岡市国民健康保険運営協議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第1	職名 教授	氏名 本屋敏郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年5月17日 平成25年7月10日	ワールドカフェ導入による食育学習 高齢者をテーマとした短歌制作による思いやりの心醸成
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月10日 平成25年2月10日 平成25年3月15日	今日のOTC薬(改訂第2版)、共著、南江堂 薬物治療学(改訂2版)、共著、南山堂 薬の生体内運命(改訂5版)、共著、ネオメディ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成21年8月30日 平成21年11月23日 平成23年11月12日	今後の薬剤業務に対する薬学教育の関わり方、日本病院薬剤師会関東ブロック第39回学術大会(長野) 6年制薬学部臨床薬学教育、第71回九州山口薬学大会(別府) 初年度実務実習形成評価によって見えてきたもの、第73回九州山口薬学大会(沖縄)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床経験 26年		平成16年4月1日～ 平成24年3月31日	九州地区実務実習調整機構委員及び学内実務実習委員会委員長として、臨床薬学実習環境構築と実習運営に従事
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
薬学部における模擬保険薬局実習の導入とその評価	共著	平成20年7月	日本薬剤師会雑誌(第60巻第7号)
実務実習事前学習としての「OTC薬実習」の導入と実習満足度に影響を及ぼす学習構造	共著	平成21年1月	医療薬学(第35巻第1号)
実務実習事前学習における「薬局製剤実習」の実施とその評価	共著	平成22年11月	医療薬学(第36巻第11号)
薬学教育における「ジェネリック医薬品実習」の実施とその効果	共著	平成25年10月	医療薬学(第39巻第10号)
Simultaneous detection of green tea catechins and gallic acid in human serum after ingestion of green tea tablets using ion-pair high-performance liquid chromatography with electrochemical detection.	共著	平成26年1月	Journal of chromatography B vol. 945-946
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年 1月～平成21年 8月	日本医療薬学会評議員		
平成21年 9月～現在	日本医療薬学会代議員		
平成16年10月～平成24年 3月	九州山口薬学会理事		
平成24年 4月～現在	九州山口薬学会監事		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 黒川 昌彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20～25年	薬学教育モデル、コアカリキュラムに準じて、教科毎に要点をまとめたPower pointスライドを作成している。講義では、このスライドをもとにOHC、プリントを補助として、学生が要点、問題点を把握できやすいように講義を行っている。また、講義では学生に考えさせ、かつ、考えたことを発表できるようにすることを常に心がけ、質疑応答の機会を多くし、講義終了前10分間で講義内容に関する小テストを行うことにより、学生に知識の反復学習を行っている。さらに、各教科で理解が不十分と考える学生については、学生の意志を尊重し時間外における個人学習（授業）を定期的に行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
免疫疾患とその治療法、わかりやすい免疫学（共著）	平成20年2月	感染症における免疫疾患、アレルギー（過敏症）と自己免疫疾患、ワクチン、生物学的製剤について概説した。	
ウイルス学総論、感染症と臨床検査、病原ウイルス各論、抗ウイルス薬、感染症に用いられる生物学的製剤、薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学第2版）（共著）	平成21年4月	ウイルス感染症について、起因ウイルス、病態、抗ウイルス薬、抗ウイルス薬の安全性等について概説した。	
ウイルス、CBT対策と演習 微生物学・免疫学（共著）	平成21年11月	ウイルスの性状、感染症、抗ウイルス薬、抗ウイルス薬の安全性等についての要点をまとめ、問題を提示した。	
遺伝子工学、コンパンス分子生物学（共著）	平成22年4月	組換えDNA技術、遺伝子クローニング法、遺伝子ライブラリー、組換えDNA指針、遺伝子取り扱いに関する安全性と倫理について概説した。	
アレルギー、薬系 免疫学 第2版（共著）	平成24年9月15日	アレルギーの種類、その機序や特徴的疾患を概説した。	
第6巻 薬と疾病 Ⅲ.薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報”第28章、第2版、スタンダード薬学シリーズ（共著）	平成24年12月14日	抗ウイルス薬の種類、機序、用法等を概説した。	
“第12巻 遺伝子工学”、薬学領域の生化学 改訂版（共著）	平成25年8月1日	組換えDNA技術、遺伝子クローニング法、遺伝子ライブラリー、組換えDNA指針、遺伝子取り扱いに関する安全性と倫理について概説した。	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
ウイルス感染動物を用いたQOL増進要因の解析（サプリメント医療薬学研究会シンポジウム、千葉）	平成21年9月	サプリメントの有効性が問題となっている中で、ウイルス感染動物モデルを用いて免疫学的にサプリメントの安全性、有効性を評価できる方法を説明し、実際のサプリメントのウイルス感染症に対する有効性を明らかにした事例を紹介	
インフルエンザウイルス感染マウスに対する韓国生薬の治療効果（韓国漢方医痛症剤形学会国際カンファレンスシンポジウム、ソウル）	平成22年6月	韓国で用いられている伝統的な処方生薬に抗インフルエンザウイルス効果があること、また、その安全性をインフルエンザウイルス感染動物モデルを用いて立証したので、その結果を韓国医、薬剤師を対象に発表、報告した。	
QOLに影響するサプリメントや健康食品～予防医学の担い手としての柔道整復師～（日本柔道整復接骨医学会学術大会、社会医療分科委員会フォーラムシンポジウム）	平成22年9月	国民健康保持の一翼を担う柔道整復師として、地域の保健医療活動の中でプライマリケアを推進して行くためにも、サプリメントや健康食品はもとより、産業廃棄物等からの環境有害物質についてもそれらの有効性、安全性や使用方法に関して正しいアドバイスができるようになることが必要である。このため、サプリメントや健康食品の安全性、有効性を正しく評価できる方法として、ウイルス感染動物モデルを紹介して、サプリメント、健康食品に対する安全性、有効性を見極める目を持つことの大切さを啓蒙した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 日本薬学会第3回薬学教育のためのアドバンスワークショップ（東京、府中）に参加	平成25年 10月12～14日	Outcome-based educationの概念で作成された新コアカリに則した新カリキュラムの作成法を勉強した。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Modulation of cytokine production by 7-hydroxycoumarin in vitro and its efficacy against influenza infection in mice.	共著	2010年	Antiviral Res., 85, 373-380.
(論文) Development of new antiviral agents from natural products.	共著	2010年	Open Antimicrobial Agents Journal, 2, 49-57.
(論文) Efficacy of Brazilian propolis against herpes simplex virus type 1 infection in mice and their modes of anti-herpetic efficacies.	共著	2011年	Evid. Based. Complement. Alternat. Med., Volume 2011, Article ID 976196.
(論文) Efficacy of oral administration of heat-killed probiotics from Mongolian dairy products against influenza infection in mice: Alleviation of influenza infection by its immunomodulatory activity through intestinal immunity.	共著	2011年	Int. Immunopharmacology, 11, 1976-1983
(論文) Citrus flavonoid naringenin inhibits TLR2 expression in adipocytes.	共著	2013年	Journal of Nutritional Biochemistry, 24, 1276-1284
III 学会等および社会における主な活動			
昭和52年4月～	日本薬学会会員		
平成11年8月～	和漢医薬学会評議員		
平成16年4月～	日本社会医療学会会員		
平成17年4月～	日本ウイルス学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第2
職名	教授	氏名	高村徳人
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 1) 「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(=医療人GP)」取組責任者(平成21年3月まで) 2) オンデマンド講義「薬のあゆみ」の公開 3) フィジカルアセスメントシミュレータを用いたベッドサイド教育法 4) 薬学的分布診断法に関する実習 5) 心臓疾患シミュレータを用いたベッドサイド教育法	平成18年10月～平成21年3月 平成21年5月 平成22年5月 平成21年9月 平成22年5月	様々なシュミレータや実習人形を用いて薬物投与技術、フィジカルアセスメントおよび救命救急技術に関する新たなベッドサイド実習法を探索し構築した。さらに、実習人形に関しては薬学用として薬物投与を行えるように改良も行った。 本大学関連大学の学生に対しwebを利用したオンデマンド講義があるが、その中で「薬のあゆみ」の1コマ(90分)で薬学的分布診断法を解説している。履修した学生に対しインターネット上で公開を行っている。便利で理解しやすいとの意見がある。 主に不整脈脈の触知をシミュレータで体験させ、脈拍と心電図の関係をパネルを用いて解説している。医療技術の進歩には心電図という道具の存在が大きいことも教授している(6年制4年次前期)。楽しく理解しやすいとの意見がある。 独自で開発した薬学的分布診断法(薬物投与タイミング、栄養状態、炎症・感染、血圧、浮腫などを把握する薬学的診断法)を6年制4年次後期の実習に取り込んでいる。医療技術の進歩には薬学の研究成果を基に築かれる技術とそれを行うための道具の存在が大きいことも教授している。概要を自由にダウンロードできるようにしている。便利で興味深く理解しやすいとの意見がある。 正常心音、過剰心音、心雑音の発生メカニズムと聞き取り方についてシミュレータとパネルを用いて解説している。医療技術の進歩には聴診器という道具の存在が大きいことも教授している(6年制4年次前期)。楽しく理解しやすいとの意見がある。
2	作成した教科書、教材、参考書 1) 薬学入門ー薬剤師の新しい価値創造ー 2) 製剤への物理化学 3) Pharmacotherapy 4) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2008 5) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2009 6) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2010 7) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2011	平成19年4月 平成20年3月 平成20年3月 平成20年5月 平成21年4月 平成22年3月 平成23年3月	薬剤師の医療コミュニケーションについて及び薬剤師が薬術を手にする事の重要性を解説196-206頁 薬学生に相平衡と相律について解説したもので、物理化学Ⅱの講義のために作成した。91-119頁 骨・関節疾患の処方薬の解説823-830頁 骨粗鬆症840-848頁 関節リウマチ 医師・薬剤師による解説で疾患・薬物治療について解説し、編集者にもなっている。684-685頁、690-693頁 医師・薬剤師による解説で疾患・薬物治療について解説し、編集者にもなっている。668-669頁、674-677頁 医師・薬剤師による解説で疾患・薬物治療について解説し、編集者にもなっている。568-570頁、760-762頁、770-773頁 医師・薬剤師による解説で疾患・薬物治療について解説し、編集者にもなっている。612-613頁、811-813頁、821-822頁

8) 薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント	平成23年7月	胃腸・便秘薬に関する副作用についてフィジカルアセスメントによる副作用回避の観点から解説している。
9) 薬物治療学	平成23年9月	関節リウマチおよび変形性関節症について国試の出題頻度を加味して解説している。 722-739頁
10) 臨床調剤学	平成23年11月	医療制度改革と薬剤師によるフィジカルアセスメントについて解説している。 362-375頁
11) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2012	平成24年3月	医師・薬剤師による解説で疾患・薬物治療について解説（下垂体機能亢進症、アナフィラキシーショック、関節リウマチ） 高村徳人、緒方賢次、瀬戸口奈央（分担）
12) 薬剤師によるフィジカルアセスメント～バイタルサインを学ぶ～	平成24年6月	循環系からの情報である脈拍と血圧の測定法を解説している。 15-24頁 高村徳人（分担）
13) 薬物治療学 第2版	平成25年2月	関節リウマチおよび変形性関節症について国試の出題頻度を加味して解説している 701-716頁 高村徳人（分担）
14) がんばろう薬剤師－医療貢献のための道を探る－	平成25年3月	本書は、筆者が薬剤師を大発展させるためにどうすべきか、その答えに対する考えや想いを書き綴ったエッセイである。 全134頁
15) 入院・外来 薬物治療プラクティス	平成25年3月	最新の関節リウマチの検査法と関節リウマチ治療薬の使用法についての現状と最近の知見を医師とともに詳細に解説を行った。 462-477頁 高村徳人、徳永仁、帖佐悦男（分担執筆）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1. 薬学6年制教育におけるシミュレーションラボの重要性	平成20年5月	薬学系万能型実習モデルを用いた薬物投与、バイタルサインチェックやフィジカルアセスメント施行のためのシミュレータを用いたトレーニング、高機能患者シミュレータを心室細動（VF）に対する二次救命救急処置を扱う救命救急実習について概説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
2. 薬剤師の臨床能力向上をめざした新しい薬剤師教育	平成20年6月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
3. 薬剤師の臨床センスを向上させるための薬学的分布診断法	平成20年6月	薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ（RA）入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。
4. 高齢者や環境における健康生活へのリスクとその対策について講義する	平成20年8月	一般向けに、薬の効き目と副作用（特に薬物-薬物相互作用）について解説した。
5. 薬剤師の臨床能力向上を目指した最もユニークなベッドサイド実習～薬術を中心に～	平成20年10月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。

6. 薬剤師を臨床の最前線で活躍させるための攻めのベッドサイド実習	平成21年3月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
7. 薬剤投与法・バイタルサインチェック・救急救命法の実習から見えてくる薬術の重要性	平成21年3月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
8. 薬剤師を薬物治療の最前線で活躍させるために：蛋白結合置換術を中心に	平成21年7月	薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ(RA)入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。
9. 臨床能力を有する実践型薬剤師養成を目指した攻めのベッドサイド実習	平成21年7月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
10. 薬剤師を薬物治療の表舞台(=最前線)で活躍させるために：治すというマインドを薬学生に注入するための攻めの臨床技術教育	平成21年7月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
11. 薬剤師の新たな業務展開のために-バイタルサインの必要性とその手技-	平成21年9月	薬学系万能型実習モデルを用いた薬物投与、バイタルサインチェックやフィジカルアセスメント施行のためのシミュレータを用いたトレーニング、高機能患者シミュレータを心室細動(VF)に対する二次救命救急処置を扱う救命救急実習について概説した。 高村徳人、徳永仁
12. 薬剤師によるバイタルサインの確認	平成21年11月	共同研究につき担当部分抽出不可能 心電図の見方と解釈、そして薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ(RA)入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
13. 薬剤師を薬物治療の最前線で大活躍させるために：蛋白結合置換術を中心に	平成21年11月	薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ(RA)入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
14. 薬物の投与量の軽減を目的とした安全かつ有効な攻めの薬物投与法	平成21年12月	薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ(RA)入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。

15. 薬学6年制におけるアドバンスト実習～治すというマインドを薬学生に注入するための攻めのベッドサイド実習～	平成22年1月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
16. フィジカルアセスメント教育の実施～教育の立場から～	平成22年2月	薬学系万能型実習モデルを用いた薬物投与、バイタルサインチェックやフィジカルアセスメント施行のためのシミュレータを用いたトレーニング、高機能患者シミュレータを心室細動（VF）に対する二次救命救急処置を扱う救命救急実習について概説した。
17. フィジカルアセスメント教育の実施～教育の立場から～	平成22年2月	薬学系万能型実習モデルを用いた薬物投与、バイタルサインチェックやフィジカルアセスメント施行のためのシミュレータを用いたトレーニング、高機能患者シミュレータを心室細動（VF）に対する二次救命救急処置を扱う救命救急実習について概説した。
18. バイタルサインの必要性とその手技	平成22年6月	心電図の見方と解釈、そして薬学的分布診断法という薬剤師の究めるべき技術を解説している。本診断法に基づき関節リウマチ（RA）入院患者の疼痛を緩和するための安全且つ有効な攻めの投与法について講演した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
19. フィジカルアセスメントの実践教育から生まれる薬術への期待	平成22年6月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
20. バイタルサインの必要性とその手技	平成22年8月	心臓疾患シミュレータを用いて、聴診法を解説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
21. バイタルサインの必要性とその手技（第一回）	平成22年9月	心臓疾患シミュレータを用いて、聴診法を解説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
22. バイタルサインの必要性とその手技（第二回）	平成22年9月	心臓疾患シミュレータを用いて、聴診法を解説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
23. 最もユニークなベッドサイド実習～バイタルサインとフィジカルアセスメントを中心に～	平成22年9月	薬剤師にもできる血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。
24. 最もユニークなベッドサイド実習～バイタルサインとフィジカルアセスメントを中心に～	平成22年11月	薬剤師にもできる血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。
25. バイタルサインチェック、心音・呼吸音の聴取、救急救命の手技	平成23年2月	薬剤師にもできる血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
26. 「薬剤師のためのバイタルサイン研修会」	平成23年2月	心臓疾患シミュレータを用いて、聴診法を解説した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
27. 薬術について	平成23年7月	薬剤師として見逃してはならない異常心音について解説を行った。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
28. バイタルサイン ③血圧と ④脈拍を測ってみよう（循環器系からの情報）	平成23年8月	バイタルサインである血圧と脈拍について解説し、それらの実習を行った。

29. バイタルサイン ③血圧と ④脈拍を測ってみよう (循環器系からの情報)	平成23年8月	バイタルサインである血圧と脈拍について解説し、それらの実習を行った。
30. フィジカルアセスメント実技実習	平成23年10月	心音、呼吸音、腸音について概説し、実際に聴診器と救急ケアシミュレータを使用し、体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
31. フィジカルアセスメント実技実習	平成23年10月	バイタルサインやフィジカルアセスメントについて概説し、実際に水銀血圧計、シミュレータや非侵襲的医療機器を使用した体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
32. フィジカルアセスメント実技実習	平成24年2月	バイタルサインやフィジカルアセスメントについて概説し、実際に水銀血圧計、シミュレータや非侵襲的医療機器を使用した体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
33. 薬剤師がバイタルをとる意義～在宅における薬剤師のさらなる活躍を願って！～	平成24年2月	バイタルサインとフィジカルアセスメントについて実演をまじえ解説し、それらを在宅で行う意義についても言及した。
34. 薬剤師のためのバイタルサイン研修会	平成24年3月	薬剤師にでも可能な血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。また、実際に水銀血圧計を使用した体験型の研修会も実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
35. 薬の相互作用に関する薬学的な考え方と薬学6年制の現状	平成24年4月	薬の相互作用に関する薬学的な考え方およびNSAIDの効果を増強させる工夫について血清タンパク結合の観点から解説する。さらに、薬学6年制による大学教育の変化と学生生活の現況および薬剤師職能の発展性についても言及した。
36. 臨床薬剤師に必要なバイタルサインの読み方、シミュレータを使用した患者アセスメントのトレーニング	平成24年6月	フィジカルアセスメントについて概説し、実際にシミュレータの音源を使用しながら心音、呼吸音、腸音について説明し、様々な非侵襲的な医療機器の体験型の研修を行った。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
37. 第1回バイタルサインの読み方、聴診器の使い方	平成24年6月	心音、呼吸音、腸音について概説し、実際に聴診器と救急ケアシミュレータを使用し、体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
38. 薬学の最先端技術に触れる	平成24年7月	心音、呼吸音、腸音について概説し、実際に聴診器と救急ケアシミュレータを使用し、体験型の学習会を実施した。 高村徳人、緒方賢次 共同研究につき担当部分抽出不可能
39. 第2回バイタルサインの読み方、聴診器の使い方	平成24年8月	バイタルサインやフィジカルアセスメントについて概説し、実際に水銀血圧計、シミュレータや非侵襲的医療機器を使用した体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
40. バイタルサインの読み方、聴診器の使い方	平成24年10月	バイタルサインやフィジカルアセスメントについて概説し、実際に水銀血圧計、シミュレータや非侵襲的医療機器を使用した体験型の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能
41. 薬局薬剤師に必要なフィジカルアセスメント・シミュレータを使用した患者アセスメントのトレーニング	平成24年12月	バイタルサインやフィジカルアセスメントについて概説し、実際に水銀血圧計、シミュレータや非侵襲的医療機器を使用した体験型の研修会を実施した。

42. バイタルサインチェック, 心音・呼吸音の聴取, 救急救命の手技, 無菌調剤の手技	平成25年2月	保険調剤薬局薬剤師にもできる血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。また、実際に水銀血圧計を使用した体験型の研修会も実施した。 高村徳人、徳永仁、緒方賢次 共同研究につき担当部分抽出不可能	
43. 臨床薬剤師に必要なフィジカルアセスメント・シミュレータを使用した患者アセスメントのトレーニング	平成25年3月	心音、呼吸音、腸音について概説し、実際に聴診器と救急ケアシミュレータを使用し、POS形式の研修会を実施した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能	
44. シミュレータを使用したフィジカルアセスメント研修会	平成25年3月	総合メディカルグループの薬剤師を対象にバイタルサインに関する講演と実技を指導した。 高村徳人、徳永仁 共同研究につき担当部分抽出不可能	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
1) 学内のFD研修会	平成25年3月18日	「教員の教育力による学習効果の違い」について	
2) 臨床経験18年			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
1) 製剤への物理化学 第2版	共著	平成24年3月	廣川書店
2) 薬剤師によるフィジカルアセスメント～バイタルサインを学ぶ～	共著	平成24年6月	一般社団法人 日本病院薬剤師会 将来計画委員会
3) 薬物治療学 第2版	共著	平成25年2月	南山堂
4) がんばろう薬剤師－医療貢献のための道を探る－	単著	平成25年3月	講談社
5) 入院・外来 薬物治療プラクティス	共著	平成25年3月	南山堂
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年 7月(現在に至る)	日本社会医療学会理事		
平成18年10月(平成21年3月まで)	「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(=医療人GP)」取組責任者		
平成20年 4月(現在に至る)	延岡市西臼杵郡薬剤師会理事		
平成20年 5月(現在に至る)	臨床医学看護教育スキルラボ研究会・幹事		
平成20年11月(現在に至る)	日本病院薬剤師会新しい業務展開に向けた特別委員会特別委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	薬理学第2
職名	教授	氏名	比佐博彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 小テストによる形成的評価		平成20年4月～	授業ごとに小テストを実施し、学生どうしの答え合わせ、挙手・巡回による解答の確認等を行い、習熟度に合わせて授業内容を組み立てている。
2 作成した教科書、教材、参考書 新薬理学テキスト第2版 パートナー機能形態学		平成20年3月 平成20年8月	「心臓血管系作用薬」を担当 「泌尿器系」を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 平成22年度第1回九州保健福祉大学FD研修会講師		平成22年9月29日	「カリキュラムとシラバスの基本的な考え方」について講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 九州・山口地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ講師		平成20年4月～	毎年3～4回開催される当該研修会において、病院・保険薬局薬剤師の指導にあたっている。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Rho-kinase, but not protein kinase C, is involved in generation of the spontaneous tone in the resting phase of the isolated pig iris sphincter muscle.		共著	平成21年5月 Curr. Eye Res., 34
(論文) Insulin induces internalization of the plasma membrane 5-hydroxytryptamine _{2A} (5-HT _{2A}) receptor in the isolated human endothelium-denuded saphenous vein via the phosphatidylinositol 3-kinase pathway.		共著	平成24年1月 J. Pharmacol. Sci., 118
(論文) Carnosine has antinociceptive properties in the inflammation-induced nociceptive response in mice.		共著	平成24年5月 Eur. J. Pharmacol., 682
(論文) Effect of spinally administered simvastatin on the formalin-induced nociceptive response in mice.		共著	平成24年5月 J. Pharmacol. Sci., 119
(論文) Effect of naloxone on ischemic acute kidney injury in the mouse.		共著	平成25年8月 Neuropharmacology, 71
III 学会等および社会における主な活動			
平成元年4月～	日本薬理学会学術評議員		
平成25年4月～	宮崎県薬剤師会健康啓発委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	薬学情報学研究室
職名	教授	氏名	松岡俊和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月	薬学科基礎教育科目および専門教育科目を円滑に実施するため、講義資料配布および提出物収集システムを構築し、運用している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成22年4月	薬学科学生のキー入力能力向上のため、タイピング練習システムを薬学科e-learningサーバ上に構築した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年4月	本学大学院医療薬学研究科の薬学研究方法特論に関する講義および演習のため、薬学科サーバ上にe-learning教材を作成した。
		平成23年10月	第21回日本医療薬学会年会において「患者シミュレータにより再現された薬物誤投与病態変化シナリオの動画教材の作成」について発表した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月	大学院設置・学校法人審議会の教員組織審査において九州保健福祉大学大学院医療薬学研究科教授(薬学研究方法特論)可と判定された。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Vital Sign Monitoring Using Human Patient Simulators at Pharmacy Schools in Japan.		共著	平成22年7月
(論文) Preparation of Simulation Programs regarding Excess-dose Drug Administration and Acute-phase Conduction Changes and Its Evaluation by Students.		共著	平成23年4月
(論文) Making programs of the rapid intravenous injection of potassium preparations and anaphylactic shock for an emergency-care simulator system.		共著	平成24年3月
(論文) 疾患別の副作用を横断的に検索可能にする副作用データベースの作成.		共著	平成25年1月
(論文) Creation of vide-materials for scenarios related to drug misadministration/condition changes using patient simulator.		共著	平成25年3月
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年4月～平成25年12月	宮崎県インターネット協議会運営委員		
平成24年4月～平成25年12月	公認スポーツファーマシスト		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬剤学	職名 教授	氏名 横山祥子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成15年4月～	物理化学I、薬剤学II, IIIでは、講義とその部分の問題を一緒に行い、学生に自分で解いた解答を積極的に発表させ、学生が講義に積極的に参加するようにしている。また、講義の初めには、前回の講義内容からのミニテストをして理解度の確認を出欠管理に用いた。授業アンケートも実施している。それをもとに、より良い講義ができるように改善している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年2月 平成24年2月 平成23年10月	生物物理化学入門、廣川書店 製剤への物理化学、廣川書店 薬剤学 改訂5版、廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			大学内で開催される教育に関するFD研修会やコンファレンスに参加している
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
Specific morphology of ganglioside GD1a/phospholipid/cholesterol monolayers		共著	平成21年1月
Membrane characteristics of ganglioside GD1a/phospholipids/cholesterol monolayers		共著	平成21年9月
Surface states of ternary and quaternary ganglioside GT1b monolayers containing cholesterol and phospholipids: Comparison between ganglioside GT1b and GD1a systems		共著	平成22年1月
Surface states of gangliosides GD1a and GT1b/saturated- and unsaturated phospholipids/cholesterol monolayers		共著	平成23年11月
Pweoxidation of phosphatidylcholine membrane and the antioxidant effects of apigenin 7-gentiobioside from trachelospermum asiaticum var. intermedium		共著	平成24年1月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
		Mater. Technol., 27, 3-5	
		Mater. Technol., 27, 35-40	
		Mater. Technol., 28, 1-7	
		Mater. Technol., 29, 197-201	
		Mater. Technol., 30, 1-5	
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～		材料技術研究協会審議委員	
平成24年4月～		宮崎県薬務委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	医事法学研究室
		氏名	前田 和彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) プリント、教科書の自己制作等を行い、学生の講義への自己認識が高まるよう指導している。		平成20年4月～	学生が興味を持つようプリントや教科書のほとんどを自己制作し、講義に対する自己認識が高まるよう、そこに学生自らラインを引き、メモを取るよう指導している。平成24年度の授業評価においては学部で最も良い評価を得ることができ学長より表彰を受ける。
2 作成した教科書、教材、参考書			
医事法講義[第8版]		平成20年4月	医療法等の一部を改正、順次施行された部分改定を行った。その他の法規の法改正も改訂し、近年の医療と福祉の融合に必要な内容の充実に努めた。
医事法セミナー(新版)第2版		平成21年4月	医療従事者、福祉従事者、学生等に対して医事法の医療と患者に関わる部分を中心に新たな法改正など含めて前者(前)、(後)編を1つにまとめリニューアルしたものである。
医事法講義[新編]		平成23年3月	医事法学に必要な医療・保健・福祉の各法規を限り取り込み、法解釈や判例解説も入れ込んだものである。そして近年の医療・福祉専門職に必要なかつ重要な知識とされる生命倫理(バイオエシックス)の内容をできる限り盛り込んだことである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
医療従事者に欠かせない生命倫理への専門的認識 ー鍼灸師教育と生命倫理ー		平成24年3月	医療はあくまでも医療従事者の自主・自律的な倫理規範である生命倫理によってなされるべきである、自主・自立とはいえず、医療は医療全体に及ぶ倫理観だけで共通認識的に解決するのは難しく、患者個人の価値観や人生観に大きく影響されるものである。このことを理解したうえで両者の有益な到達点を目指すべきであり、医療従事者たる鍼灸師の倫理教育も同様であることを示唆した。鍼灸OSAKA104号(75-78頁)
4 その他教育活動上特記すべき事項 学内教員用倫理研修(FDとして) (FDを含む) 延岡高校出張講義			FDとして学内教員に対し、倫理研修を行う。 延岡高校2,3年生に対し、「命の倫理」について講義を行う。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
(著書) 医事法講義[第8版]	単著	平成20年4月	信山社(岩手)/星雲社
(著書) 医事法セミナー(新版)第2版	単著	平成21年4月	医療科学社
(著書) 医事法講義[第8版]	単著	平成23年3月	信山社(東京)

(論文) 生命倫理を巡る法政上の諸問題—法整備における制度設計をめぐって—	単著	平成21年11月	法政論叢 (第46巻第1号) (啓文社) (156~160頁)
(論文) . 臓器移植法改正と移植の現状	単著	平成22年3月	日本社会医療学会誌・社会医療研究第8巻(7~14頁)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成12年7月～	日本社会医療学会常任理事・事務局長		
平成13年6月～	日本社会医療学会東京部会会長		
平成15年4月～	日本柔道整復接骨医学会分科会委員(社会医療分科会代表)		
平成24年10月～	あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験出題基準検討委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 衛生薬学	職名 教授	氏名 松野 康二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年4月～	平成19年九州保健福祉大学薬学部の教員に就任以来、薬学部薬学科における担当科目(衛生薬学分野:健康と環境)において、基礎学力養成および国家試験対策の両面から学生の教育にあたっている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年7月・平成22年7月	九州保健福祉大学薬学部薬学科 国家試験対策基礎問題集(衛生薬学分野)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成21年8月～毎年	九州保健福祉大学薬学部薬学科 衛生薬学実習書
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年4月～22年3月	薬学科入学生に対するリメディアル教育(委員長)を担当
		平成22年4月～	薬学科教務委員会・委員長を担当
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)スタンダード薬学シリーズ5-健康と環境:代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる		分担執筆	2012年1月
(論文) Cucurbitacin D isolated from Trichosanthes kirilowii induces apoptosis in human hepatocellular carcinoma cells in vitro. (査読付)		共著	2009年1月
(論文) Placental transfer of melamine and its effects on rat dams and fetuses. (査読付)		共著	2010年3月
(論文) Severe lead contamination among children of samurai families in Edo period in Japan (査読付)		共著	2011年1月
(論文) Identification of a bioactive compound against Adult T-cell leukaemia from bitter melon seeds. (査読付)		共著	2014年1月
III 学会等および社会における主な活動			
平成元年1月～平成20年6月	北九州市環境影響評価審査会委員		
平成5年4月～現在	日本衛生学会評議員		
平成9年度～平成16年度	日本医師会認定産業医基礎・生涯・研修会および集中講座講師		
平成12年度～現在	公害防止管理者国家試験受験講習会及び認定講習会講師(大気、水質関係)		
平成12年4月～現在	(社)日本作業環境測定協会委員		
平成17年4月～現在	日本分析化学会九州支部幹事		
平成23年2月～平成24年度	日本薬学会代議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床生化学	職名 教授	氏名 佐藤 圭創
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 臨床症例を基にした授業		平成25年4月～ 平成26年3月	授業の充実と改善については、本学の学生のレベルにあわせ、臨床的感觉を授業に盛りこみ、症例、写真、患者の言葉などを用いて授業を行うよう努力している。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生のための臨床検査学（共著）		平成25年4月～ 平成26年3月	薬学生のための臨床検査学（共著）を作成した。また、授業では、必ず、資料のプリントを作成し、予習・復習に役立てた。加えて授業で使用したスライドは、学生がネット上で見ることができるようにした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 研究倫理に関するFD		平成25年5月	学内のFDで、研究に関する倫理の講演を行い、学生の特別研究などの時に必要な倫理的な概念と実践の講義した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Mepenzolate bromide displays beneficial effects in a mouse model of chronic obstructive pulmonary disease.	共著	平成25年12月	Nature Commun. 2013;4: 2686
（著書）Effects of lecithinized superoxide dismutase and/or pirfenidone against bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	共著	平成24年10月	Chest. 2012 Oct;142(4): 1011-9.
（論文）Superiority of PC-SOD to other anti-COPD drugs for elastase-induced emphysema and alteration in lung mechanics and respiratory function in mice.	共著	平成24年6月	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2012 Jun 15;302(12):L1250-61.
（論文）In vivo evidence of free radical generation in the mouse lung after exposure to Pseudomonas aeruginosa bacterium: an ESR spin-trapping investigation.	共著	平成24年5月	Free Radic Res. 2012 May;46(5):645-55.
（論文）Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase on pulmonary emphysema.	共著	平成23年9月	J Pharmacol Exp Ther. 2011 Sep;338(3):810-8.
III 学会等および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	NPO法人延岡健寿ささえ愛隊を創設し、健康に関する社会貢献をしている		
平成25年4月～現在	年間20回以上、健康に関する講演活動を行っている		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 垣内信子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 授業評価アンケート実施		平成25年7月10日	授業に対する学生の評価を得、授業に反映するようにした
2 作成した教科書、教材、参考書 伝統医薬学・生薬学(南江堂) 新訂生薬学(南江堂)第7改訂		平成21年5月10日 平成24年3月5日	伝統医薬学における新技術の項担当 新規局方収載品の項追加
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬用植物園講演会を主催、講演 (FDを含む) 九保大FDに参加		平成25年6月15日 平成25年6月19日	生薬学に関する講演を行った。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Phylogenetic examination of crude drugs derived from Yunnanese Swertia plants.	共著	平成25年8月	J Nat Med DOI 10.1007/s11418-013-0776-x
以下32報(2007年以降)			
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年4月～	生薬学会評議員		
平成22年4月～	和漢医薬学会評議員		
平成22年4月～平成24年12月	薬学会九州支部九保大役員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬化学	職名	氏名 山崎 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年～	薬学教育モデル、コアカリキュラムに準じて、教科毎に要点をまとめたPower pointのスライドを作成している。学生が要点を理解し、問題点を把握できるように、毎回、授業の始めまたは終わりの約10分間に作成した小テストを行うとともに、もう一度重要な点について解説をしている。また、平成23年度からは、1年生～3年生では、講義の理解度を確認するため中間試験を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 生命科学のための無機化学・錯体化学 廣川書店 生物薬科学実験講座 2 核酸 I 核酸の合成と分析 廣川書店		平成19年2月 (一部改訂) 平成17年1月	薬学生を対象とした無機化学のテキストで、第3章化学結合の61頁～94頁を担当した。現在無機化学I、IIの講義でテキストとして使用している。核酸の合成と分析における基礎実験技術に関するテキストで、第2章 4 薬物・光による核酸の分解 222頁～243頁
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 高校生の早期体験学習における化学実験指導			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 高校生の早期体験学習における化学実験指導 薬剤師の仕事の紹介 宮崎県高校化学部会において講義および実習		平成15年～ 平成24年9月 平成20年	宮崎県立延岡高校1,2年生に、大学の早期体験学習として、本大学にて有機化学実習指導を行っている。 宮崎県立南高校1年生へ薬剤師の仕事について講義を行った。 宮崎県内の高等学校化学担当教員に対して、大学の化学講義および化学実験を行った。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Design and Stereoselective Synthesis of Four Peptide Nucleic Acid Monomers with Cyclic Structures in Backbone.	共著	平成23年3月	Journal of Heterocyclic Chemistry, 2011, 48, 1132-1138.
(発表) Synthetic studies toward the novel peptide nucleic acid monomers by application of 4-hydroxyproline as backbone synthon.	共著	平成21年8月	第22回国際複素環式化学会議 (ICHC-22) The 22nd International Congress on Heterocyclic Chemistry, St. John's, Newfoundland, Canada, PO-41, 3th, Aug., 2009.

(発表) Concise synthetic approach for clausenamamide using 1,3-dipolar cycloaddition.	共著	平成22年12月	2010環太平洋国際化学会議 The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2010)、Honolulu, Hawaii, No. 1199, poster session, Novel Synthetic Methodology and Its Application to Natural Product Synthesis (#63)
(発表) L-カルノシンの生理活性作用機解明を志向した、ヒスチジン類似新規アミノ酸合成の検討	共著	平成24年3月	日本薬学会第132年会、札幌、発表番号30P1-pm76
(発表) Synthetic Study on Clausenamamide Derivatives by Nitrile Oxide Cycloadditions.	共著	平成24年9月	The 6th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaScience (Osaka, Japan)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
	日本薬学会、有機合成化学協会、アンチセンスDNA/RNA研究会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	微生物学
職名	教授	氏名	渡辺 渡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年9月～	腫瘍治療学の講義は板書を多用して学生の能動的な学習姿勢を引き出すような講義を実施 腫瘍治療学 (7.5点/10点)
2	作成した教科書、教材、参考書 薬学領域の食品衛生化学 廣川書店	平成23年3月1日	食中毒の項を執筆した
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
Broad anti-retroviral activity and resistance profile of a novel human immunodeficiency virus integrase inhibitor, Elvitegravir (JTK-303/GS-9137).		共著	平成20年1月 J. Virol. 82, pp764-774, 2008.
Effects of tetrabromobisphenol A, a brominated flame retardant, on the immune response to respiratory syncytial virus infection in mice.		共著	平成22年4月 Int. Immunopharmacol. 10, pp393-397, 2010.
Functional disorder of primary immunity responding to respiratory syncytial virus infection in offspring mice exposed to a flame retardant, decabrominated diphenyl ether, perinatally.		共著	平成22年5月 J. Med. Virol. 82, pp1075-1082, 2010.
Efficacy of oral administration of heat-killed probiotics from Mongolian dairy products against influenza infection in mice: Alleviation of influenza infection by its immunomodulatory activity through intestinal immunity.		共著	平成23年8月 Int Immunopharmacol. 2011 Dec;11(12):1976-83.
Corticosteroids plus long-acting beta2-agonists prevent double-stranded RNA-induced upregulation of B7-H1 on airway epithelium.		共著	平成24年8月 Int. Arch. Allergy Immunol. (2013)160, 27-36
III 学会等および社会における主な活動			
平成20年 4月～	日本社会医療学会事務局次長		
平成23年 9月	第18回日本免疫毒性学会ワークショップ招待講演”ウイルス感染モデルを用いた化学物質の評価法について”		
平成25年 3月	のべおか市民大学院講師 “家庭用電化製品に含まれる化学物質について”		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 分析学	職名 教授	氏名 伊藤 潔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 自己学習習慣を身につけてもらうための機会、教材を提供する授業		平成24年4月～現在	基本的な授業内容はパソコンを利用したスライドと板書を組み合わせた形で行っている。小テストや、重要な基礎項目棟は、課題として手書きのレポートとして提出することを要求して重要項目を習得させることに努めた。必要に応じ、種々の分析装置の実物を提示して内容の理解を印象づけるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業用に作成したプリント資料			各授業の内容をまとめたスライド資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 全国大学IT活用教育方法研究発表会奨励賞 (長崎大学薬学部)			全国IT 活用教育方法研究発表会 西田孝洋、和田光弘、伊藤潔、丸田英徳、鈴木斉、黒川不二雄（発表は代表者の西田が行った） 薬物動態および統計解析の理解向上へ向けた系統的な情報処理教育の試み（平成22年度より名称がICT利用による教育改善研究発表会に変更になっている）
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Prolyl oligopeptidase; Prolyl tripeptidylpeptidase; Prolyl aminopeptidase. In "Handbook of proteolytic enzymes" (3rd ed.)	共著	2013年1月	Academic Press p3360-3364, p3371-3374, p3438-3443
(論文) Assessment of substrate inhibition of bacterial oligopeptidase B.	共著	2012年11月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 35巻, No. 11
(論文) Crystal Structure of Serine Dehydrogenase from Escherichia coli: Important role of the C-terminal region for closed-complex formation.	共著	2011年2月	Journal of Biochemistry, 149巻, No. 6
(論文) Substitution of Glu122 by glutamine revealed the function of the second water molecule as a proton donor in the binuclear metal enzyme creatininase.	共著	2010年3月	Journal of Molecular Biology, 396巻, No. 4
(論文) Closed Complex of the D-3-Hydroxy-butyrate Dehydrogenase Induced by an Enantiomeric Competitive Inhibitor.	共著	2009年4月	Journal of Biochemistry, 145巻, No. 4

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成24年4月～現在に至る	日本生物工学会九州支部評議員
平成24年4月～現在に至る	日本分析化学会九州支部幹事
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会九州支部幹事
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会学術雑誌編集委員 (Biological and Pharmaceutical Bulletin)

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床医薬品化学	職名 教授	氏名 永井 勝幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
1. 九州保健福祉大学薬学部薬学科有機化学の講義	平成25年10月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科2年生159名に対し、「有機化学Ⅲ」の講義をおこない学生の教育指導をおこなっている。	
2. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科有機化学・生物有機化学の講義	平成25年10月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科2, 3, 4年生29名に対し、「有機化学Ⅱ」の講義をおこない学生の教育指導をおこなっている。	
3. 九州保健福祉大学薬学部薬学科医薬品化学の講義	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科4年生136名に対し、「医薬品化学」の講義をおこない学生の教育指導をおこなっている。	
4. 九州保健福祉大学薬学部薬学科化学Ⅰ, Ⅱの講義及び演習	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科1年生、2年生159名に対し、「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」の講義をおこない、各回復習のため小テストをおこなうことにより学生の教育指導をおこなっている。	
5. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬価学科薬用植物学の講義及び演習	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科1年生27名に対し、「薬用植物学」の講義並びに薬草園での薬草観察の演習をおこない、学生の教育指導をおこなっている。	
6. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科化学Ⅲの講義	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科2年生21名に対し、「化学Ⅲ」の講義を英語の教科書を使用し、英語の専門書読解ができるよう指導している。	
7. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成24年9月～ 平成25年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生18名に対し「薬剤学Ⅰ」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。	
8. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成24年9月～ 平成25年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生24名に対し「生化学Ⅱ」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。	
9. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科非常勤講師	平成24年4月～ 8月	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生14名に対し「企業経営・特許管理学」の講義をおこない薬学生の教育指導をおこなった。	
10. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成24年4月～ 8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生33名に対し「薬用植物学」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。	
11. 長崎国際大学薬学部非常勤講師	平成24年4月～ 8月	長崎国際大学薬学部学生85名に対し「薬制論」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない薬学生の教育指導をおこなった。	
12. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成23年9月～ 平成24年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生21名に対し「薬剤学Ⅰ」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。	
13. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成23年9月～ 平成24年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生9名に対し「生化学Ⅱ」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。	

14. 熊本大学薬学部大学院非常勤講師	平成23年9月～平成24年3月	熊本大学薬学部大学院学生13名に対し「特許演習」の講義並びに演習をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
15. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成23年4月～8月	九州保健福祉大学薬学部薬科学科学生105名に対し「バイオベンチャー企業の創薬兆戦」の講義をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
16. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成23年4月～8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生10名に対し「有機化学II」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
17. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成23年4月～8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生25名に対し「薬用植物学」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
18. 長崎国際大学薬学部非常勤講師	平成23年4月～8月	長崎国際大学薬学部学生71名に対し「薬制論」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
19. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科非常勤講師	平成23年4月～8月	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生12名に対し「企業経営・特許管理学」の講義をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
20. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成22年9月～平成23年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生15名に対し「薬理学II」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
21. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成22年9月～平成23年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬用植物学」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
22. 熊本大学薬学部大学院非常勤講師	平成22年9月～平成23年3月	熊本大学薬学部大学院学生14名に対し「特許演習」の講義並びに演習をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
23. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成22年4月～8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬理学III」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
24. 長崎国際大学薬学部非常勤講師	平成22年4月～8月	長崎国際大学薬学部学生70名に対し「薬制論」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
25. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科非常勤講師	平成22年8月30日～9月3日	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生10名に対し「企業経営・特許管理学」の講義をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
26. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科非常勤講師	平成21年9月～平成22年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬用植物学」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない学生の教育指導をおこなった。
27. 長崎国際大学薬学部非常勤講師	平成21年8月31日～平成22年9月3日	長崎国際大学薬学部学生100名に対し「薬制論」の講義、試験問題の作成並びに採点をおこない薬学生の教育指導をおこなった。
2 作成した教科書、教材、参考書		
1. 九州保健福祉大学薬学部薬学科有機化学の講義用教材及び演習用教材	平成25年10月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科2年生159名に対し、「有機化学Ⅲ」の講義用教材・演習用教材を作成した。
2. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科有機化学・生物有機化学の講義用教材及び演習用教材	平成25年10月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科2,3,4年生29名名に対し、「有機化学Ⅱ」の講義用教材・演習用教材を作成した。
3. 九州保健福祉大学薬学部薬学科医薬品化学の講義用教材	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科4年生136名に対し、「医薬品化学」の講義用教材を作成した。

4. 九州保健福祉大学薬学部薬学科化学Ⅰ、Ⅱの講義用教材及び演習用教材	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部薬学科1年生、2年生159名に対し、「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」の講義用教材、演習用教材を作成した。
5. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬価学科薬用植物学の講義用教材及び演習用教材	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科1年生27名に対し、「薬用植物学」の講義用教材並びに薬草園での薬草観察の演習用教材を作成した。
6. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科化学Ⅲの講義教材	平成25年4月～	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科2年生21名に対し、「化学Ⅲ」の講義用教材を作成した。
7. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成24年9月～ 平成25年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生18名に対し「薬剤学Ⅰ」の講義用教材を作成した。
8. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成24年9月～ 平成25年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生24名に対し「生化学Ⅱ」の講義用教材を作成した。
9. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成24年4月～ 8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生33名に対し「薬用植物学」の講義用教材を作成した。
10. 長崎国際大学薬学部講義用教材	平成24年4月～ 8月	長崎国際大学薬学部学生85名に対し「薬制論」の講義用教材を作成した。
11. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科講義用教材	平成24年4月～ 8月	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生14名に対し「企業経営・特許管理学」の講義教材を作成した。
12. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成23年9月～ 平成24年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生21名に対し「薬剤学Ⅰ」の講義用教材を作成した。
13. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成23年9月～ 平成24年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生9名に対し「生化学Ⅱ」の講義用教材を作成した。
14. 熊本大学薬学部大学院講義・演習用教材	平成23年9月～ 平成24年3月	熊本大学薬学部大学院学生13名に対し「特許演習」の講義・演習用教材を作成した。
15. 九州保健福祉大学薬学部薬学科講義用教材	平成23年5月	九州保健福祉大学薬学部薬科学科学生105名に対し「バイオベンチャー企業の創薬兆戦」の講義用教材を作成した。
16. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成23年4月～ 8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生10名に対し「有機化学Ⅱ」の講義用教材を作成した。
17. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成23年4月～ 8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生25名に対し「薬用植物学」の講義用教材を作成した。
18. 長崎国際大学薬学部講義用教材	平成23年4月～ 8月	長崎国際大学薬学部学生71名に対し「薬制論」の講義用教材を作成した。
19. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科講義用教材	平成23年4月～ 8月	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生12名に対し「企業経営・特許管理学」の講義教材を作成した。
20. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成22年9月～ 平成23年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生15名に対し「薬理学Ⅱ」の講義用教材を作成した。
21. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成22年9月～ 平成23年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬用植物学」の講義用教材を作成した。
22. 熊本大学薬学部大学院講義・演習用教材	平成22年9月～ 平成23年3月	熊本大学薬学部大学院学生14名に対し「特許演習」の講義・演習用教材を作成した。
23. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成22年4月～ 8月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬理学Ⅲ」の講義用教材を作成した。
24. 長崎国際大学薬学部講義用教材	平成22年4月～ 8月	長崎国際大学薬学部学生70名に対し「薬制論」の講義用教材を作成した。

25. 熊本大学薬学部創薬生命薬科学科講義用教材	平成22年8月30日～9月3日	熊本大学薬学部創薬生命薬科学科学生10名に対し「企業経営・特許管理学」の講義用教材を作成した。
26. 九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科講義用教材	平成21年9月～平成22年3月	九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科学生20名に対し「薬用植物学」の講義用教材を作成した。
27. 長崎国際大学薬学部講義用教材	平成21年8月31日～平成22年9月3日	長崎国際大学薬学部学生100名に対し「薬制論」の講義用教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学芸員養成科目として薬用植物学の薬草園を活用した授業 (第6回瀬戸内薬セミナー招待講演) バイオベンチャー企業の創薬挑戦	平成25年2月 平成24年6月	学芸員養成科目として位置づけられている薬用植物学の講義内容並びに薬草園を活用した授業について紹介した。 岡山大学発創薬ベンチャーのオンコリスバイオファーマの研究開発のあゆみについて抗がん剤および抗ウイルス剤のパイプラインを中心に紹介した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 米国フィンドリー大学研修 薬学教育者ワークショップ研修	平成25年8月13日～平成25年9月7日 平成25年4月28日～平成25年4月29日	米国フィンドリー大学にて、薬学部の講義、研究内容などの研修を行った。講義に参加し講義担当教師と教育方法について意見交換。研究についても関連分野の研究を行っている教員と意見交換。 薬剤師教育における実務実習指導について学習者の行動(知識・技能・態度)に価値ある変化をもたらすための研修を受けた。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Establishment of biological and pharmacokinetic assays of telomerase-specific replication-selective adenovirus	共著	2008年2月	Cancer Sci. 2008; 99(2):385-90.
(出願特許) 芳香族化合物を有効成分とする抗ウイルス剤	共著	2011年3月	日本特許庁 出願番号 2009-538227
(出願特許) 1,4'-エチニルd4Tの製造方法	共著	2011年5月	日本特許庁 出願番号 2009-548100
(論文) Enhanced antitumor efficacy of telomerase-specific oncolytic adenovirus with valproic acid against human cancer cells.	共著	2012年9月	Cancer Gene Therapy. 2012, 19: 767-772
(論文) 学芸員養成科目として薬用植物学の薬草園を活用した授業	単著	2013年2月	九州保健福祉大学, 博物館学年報 2, 平成25年2月, 11-15

III 学会等および社会における主な活動

平成25年9月1日～現在	Journal of Pharmaceutical Sciences and Pharmacology論文審査委員
平成24年4月1日～平成24年8月31日	九州知的財産戦略協議会委員(九州経済産業局)
平成22年6月1日～平成24年8月31日	熊本大学連携型起業家育成施設運営委員会委員(独立行政法人中小企業基盤整備機構九州本部)
平成21年4月1日～平成22年3月31日	Bioorganic & Medicinal Chemistry学会論文審査委員
平成3年1月1日～平成8年12月31日	アメリカ化学会論文審査委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第3	職名 教授	氏名 鈴木彰人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
1) ロールプレイによる電話対応演習	平成22年8月以降	早期体験学習(1年次)において、演習用電話機・回線を使用して、ロールプレイによる電話対応を実施し、学生間で相互評価を行った。	
2) ケースメソッドを用いた演習・評価	平成23年4月以降	セーフティマネージメント演習(5年次)において、予め医療トラブル事例を提示し、それに基づいた質疑・応答を行いながら評価を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 教科書「はじめて学ぶ臨床栄養管理」	平成23年10月20日	臨床栄養の基礎、栄養評価、静脈経腸栄養の特徴についてまとめた。	
2) 教科書「臨床製剤学」改訂第3版	平成24年3月31日	医薬品の開発及び日本薬局方の製剤に関する一般試験法をまとめた。	
3) 教科書「治験薬学」	平成24年4月10日	病院での治験業務について概説し、GCPとの関連をまとめた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1) 第5回順正学園学術研究コンファレンス教育部門	平成21年3月8日	薬学科における臨床教育の具体的取り組みを発表した。	
2) 大分県病院薬剤師会例会	平成25年2月1日	学内での実務実習事前学習の取り組みを発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1) 医療系学部教員による合同ワークショップ参加	平成22年12月26～28日	薬学、医学、看護学、保健学の各学部教員が参加して行われたワークショップに参加した。	
2) 臨床経験8年			
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The defective protein level of myosin light chain phosphatase (MLCP) in the isolated saphenous vein, as a vascular conduit in coronary artery bypass grafting (CABG), harvested from patients with diabetes mellitus (DM).	共著	平成23年7月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 412, p323-p327
(著書) 「はじめて学ぶ臨床栄養管理～薬学生・薬剤師からのアプローチ」I章、II章、III章	共著	平成23年10月	株式会社南江堂
(論文) Insulin induces internalization of the plasma membrane 5-Hydroxytryptamine2A (5-HT2A) receptor in the isolated human endothelium-denuded saphenous vein via the phosphatidylinositol 3-kinase pathway.	共著	平成24年1月	J. Pharmacol. Sci. 118, p178-p185
(著書) 「治験薬学～治験のプロセスとスタッフの役割と責任～」第5章	共著	平成24年4月	株式会社南江堂
(著書) 「重症患者の栄養管理」薬物治療に影響を及ぼす要因	共著	平成25年5月	「急性・重症患者ケア」vol.2, No.2, 371-381、総合医学社

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成19年4月～現在に至る	日本静脈経腸栄養学会代議員・学術評議員
平成19年4月～現在に至る	宮崎NST（栄養サポートチーム）研究会世話人
平成21年1月～現在に至る	日本医療薬学会指導薬剤師（09-99-0176号）
平成24年 4月～現在に至る	日本薬学会九州支部幹事
平成24年 4月～現在に至る	九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入機関運営委員
平成24年10月～現在に至る	日本静脈経腸栄養学会九州支部会世話人
平成25年8月～現在に至る	宮崎県薬剤師会薬学生実務実習協議会委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 東洋医薬学研究室	職名 教授	氏名 程 炳鈞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			日本では薬学部4年生と6年生学生たちに古い漢方医学の興味を持ち続けることが重視され学生たちに臨床症例を分析させてから説明する。
2 作成した教科書、教材、参考書			自分が参与作成した教科書および参考書を基に6年生の薬学部生に講義プリントを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			世界漢方医学連合会教育指導委員会では、漢方医学の教育の特徴および教育実践中に発見された問題をまとめ、その解決策をも考えてみた。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			延岡医師会漢方研究会に依頼された講演(5回)および九州保健福祉大学延岡市民大学院の講演。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
『傷寒論』における手足厥冷と四逆輩類方について		単著	平成24年3月
不定愁訴の「むくみ」に漢方の治療		単著	平成24年7月
『傷寒論』における漢方処方剤の剤型およびその服用法について		単著	平成24年10月
喉の症状に対する麦門冬湯と敗毒散の使い分けについて		単著	平成25年5月
中国の家庭薬—縮砂		単著	平成25年6月
			漢方の臨床2012. 3
			漢方の臨床2012. 7
			漢方の臨床2012. 10
			漢方の臨床2013. 5
			日中医学2013. 6
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年4月～平成24年4月	日本延岡医師会漢方研究会の講演活動および九州保健福祉大学延岡市民大学院の講演。		
平成25年11月～平成27年10月	Educational Instruction Committee of World Federation of Chinese Medicine Societies		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 環境保健薬学	職名 教授	氏名 白崎哲哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年11月1日 平成25年12月 平成26年1月15日	海外研修、企業研修、中央省庁研修、水俣研修、食と農の体験塾、阿蘇薬用植物観察会、伝承民間薬調査などの各種体験学習と学生自身によるその学習報告ポスター・報告書の作製・学習報告会の開催等を中心とするアクティブラーニングプログラムや視野の拡大を目指した薬学部学生向けシンポジウム・講演会の開催、学内マニフェストシステムの構築とその利用を通じた廃棄物処理に関する認識向上などを中心とするエコファーマ教育を開始 エコファーマ活動とその成果・将来展望紹介 エコファーマ活動とその成果・将来展望紹介	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成22年3月31日 平成23年3月31日	エコファーマ教育ビデオDVD第1～第3巻 エコファーマ教育ビデオDVD第4～第7巻b	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成22年7月 平成22年10月3日 平成24年9月1日 平成25年2月24日	目指せエコファーマ! 日本薬学会誌ファルマシアくすりの科学, vol. 46(7), p. 674-676 環境福祉学の教育実践—環境と命を守る行動派薬学人育成の取組、第6回環境福祉学会年次大会 めざせエコファーマシスト! 環境を視点にもっと活動を広げませんか? 熊本大学薬学部同窓会宮崎支部総会講演会 招待講演 エコファーマ: もっと顔の見える薬剤師へ! 鹿児島県薬剤師会 学校薬剤師部会講演会 招待講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年5月30日	平成20年度文部科学省教育GPに「エコファーマを担う薬学人育成プログラム: 環境と命を守る行動派薬剤師・薬学研究者を目指して」を立案、企画、申請(同年11月1日採択)	
II 研究活動			
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A synthetic approach to develop peptide inhibitors selective for brain-type sodium channels on the basis of pomplidotoxin structure.	共著	平成21年10月	Heterocycles (vol. 79, p. 925-933)
(論文) The centrally acting non-narcotic antitussive tipepidine produces antidepressant-like effect in the forced swimming test in rats.	共著	平成21年12月	Behavioral Brain Research (vol. 205, p. 315-318)
(論文) The potent inhibitory effect of tipepidine on marble-burying behavior in mice.	共著	平成23年1月	Behavioral Brain Research (vol. 216, p. 308-312)

(論文) Pharmacological mechanisms of antidepressant-like effect of tipepidine in the forced swimming test.	共著	平成24年1月	Behavioral Brain Research (vol. 226(2), p. 381-385)
(論文) Tipepidine activates VTA dopamine neuron via inhibiting dopamine D ₂ receptor-mediated inward rectifying K ⁺ current.	共著	平成25年12月	Neuroscience (vol. 12, p. 24-34)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成10年4月～現在	日本生理学会 評議員		
平成15年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成22年9月～平成23年3月	熊本市低炭素の地域づくり戦略会議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第1
職名	准教授	氏名	河内明夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年10月～現在	コミュニケーション演習：コミュニケーションスキルアップを目的とした演習を担当
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月10日	今日のOTC薬（改訂第2版）、共著、南江堂
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年9月6日 平成24年4月～現在	小学生児童健康啓発教育講演「ホネのはなし」 地域住民のための骨密度測定と骨粗鬆症講義
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床経験4年	平成25年6月2日 平成22年12月～現在	地域住民健康啓発イベントどんだけ健康会主催 山間過疎地域住民のための健康相談
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
（論文）実務実習事前学習における「薬局製剤実習」 の実施とその評価		共著	平成22年11月
（論文）宮崎県北部山間地域住民の医療アクセスと医 薬品適正使用状況		共著	平成25年4月
（論文）地域住民を対象とした調剤報酬講義の実施と その効果		共著	平成25年5月
（論文）薬学教育における「ジェネリック医薬品実 習」の実施とその効果		共著	平成25年10月
（論文）地域住民を対象とした骨粗しょう症啓発教育 のための「公民館出張講義」		共著	平成25年12月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
医療薬学（第36巻第11号）			
医療薬学（第39巻第4号）			
日本プライマリ・ケア連 合学会誌（第36巻第13号）			
医療薬学（第39巻10号）			
社会薬学（第32巻第2号）			
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	分析学
職名	准教授	氏名	大河原 晋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 化学Ⅰ、Ⅱ、機器分析学、応用機器分析学		平成23年～	いずれの科目も学生が行なう授業評価アンケートおよび自由記述を参考にして、学生から指摘された点を理解し授業改善に努めた。
化学Ⅰ、Ⅱ		平成24年～	キーワードを空欄にした講義資料（プリント）を毎回の授業に配布し、説明を聞きながら書き込ませることで、学生の授業に対する集中力を高めるよう工夫をした。
特別化学補講		平成25年～	リメディアル教育の一環として計10回実施。下位者50名に対しNHK高校講座化学の映像を見せ、終了後確認試験、答え合わせを行い、理解度を確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1. 「武蔵野大学薬学部における在学中試験と薬剤師国家試験の成績比較」日本薬学会131年会（静岡）		平成23年3月	1. 新薬剤師国家試験に対応した学力評価法の構築を目的として、進級試験、総合演習試験および薬剤師国家試験の成績との相関性に関する内容について発表を行った。
2. 「医療保険の職業」出張講義（延岡）		平成26年2月	2. 延岡星雲高校1年生を対象に、薬剤師の仕事および薬学部で何を学ぶのかについて講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1) FD研修会		平成23年9月～	九州保健福祉大学FD, SD研修へ毎回参加し、授業改善などについて議論した。
2) 臨床経験3年			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Activation of the human transient receptor potential vanilloid subtype 1 by essential oils.	共著	平成22年8月	Biol. Pharm. Bull. 33(8): 1434-37.
（論文）Development of a SYBR green real-time polymerase chain reaction assay for quantitative detection of human N-methyl-D-aspartate receptor subtype 1 splice variants.	共著	平成22年10月	J. Health. Sci. 56(5): 527-33.
（論文）Methylglyoxal activates the human transient receptor potential ankyrin 1 channel.	共著	平成24年6月	J Toxicol Sci. 37(4): 831-5

(論文) D-histidine and L-histidine attenuate zinc-induced neuronal death in GT1-7 cells.	共著	平成25年5月	Metallomics. May 1;5(5):453-60.
(論文) Disruption of zinc homeostasis and the pathogenesis of senile dementia.	共著	平成25年11月	Metallomics. Nov 19
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成24年12月	第29回日本薬学会九州支部大会座長		
平成25年4月～	日本薬学会 環境・衛生部会 関連法規情報委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第2
職名	准教授	氏名	徳永 仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年10月までの6年間 平成20年7月 平成24年1月から6月	先進的なベッドサイド実習の内容が様々な新聞(「薬事日報」「薬学生新聞」など)、ホームページ(日本医学教育学会など)に掲載された。日本薬学会では第130、132、133年会でもハイライトに掲載されている。 全国大学IT 活用教育方法研究発表会抄録審査通過1次選考(開催、アルカディア市ヶ谷)発表 ベッドサイド実習の指導内容がじほう「Article Plus」「フィジカルアセスメント七つ道具-安全な薬物治療に活かす測定機器」にて連載
2	作成した教科書、教材、参考書	平成22年1月～ 平成25年3月	ベッドサイド実習で行っているシミュレータを使用したバイタルサインの確認に関する教育法を臨床薬学第二講座ホームページにおいて公開(プログラム・動画・データベースの配信) https://www.pharm.phoenix.ac.jp/~cp2/d1.html 教科書:新編プログラム学習による病態と処方解析ほか書籍7冊
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年10月までの6年間 平成25年10月までの6年間	発表:医療薬学会シンポジウムほか学会発表95編 講演:第41回福岡県病院薬剤師会新採用薬剤師教育研修会ほか講演67回
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床経験10年7か月	平成24年 4月 平成25年 4月	平成24-26年度科学研究費補助金(基盤研究(C))採択 平成24年度順正学園実績評価最優秀賞
II 研究活動			
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Inhibition of cisplatin protein binding: a possible therapeutic advantage.		共著	平成22年8月 Journal of Applied Therapeutic Research、7(4)、127-132
(論文) Experience-based education in vital-sign monitoring using simulators at pharmacy schools in Japan.		共著	平成22年9月 American Journal of Pharmaceutical Education、74(7)、Article No. 132.
(論文) Preparation of Simulation Programs Regarding Excess-Dose Drug Administration and Acute-Phase Condition Changes and Its Evaluation by Students.		共著	平成23年4月 YAKUGAKU ZASSHI、131(4)、655-659
(論文) 患者シミュレータを使用した新たなアドバンストOSCEによるフィジカルアセスメントの技能評価とその問題点		共著	平成25年4月 医療薬学、39(4)、208-219

(論文) 患者シミュレータを用いた問題解決型学習 を目指した病態変化シナリオプログラムの作成と研修 会の実施	共著	平成25年12月	社会薬学、印刷中
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成21年8月～現在	医療薬学会代議員		
平成20年12月～現在	臨床医学看護教育スキルスラボ研究会評議員		
平成20年8月～現在	日本医療薬学会「医療薬学」査読委員		
現在の所属学会	薬学会、臨床薬理学会、薬物動態学会、医療薬学会、癌学会、TDM学会、癌治療 学会、薬剤学会、社会医療学会、静脈経腸栄養学会、中毒学会、社会薬学会、医 学教育学会、医薬品情報学会、在宅薬学会、アロマ環境協会、介護支援専門員協 会、病院薬剤師会、薬剤師会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生物薬学研究室	職名 准教授	氏名 鳥取部 直子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 リメディアル教育		平成20年4月～	リメディアル教育に携わり、主に生物学での講義や統一試験の作問を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Both 5-hydroxytryptamine 5-HT _{2A} and 5-HT _{1B} receptors are involved in the vasoconstrictor response to 5-HT in the human isolated internal thoracic artery.	共著	平成20年7月	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 35 (7), 836-840
Pharmacological studies on responsiveness of 5-hydroxytryptamine to overcome perioperative spasm of coronary artery bypass graft.	単著	平成21年9月	薬学雑誌, 129 (9), 1049-53
The defective protein level of myosin light chain phosphatase (MLCP) in the isolated saphenous vein, as a vascular conduit in coronary artery bypass grafting (CABG), harvested from patients with diabetes mellitus (DM).	共著	平成23年8月	Biochem Biophys Res Commun., 412 (2), 323-7
Insulin induces internalization of the plasma membrane 5-hydroxytryptamine _{2A} (5-HT _{2A}) receptor in the isolated human endothelium-denuded saphenous vein via the phosphatidylinositol 3-kinase pathway.	共著	平成24年1月	J Pharmacol Sci., 118 (2), 178-85
糖尿病バイパス血管における5-HT 誘発性血管収縮反応増強のメカニズム	共著	平成25年2月	日本薬理学雑誌, 141 (2), 117
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年4月～	日本薬理学会学術評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	生薬学
職名	准教授	氏名	大塚 功
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
薬剤学実習		平成20年10月～平成21年3月	3年生前期（4年制）、3年生後期（6年制） 必修 物理化学（速度論、沈降、薬物安定性）、薬剤学（製剤試験、薬物動態）について、実験を通じて指導する。
特別研究		平成20年4月～平成21年3月	4年生（4年制） 必修 より高度な薬学知識を実験、文献を通じて学生に教授する。
物理化学演習		平成20年10月～平成21年3月	2年生後期 自由選択 物理化学1、2を履修できていない学生を対象とし、演習を通じて復習する。
生薬学実習		平成21年4月～	3年生前期 必修 生薬から生薬有効成分を抽出し、確認する。また漢方処方に関する概説し、処方することで伝統医療、東洋医学を実験を通じて教授する。
化学Ⅱ		平成21年4月～平成23年3月	1年生前期 選択 大学での化学に対応できるよう高校化学の復習を中心に概説する。
総合学習Ⅰ		平成21年10月～	1年生後期（平成23年度より1年生前期） 必修 グループ討論や発表を通じて薬学についての理解を深めるよう指導する。
基礎薬学総合演習		平成21年9月～	4年生通年 必修 CBT対策における天然物化学について指導する。
天然医薬品化学Ⅰ	(学生アンケート6.8)	平成21年10月～	3年生後期 必修 生薬有効成分の生合成経路を中心に概説し、生薬から生まれる天然医薬品との関わりについて教授する。
天然医薬品化学Ⅱ	(学生アンケート6.1)	平成22年4月～	4年生前期 必修 生薬有効成分の説取り扱いや構造解析法について概説する。
外書講読Ⅰ		平成22年10月～平成23年3月	1年生後期 必修 英文を通じて化学と英語の学習をする。
医薬品化学		平成24年4月～	4年生前期 必修 医薬品の開発及び構造式から薬理作用の理解について概説する。

特別研究 I	平成22年4月～	5年生通年 必修 より高度な薬学知識を実験、文献を通じて学生に教授する。
特別研究 II	平成23年4月～	6年生通年 必修 より高度な薬学知識を実験、文献を通じて学生に教授する。
実務実習 I	平成22年4月～	5年生前期 必修 5か月間実際に薬局、病院へ実習に出向くことで社会における薬剤師の役割を学ぶ。
実務実習 II	平成22年4月～	5年生後期 必修 2か月半の期間、実際に薬局、病院へ実習に出向くことで社会における薬剤師の役割を学ぶ。
薬学総合演習 I	平成23年4月～	6年生前期 必修 薬剤師国家試験対策における天然物化学、機器分析学に関連する領域について国家試験過去問をもとに指導する。
薬学総合演習 II	平成23年10月～	6年生後期 必修 薬剤師国家試験対策における天然物化学、機器分析学に関連する領域について理論問題、実践問題の解法を指導する。
(授業評価等を含む)		
2 作成した教科書、教材、参考書		
医療を指向する天然物医薬品化学	平成23年3月	生薬学、天然物化学を教授するために作成した教科書であり、立体化学(第1部4章 p101-114)、糖(第2部2章 p197-220)を担当し、執筆した。天然医薬品化学 I 及び天然医薬品化学 II で使用 北中進、船山信次 編 大川雅史、大塚功、片川和明、川口基一郎、北中進、高松智、平井康昭、平野裕之、船山信次、安田高明
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
授業方法の改善	平成20年4月～	双方向型の講義を目指し、できるだけ学生に質問し、答えさせるようにしている。講義内容を着実に修得できるよう、ホームワークや確認テストなどを導入している点が評価されている。また、学内FD研修会に積極的に参加し、教育方法の改善を目指している。
「第19回薬剤師のためのワークショップin 九州」(厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ)	平成20年11月～	薬剤師教育について医療現場と大学にある問題点について討議することで、所定の課程を全て修了した。

薬剤師国家試験対策	平成21年4月～	薬剤師国家試験は、薬学部における最重要の国家試験であり、その内容に沿った問題を学内で作成する必要がある。担当分野である天然物化学において、適切な問題を作成したことが評価されている。また、近年の国家試験は複合領域に跨る問題が多く、他教員と充分に連携した結果作成した問題について評価されている。
薬剤師国家試験対策委員	平成22年4月～ 平成24年3月	学生全員の薬剤師国家試験合格を目指し、講義時間割の作成、模擬試験の案内、予備校との渉外、学内教員作成の問題の取りまとめ、試験結果解析などの運営を任された。結果、第1回6年制薬剤師国家試験（97回国家試験）の成績は99%と高い合格率を挙げることができた。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）医療を指向する天然物医薬品化学	共著	平成23年3月	廣川書店
（論文） Ion-trap mass spectrometry unveil the presence of isomeric oligosaccharides in an analyte: Stage-discriminated correlation of ERMS.	共著	平成21年2月	Carbohydr. Res., 344 (3), 384 - 394
（論文） The Effect of Structural Differences in the Reducing Terminus of Sugars on the Binding Affinity of Carbohydrates and Proteins analyzed Using Photoaffinity Labeling.	共著	平成23年1月	Bioorg. Med. Chem, 19, 894 - 899
（論文） Elucidation of Carbohydrate Functions in Cell Membranes - Development of Molecular Tool Containing Carbohydrate Ligand and Elucidation of Interface Phenomena of Glycolipid.	単著	平成23年7月	YAKUGAKU ZASSHI., 131 (7), 1053 - 1060
（論文） Synthesis of a New Glycosphingolipid from the Marine Ascidian Microcosmus sulcatus using a One-Pot Glycosylation Strategy.	共著	平成25年1月	Tetrahedron, 69, 1470 - 1475
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第1	職名 准教授	氏名 蒲生 修治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年5月27日 平成25年6月3日 平成25年6月10日 平成25年7月1日	1年次前期必修科目「キャリア教育」において、薬学部出身の社会人を外部講師として招へいし、業務内容などについて講演を依頼した。学生が自身の将来像を思い描く際に参考になると考えている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 模擬患者43名 (平成22年度) 模擬患者12名 (平成24年度)	平成22年7月11日～ 平成22年10月31日 平成24年10月6日～ 平成24年10月20日	医療コミュニケーション教育を行う上で有用な模擬患者養成の講習会を、延岡市との共催で行った。現在は、学部教育における演習や実習等で、模擬患者の協力を仰いでおり、学生の学習へのモチベーション向上に大きく寄与している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 講演「薬学部の学び・薬剤師の仕事」	平成25年9月20日	宮崎県立宮崎西高校の1、2年生を対象に、薬学部で学ぶ内容や、将来の業務などについて講演を行った。(入試広報からの依頼業務)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 1) 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォース 2) 臨床経験8年	平成23年1月9日～ 平成23年1月10日 平成23年5月4日～ 平成23年5月5日 平成25年4月28日～ 平成25年4月29日	病院、薬局における長期実務実習の指導薬剤師を養成するためのワークショップに、タスクフォースとして参加した。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) Chapter III Current Opinions Regarding Fish Oils as Remedies in the Near Future. In <i>Fish Oils and Health</i>	共著	平成20年 9月	Nova Science Publishers
(論文) The defective protein level of myosin light chain phosphatase (MLCP) in the isolated saphenous vein, as a vascular conduit in coronary artery bypass grafting (CABG), harvested from patients with diabetes mellitus (DM).	共著	平成23年 7月	Biochemical and Biophysical Research Communications vol.412 No. 2
(論文) Krill-derived phospholipids rich in n-3 fatty acid improve spatial memory in adult rats.	共著	平成23年12月	Journal of Agricultural Science vol.3 No. 4
(論文) Insulin induces internalization of the plasma membrane 5-hydroxytryptamine2A (5-HT2A) receptor in the isolated human endothelium-denuded saphenous vein via the phosphatidylinositol 3-kinase pathway.	共著	平成24年 1月	Journal of Pharmacological Sciences vol.118 No. 2
(論文) 5-hydroxytryptamine receptors as targets for drug therapies of vascular-related diseases.	共著	平成25年 9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.39 no. 9

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
平成23年1月～現在	日本脂質栄養学会 学術評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬剤学	職名 講師	氏名 堤 敏彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成15年4月1日	薬剤学Ⅰ(学生評価7.1)、外書購読Ⅱ、薬学英語Ⅱ(学生評価8.5) わかりやすい講義を主眼としている。特に薬剤学では習熟度を確認しながら講義している。薬剤学実習では、病院勤務の経験を生かし、その内容を一部取り入れた事項を実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床経験11年			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Ecto-lysophospholipase C controls lysophospholipid uptake and metabolism in porcine kidney epithelial cell line LLC-PK1.	共著	平成21年1月	Prostaglandins Other Lipid Mediat. 88, 1-9 (2009)
(論文) Presence of bioactive lysophosphatidic acid in renal effluent of rats with unilateral ureteral obstruction.	共著	平成23年4月	Life Sci. 89, 195-203 (2011)
(論文) Comparison of lysophospholipid levels in rat feces with those in a standard chow.	共著	平成23年2月	J. Agri. Food Chem. 59, 7062-7 (2011)
(論文) Lysophospholipids and lysophospholipase D in rabbit aqueous humor following corneal injury.	共著	平成24年3月	Prostaglandins Other Lipid Mediat. 97, 83-89 (2012)
(論文) The potential protective role of lysophospholipid mediators in nephrotoxicity induced by chronically exposed cadmium.	共著	平成26年3月	Food Chem. Toxicol. 65, 52-62 (2014)
III 学会等および社会における主な活動			
昭和62年2月～現在に至る	日本薬学会会員		
平成3年7月～現在に至る	日本脂質生化学会会員		
平成15年7月～現在に至る	日本薬剤師会会員		
平成15年9月～現在に至る	日本生化学会会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第2	職名 講師	氏名 武藤純平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月～ 平成21年4月～ 平成21年4月～	応用薬理学(3年生 必修) 生理学・薬理学で学習してきた事項を基に、神経系に着目した薬理学的知識を教授する。 機能形態学Ⅱ(1年生 必修) 神経系・筋肉系・循環器系の構造と機能について解説する。 基礎薬理学実習(3年生 必修) 組織・器官・個体を用いた薬物の作用について、実験を通じて指導する。また、実習にチーム型基盤学習(TBL)を取り入れ、効果的な教育を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Rho-kinase, but not protein kinase C, is involved in generation of the spontaneous tone in the resting phase of the isolated pig iris sphincter muscle.	共著	2009.5	Curr. Eye Res., 34
(論文) Maternal exposure to dioxin disrupts gonadotropin production in fetal rats and imprints defects in sexual behavior.	共著	2009.7	J. Pharmacol. Exp. Ther., 329
(論文) Carnosine has antinociceptive properties in the inflammation-induced nociceptive response in mice.	共著	2012.5	Eur. J. Pharmacol., 682
(論文) Effect of spinally administered simvastatin on the formalin-induced nociceptive response in mice.	共著	2012.5	J. Pharmacol. Sci., 119
(論文) Effect of naloxone on ischemic acute kidney injury in the mouse.	共著	2013.8	Neuropharmacology, 71
III 学会等および社会における主な活動			
2009年12月 第26回日本薬学会九州支部大会	一般演題座長		
2011年12月 第28回日本薬学会九州支部大会	一般演題座長		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第2
職名	講師	氏名	緒方 賢次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
1 新入生に対する基礎科目の補講		平成20年4月～7月	高等学校で履修する化学・数学において、薬学を履修するうえで特に重要な項目を復習する補講を行った。その結果、基礎科目の講義に対する理解力が上昇した学生が増えた。
2 シミュレータを使用したシナリオのプログラムをインターネット上で公開		平成22年1月～現在	救命救急シミュレータ「ハートシム」と高機能患者シミュレータ「スタン」を所有している大学に向け、我々が開発したシナリオを公開している。シナリオの内容は、心室細動、カリウム製剤急速静注、インスリン過剰投与、アナフィラキシーショック、喘息症状、高血糖症状、出血症状である。シナリオのプログラムは自由にダウンロードできる。 https://www.pharm.phoenix.ac.jp/~cp2/dl.html
3 ベッドサイド実習で行っているシミュレータを使用したバイタルサインの確認に関する教育法を本学薬学部ホームページにおいて公開		平成22年1月～現在	シミュレータを使用したバイタルサインの確認に関する教育法を全国に公開 「バイタルサインが読める薬剤師を目指して」 http://www.phoenix.ac.jp/faculty/p_sciences/ps_vitalsign.html
2 作成した教科書、教材、参考書			
1 病気と薬 パーフェクトBOOK 2010		平成22年3月	下垂体機能亢進症（先端巨大症・巨人症）について薬物療法管理のポイントについて解説している。568-570頁
2 病気と薬 パーフェクトBOOK 2011		平成23年3月	下垂体機能亢進症（先端巨大症・巨人症）について薬物療法管理のポイントについて解説している。612-613頁
3 薬物治療学		平成23年9月	骨粗鬆症および骨軟化症について国試の出題頻度を加味して解説している。710-721、740-741頁
4 病気と薬 パーフェクトBOOK 2012		平成24年3月	下垂体機能亢進症（先端巨大症・巨人症）について薬物療法管理のポイントについて解説している。526-527頁
5 薬物治療学 改訂2版		平成25年2月	骨粗鬆症および骨軟化症について国試の出題頻度を加味して解説している。690-700、717頁
6 入院・外来 薬物治療プラクティス		平成25年3月	全身性エリテマトーデスについて薬物療法管理のポイントについて医師と連携し解説している。478-485頁
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1 臨床能力を有する実践型薬剤師の養成を目指して「バイタルサインチェックから見える薬術の重要性」平成20年度九州保健福祉大学-名城大学薬学部医療人GP合同フォーラム（延岡）		平成20年11月	臨床系ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。

<p>2 臨床能力を有する実践型薬剤師の養成を目指して「ベッドサイド実習におけるバイタルサインの確認法と薬学臨床技術導入学の実践」平成20年度九州保健福祉大学-名城大学薬学部医療人GP合同フォーラム（延岡）</p>	<p>平成20年11月</p>	<p>先進的な薬術の習得を目的として、新たに薬学系万能型実習モデルを用いた様々な投与ルートの確認、救急医療における体験型シナリオの体験を目指したベッドサイド実習について報告した。</p>
<p>3 薬剤師を医療の最前線で活躍させるために～薬学6年制における生体シミュレータの活用法～第19回日本医療薬学会ランチョンセミナー25（長崎）</p>	<p>平成21年10月</p>	<p>心音、呼吸音、腸音について概説し、生体シミュレータに対して聴診器を用いた聴診法を実演した。</p>
<p>4 薬剤師が医療の最前線で活躍するために～患者シミュレータを用いた薬物投与・病態変化シミュレーションプログラムの作成～文部科学省「戦略的大学連携支援事業」フィジカルアセスメントと薬学教育（事前教育部会）</p>	<p>平成22年3月</p>	<p>実習で行う生体シミュレータを用いたフィジカルアセスメント（主に心音、呼吸音、腸音）について講演した。</p>
<p>5 薬剤師の職能向上に向けた新たな展開のために～生体シミュレータを使用したアドバンストOSCEの実施第23回日本医療薬学会年会（仙台）</p>	<p>平成25年10月</p>	<p>生体シミュレータを用いて心音、呼吸音、腸音の正常音または異常音を聴診できるかアドバンストOSCEとして実技試験を行い、その内容について講演した。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>1 フィジカルアセスメント初級導入指導 ～これからの医療チームの一員として～第39回福岡県病院薬剤師会新採用薬剤師教育研修会（博多）</p>	<p>平成23年9月</p>	<p>心音、呼吸音、腸音について概説し、生体シミュレータを用いた聴診法について指導した。</p>
<p>2 TDMの理論と実践 高鍋地区薬剤師会研修会（川南）</p>	<p>平成24年2月</p>	<p>臨床薬物動態の理論について概説し、TDMを行う上でのポイントについて講演した。</p>
<p>3 TDM実習 高鍋地区薬剤師会研修会（川南）</p>	<p>平成24年3月</p>	<p>ベイズ推定理論について概説し、解析ソフトを用いてTDMの実践法について説明した。</p>
<p>4 薬学臨床技術導入学の実践を目指したベッドサイド実習とアドバンストOSCEトライアルの実施 日本薬学会第132年会（札幌）</p>	<p>平成24年3月</p>	<p>実習で行う生体シミュレータを用いたフィジカルアセスメント（主に心音、呼吸音、腸音）およびそれらの実技試験であるアドバンストOSCEについて講演した。</p>
<p>5 薬学の最先端技術に触れる サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座（延岡）</p>	<p>平成24年7月</p>	<p>日向高校理系コース2年生を対象に、フィジカルアセスメントの原理および手技について講演および実演した。</p>
<p>6 フィジカルアセスメント初級導入指導 ～これからの医療チームの一員として～第40回福岡県病院薬剤師会新採用薬剤師教育研修会（博多）</p>	<p>平成24年10月</p>	<p>新人薬剤師向け研修会とのことでフィジカルアセスメントの基本について実際にシミュレータの音源を使用しながら説明し、様々な非侵襲的な医療機器の体験型の研修を行った。</p>
<p>7 薬剤師が薬の投与量を決める！ 平成24年度高等教育コンソーシアム宮崎授業体験会（宮崎）</p>	<p>平成24年12月</p>	<p>高校1年生を対象に、薬剤師の仕事および薬学部で何を学ぶのか講演した。</p>
<p>8 薬剤師のためのフィジカルアセスメントおよび無菌操作 延岡市薬剤師会研修会（延岡）</p>	<p>平成25年2月</p>	<p>保険調剤薬局薬剤師にもできる血圧測定、呼吸音や心音の聴取法について解説した。また、実際に水銀血圧計を使用した体験型の研修会も実施した。</p>
<p>9 フィジカルアセスメント初級導入指導 ～バイタルサインが読める薬剤師を目指して～第41回福岡県病院薬剤師会新採用薬剤師教育研修会（博多）</p>	<p>平成25年10月</p>	<p>新人薬剤師向け研修会とのことでフィジカルアセスメントの理論と基本手技について講演および実技指導をおこなった。</p>
<p>10 身近な医療機器を用いた薬の効果の評価法のべおか市民大学院（延岡）</p>	<p>平成26年1月</p>	<p>患者が自己管理のために使用する身近な医療機器や器具について正しい使用方法や測定原理について講演した。</p>
<p>11 臨床経験8年10か月</p>		

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Dosage plan of flurbiprofen injection product using inhibition of protein binding by lipid emulsion in rats.	共著	平成20年1月	J. Pharm. Pharmacol., (60), 15-20
（論文） 薬剤師に求められる新たな薬剤師業務に関する薬学生の意識調査	共著	平成22年6月	YAKUGAKU ZASSHI, (130), 58911-58916
（論文） Experience-based education in vital-sign monitoring using simulators at pharmacy schools in Japan.	共著	平成22年9月	American Journal of Pharmaceutical Education, 74(7), Article No.132.
（論文） A diclofenac suppository-nabumetone combination therapy for arthritic pain relief and a monitoring method for the diclofenac binding capacity of HSA site II in rheumatoid arthritis.	共著	平成25年2月	Biopharmaceutics & Drug Disposition, (34), 125-136
（論文） 患者シミュレータを使用した新たなアドバンストOSCEによるフィジカルアセスメントの技能評価とその問題点	共著	平成25年4月	医療薬学, (39), 208-219
III 学会等および社会における主な活動			
	特になし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第 1	職名 講師	氏名 園田純一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
模擬患者 (simulated patients: SP) との面談演習		平成21年1月11日 ～ 随時改訂 (4年生対象) 平成21年2月16日 ～ 随時改訂 (5年生対象)	薬剤師役の学生と、一般市民が演じる模擬患者 (SP) とのロールプレイは、薬学部における教育の中で、患者対応のコミュニケーションを学ぶ上で重要である。性格・生活習慣・病気に対する認識・家族環境などの異なる多様な患者 (SP) と面談することは学生に与えるインパクトが大きく、医療者としての意識付けをする上で教育効果が高い。長期実務実習を控えた薬学部4年生、および、実務実習を終え、1年余りで薬剤師として医療の現場に出る5年生を対象とし、SPによる面談演習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1. Pharmacotherapy (ネオメディカル)		平成20年3月23日	薬剤師日常遭遇する患者のための薬物治療学を生きた学問として理解するため、疾患概念を示し、代表的な症例を提示し、診断、治療、処方例とその解説をまとめた教科書。吉田正、亀井淳三、園田純一郎、本屋敏郎、山田勝士(分担執筆): 気管支喘息 (処方薬の解説を担当) p172 - 175、慢性閉塞性肺疾患 (処方薬の解説を担当) p447-449
2. 薬物治療学 (薬学部4年生) の講義資料作成		平成21年4月～ 随時改訂	薬学部4年生を対象とした薬物治療IVにおいて、理解されにくい概念に関して図や写真、表を作成し講義に供した。臨床の現場で薬剤師として必要な判断・考え方が学べるよう標準的薬物療法の根拠となった学術論文の図表などを資料として提供した (全113ページ)。
3. コミュニケーション演習 (薬学部4年生) の教材作成		平成21年10月～ 随時改訂	保健薬局での場面を想定した患者と薬剤師のやり取りを、教員が演じたビデオ映像を作成。これを見ながら、患者と良好にコミュニケーションをとることの重要性を視覚的に伝える工夫をした。その他、ファーマシューティカルコミュニケーションが必要な理由や、必要とされる場面に関する資料と、実際の事例を患者と薬剤師の会話文として示し、その中から、問題点を抽出し解決に導くためのコミュニケーションの技法を学ぶため、全55ページの資料を作成しロールプレイによる演習に供した。 SP (模擬患者) との面談演習のための患者シナリオ (8症例) を作成した。各症例に基づいた処方せん・薬袋・情報提供文書も併せて作成した。SPに対する場面設定、および、フィードバックのポイントに関する説明用資料を作成した (全てオリジナルで約40ページ)。

4. 薬理学（作業療法学科1年生）の教材作成	平成21年4月～ 随時改訂	対象の学生は、初めて薬理学を学ぶことから図表を多く取り入れ、視覚的に理解できるよう工夫した。作業療法士が臨床で役立つ情報（薬物相互作用、特殊な服薬方法、副作用の概念など）とその事例を多数盛り込んだ（77ページ）。
5. 食品医薬品相互作用論（薬学部5年生）の教材作成	平成22年4月～ 随時改訂	医療の現場では、薬物治療に影響するファクターが多く存在する。その中で、食品と医薬品の相互作用は見落とされがちであるが重要なファクターである。前例の無い事例に遭遇することもある。薬剤師としてどのように考え、評価・判断するか、その技能を身につけることを目的とし、可能な限り多くの臨床データ、あるいは、学術論文を提示し、起こっている事実を見極め、信頼できる情報から薬剤師としてどのように判断し、対応すべきかを考えるための材料とした。（約50ページ、相互作用に関する論文約20報、随時追加）。
6. 一般用医薬品学演習（薬学部5年生）の教材作成	平成22年4月～ 随時改訂	薬局薬剤師の重要な役割として、適切なセルフメディケーションの推進がある。相談を受けた顧客の訴え・症状から適切な一般用医薬品（OTC）の選択、あるいは、必要に応じて受診勧奨が必要になる。日常多くみられる皮膚疾患毎に（水虫・にきびなど）、種類と見分け方、OTC選択・受診勧奨のポイントをに関する講義資料、および、症例を作成した。また、禁煙指導の必要性に関する情報提供と薬局薬剤師が行うべき禁煙指導の実際と、禁煙補助剤選択のポイントに関する資料を作成した。現在、OTC購入を目的に来局したSP（模擬患者）に対する面談演習のための症例（8症例）を作成中である。
7. 薬物代謝学（薬学部3年生）の教材作成		薬物代謝に関わる重要な酵素反応について、図表などを取り入れた副教材を作成し補足資料とした（約30ページ）。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 様々な場面を想定した模擬患者（SP）参加型コミュニケーションとレーニング演習の効果	平成23年10月	第21回日本医療薬学会（神戸市）
4 その他教育活動上特記すべき事項 1) 第3回どんだけ健康会「元気になるお茶の話」 2) 平成24年度延岡さわやかカレッジ第5回講座「緑茶と健康」 3) 第11回九州保健福祉大学公開講座「緑茶と健康」 4) 平成24年度延岡SP研修会（全2回） 5) 延岡SP講習会（全7回） 6) 臨床経験13年4か月	平成25年6月25日 平成24年8月30日 平成23年8月27日 平成24年10月6日、10月20日 平成22年7月11日～10月31日	お茶に関わる健康講話（延岡市） お茶の日本文化の関わり、健康維持のためのお茶の効用に関する講話（延岡市） お茶の日本文化の関わり、健康維持のためのお茶の効用に関する講話（延岡市） 模擬患者養成のための研修会。シナリオ作成と運営補助を行った。 模擬患者養成のための講習会。運営補助を重ねた。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Reduction of oxidative stress in liver cancer patients by oral green tea polyphenol tablets during hepatic arterial infusion chemotherapy.	共著	平成24年5月	Experimental and Therapeutic Medicine, 4, 452-458 (2012).
（論文） 宮崎県北部山間地域住民の医療アクセスと医薬品適正使用状況	共著	平成25年4月	医療薬学 2013, vol. 39, 225-236
（論文） 地域住民を対象とした調剤報酬講義の実施とその効果	共著	平成25年5月	日本プライマリ・ケア連合 学会誌 2013, vol. 36, 99-104
（論文） 薬学教育における「ジェネリック医薬品実習」の実施とその効果	共著	平成25年10月	医療薬学 2013, vol. 39, 624-634
（論文） Simultaneous detection of green tea catechins and gallic acid in human serum after ingestion of green tea tablets using ion-pair high-performance liquid chromatography with electrochemical detection.	共著	平成26年1月	Journal of chromatography B vol. 945-946
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	薬化学
職名	講師	氏名	渡邊 暁子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学科六年制一年次	総合学習I	平成18年～平成25年	混成軌道、立体化学、濃度計算に関するグループ学習
薬学科四年制四年次	薬学総合演習	平成18年～平成22年	四年制薬学部四年次生対象の総合科目
薬学科六年制二年次	薬化学実習	平成19年～平成25年	基本的な有機化学の学生実習
薬学科六年制一年次	物理学I	平成21年～平成22年	高校物理学の復習
薬学科六年制一年次	化学I	平成21年～平成23年	高校化学の復習
薬学科六年制四年次	基礎薬学総合演習	平成21年～平成25年	六年制薬学部四年次生対象の総合科目
動物生命薬科学科六年制二年次	薬品学演習	平成21年～平成24年	医薬品に関するオムニバス講義
薬学科六年制二年次	有機化学II	平成21年～平成25年	有機化合物の命名法と有機化学反応の初歩
動物生命薬科学科一年次	化学I	平成22年	高校化学の復習
薬学科六年制三年次	有機化学IV	平成22年～平成25年	有機化学のまとめ
薬学科六年制6年次	薬学総合演習I	平成23年～平成25年	六年制薬学部六年次生対象の総合科目
薬学科六年制6年次	薬学総合演習II	平成23年～平成25年	六年制薬学部六年次生対象の総合科目
薬学科六年制一年次	無機化学I	平成24年～平成25年	無機化学の初歩
2 作成した教科書、教材、参考書			
講義資料、自習資料		平成18年～平成25年	有機化学II
講義資料		平成18年～平成25年	総合学習I
講義資料		平成18年～平成22年	薬学総合演習
講義資料、自習資料		平成21年～平成22年	物理学I
講義資料、自習資料		平成21年～平成23年	化学I
講義資料		平成21年～平成25年	基礎薬学総合演習
講義資料		平成21年～平成24年	薬品学演習
講義資料		平成22年～平成25年	有機化学IV
講義資料		平成23年～平成25年	薬学総合演習I
講義資料		平成23年～平成25年	薬学総合演習II
講義資料、自習資料		平成24年～平成25年	無機化学I

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
高校生の早期体験学習における化学実験指導補助 模擬講義 模擬講義	平成19年～ 平成23年2月19日 平成23年6月1日	延岡高校1,2年生に、大学の早期体験学習としての化学実習指導補助を行っている。(継続) 宮崎学園高校にて高校1年生を対象に化学の模擬講義を行った。 宮崎県立妻高校にて高校1年生を対象に化学の模擬講義を行った。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(発表) Synthetic studies toward the novel peptide nucleic acid monomers by application of 4-hydroxyproline as backbone synthon.	共著	平成21年8月3日	第22回国際複素環式化学会議 (IHC-22) The 22nd International Congress on Heterocyclic Chemistry, St. John's, Newfoundland, Canada, PO-41
(論文) Design and Stereoselective Synthesis of Four Peptide Nucleic Acid Monomers with Cyclic Structures in Backbone (査読付)	共著	平成22年	<i>J. Heterocyclic Chem.</i> , 48, 1132-1139, (2011).
(発表) Concise synthetic approach for clausenamide using 1,3-dipolar cycloaddition	共著	平成22年12月18日	2010環太平洋国際化学会議 The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2010), Honolulu, Hawaii, No. 1199, poster session, Novel Synthetic Methodology and Its Application to Natural Product Synthesis (#63)
(発表) L-カルノシンの生理活性作用機解明を志向した、ヒスチジン類似新規アミノ酸合成の検討	共著	平成24年3月30日	日本薬学会第132年会、札幌、発表番号30P1-pm76
(発表) Synthetic Study on Clausenamide Derivatives by Nitrile Oxide Cycloadditions	共著	Sep. 2012	The 6th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaScience (Osaka, Japan)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第3
職名	講師	氏名	日高 宗明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年4月1日	臨床製剤学第3版 (共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 臨床経験11年			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
Inhibitory effects of fruit juices on cytochrome P450 2C9 activity in vitro.		共著	平成20年2月
Safety, efficacy, and Pharmacokinetics of S-1 in a hemodialysis patient with advanced gastric cancer.		共著	平成22年5月
Effect of acute hepatic failure on the hepatic first-pass effect of 5-fluorouracil in rats.		共著	平成22年5月
Hyuganatsu orange (Citrus tamurana Hort. Ex Tanaka) contains a water soluble substance that suppresses bone loss in ovariectomized rats.		共著	平成24年2月
Effects of oral administration of probiotics from Mongolian dairy products on the Th1 immune response in mice.		共著	平成25年7月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
Bioscience Biotechnology and Biochemistry (Vol 72, No 2)			
Cancer Chemotherapy and Pharmacology (Vol 65, No 4)			
Journal of Pharmacy and Pharmacology (Vol 62, No 5)			
Bioscience Biotechnology and Biochemistry (Vol 76, No 2)			
Bioscience Biotechnology and Biochemistry (Vol 77, No 7)			
III 学会等および社会における主な活動			
2006年11月～2008年11月	宮崎県医師会治験審査委員会委員		
2008年11月～	敬愛会治験審査委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学	職名 講師	氏名 吉田 裕樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
(1) 臨床薬学実習		平成19年10月～ 平成22年3月	本学薬学部が、文部科学省により採択された「平成18年度 医療人GP」の事業遂行のために、調剤などの一般的な薬剤師業務だけでなく、バイタルサインや救命救急教育などの当時の薬学部教育においては先進的な指導を実施した。これにより、「医療人」として臨床能力の高い薬剤師の養成を目指した。本実習において実践した教育法の概要と成果については、共同発表者として各学会や学術誌に発表した。また、6年制薬学部の共用試験OSCEの学内事前実習において、医薬品の無菌調製などの指導を行い、学生が薬学共用試験OSCEに合格することに寄与した。
(2) リメディアル教育(化学)		平成22年4月～ 平成24年3月	化学の基礎力が不足している新生入生を対象に、日々の課題を設定し、反復学習による基礎知識の定着と計算力の向上を目指す指導を行った。その成果は、学生が必修科目である「化学I」の単位修得に寄与した。
(3) 生化学実習		平成22年4月～ 現在に至る	生化学、遺伝子工学、細菌学、ウイルス学、免疫学などの実験手技の指導を行っている。本実習では、単なる実験手技の伝達ではなく、座学で習った知識と実習内容の結びつきを強調することや、論理的な思考を養うために実習結果のプレゼン発表会を実施している。
(4) 生化学系科目の講義・演習(基礎薬学総合演習、薬学総合演習、基礎生化学、生化学Ⅱ)		平成22年4月～ 現在に至る	生化学的知識と医療や薬剤師業務との繋がりを紹介しながら教育を行うことで、学生が専門科目を修得することの重要性や必要性を認識できるように工夫している。また、低学年時から国家試験の過去問を解かせ、反復学習による知識の定着を目指している。その成果は、本学薬学部の高い薬剤師国家試験合格率に寄与していると考えられる。
(5) 特別研究		平成22年4月～ 現在に至る	生化学研究の実施を通して、学生の論理的思考力、情報収集・処理能力、討論・発表能力の醸成を目指している。その成果は、学生の学会発表や共著者としての国際学術論文への投稿・掲載が挙げられる。
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2008		平成20年3月	アナフィラキシーショックに用いられる治療薬の作用点・相互作用・処方解析などを解説。(共著)
(2) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2009		平成21年3月	アナフィラキシーショックに用いられる治療薬について、前年度版の追加・修正。(共著)
(3) 病気と薬 パーフェクトBOOK 2010		平成22年3月	アナフィラキシーショックに用いられる治療薬について、前年度版の追加・修正。(共著)

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>(1) 第7回順正学園学術交流コンファレンス タイトル：自発的学習習慣をもつ薬剤師輩出を目指したリメディアル強育ー基礎化学系科目の実践内容ー</p>	<p>平成23年3月</p>	<p>基礎学力の低下している学生の学力向上を目指すため、高校化学レベルを扱うエンカレッジ実習の導入や少人数習熟度別クラス編成による講義の充実化を図った。講義では更に、複数教員による指導（チームティーチング）、学生自身が友人などに頼らず問題を解く環境作り、プロセス重視の丁寧な答案作成の助言、口頭試験、SGD等の独自の工夫を取り入れ、学生の「自発的学習習慣定着」を目的に根気強く育んだ（強育）。これらの取り組みの結果、学生の期末試験における成績向上が認められ、アンケートでも「興味を持って学問に取り組んだ」旨の回答が</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p>		<p>なし</p>	
<p>II 研究活動</p>			
<p>著書・論文等の 名 称</p>	<p>単著・ 共著の別</p>	<p>発行または発表の 年月（西暦でも可）</p>	<p>発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称</p>
<p>(論文) The citrus flavonoids hesperetin and naringenin block the lipolytic actions of TNF-alpha in mouse adipocytes.</p>	<p>共著</p>	<p>平成22年4月</p>	<p>Biochem Biophys Res Commun. 2010 Apr 9;394(3):728-32.</p>
<p>(論文) Efficacy of Brazilian propolis against herpes simplex virus type 1 infection in mice and their modes of anti-herpetic efficacies.</p>	<p>共著</p>	<p>平成23年6月</p>	<p>Evid Based Complement Alternat Med. 2011;2011:976196.</p>
<p>(論文) Efficacy of oral administration of heat-killed probiotics from Mongolian dairy products against influenza infection in mice: Alleviation of influenza infection by its immunomodulatory activity through intestinal immunity.</p>	<p>共著</p>	<p>平成23年12月</p>	<p>Int Immunopharmacol. 2011 Dec;11(12):1976-83.</p>
<p>(論文) Citrus flavonoid naringenin inhibits TLR2 expression in adipocytes.</p>	<p>共著</p>	<p>平成25年7月</p>	<p>J Nutr Biochem. 2013 Jul;24(7):1276-84.</p>
<p>(論文) Perinatal exposure to insecticide methamidophos suppressed production of proinflammatory cytokines responding to virus infection in lung tissues in mice.</p>	<p>共著</p>	<p>平成25年8月</p>	<p>Biomed Res Int. 2013. in press.</p>
<p>III 学会等および社会における主な活動</p>			<p>なし</p>

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 衛生薬学	職名 講師	氏名 甲斐 久博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
化学演習Ⅰ、化学演習Ⅱ		平成20年10月～	大学入学時における基礎学力が低い学生を対象にチームティーチング、少人数習熟度別クラス編成によるリメディアル教育を実施した。講義の無い日も課題を出したり、小まめな小テストを行い、学生の基礎学力向上が顕著に認められた。上級学年になっても、学生から受講してよかったとの回答をいただいた。
衛生薬学実習		平成20年10月～	この実習は、身近な食品や環境試料(水、空気)の安全性を実験を通して学ぶものである。実習に使う試料は地元の食材、近くの川の水などを用いるよう改善し、学生にとって大学が立地している宮崎県、延岡市に愛着を感じてもらえるよう工夫した。
理科系作文法Ⅰ		平成25年4月～	よりよいレポートの書き方を学ぶ科目である。1年前期から高校～大学1年レベルの化学実習を講義中に取り入れた。学生が主体となって手を動かし五感をフルに使った実験をすることができ、一方的な講義よりははるかに学生の意欲的な態度が見られ、授業アンケートでも高評価をいただいた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
自発的学習習慣をもつ薬剤師輩出を目指したリメディアル強育 ―基礎化学系科目の実践内容― 平成23年度宮崎県高等学校教育研究会理科部会化学部会および北部地区会(宮崎県)		平成23年11月	本学薬学科での入学後補習教育(リメディアル教育)の取り組みについて、宮崎県内高等学校の教員を対象に、第7回順正学園学術交流コンファレンスで発表した内容を紹介し、リメディアル講義(化学演習Ⅱ)を参観していただいた。その講義内容は、分子模型を用いたスモールグループディスカッションで、机間を自由に巡回していただいた。さらに、高校教員から現代の高校生の学力低下についても紹介していただき、基礎学力の向上について本学教員数名と議論を交わした。

<p>自発的学習習慣をもつ薬剤師輩出を目指したリメディアル強育 —基礎化学系科目の実践内容—</p> <p>第7回順正学園学術交流コンファレンス (岡山県)</p>	<p>平成23年3月</p>	<p>本学薬学科では、平成18年より入学後補習教育（リメディアル教育）を導入し、専門教育へスムーズに繋がられるような仕組みを構築してきた。今年度は特に、高校化学レベルの実習を導入し、少人数習熟度別クラス編成による講義を行った。その結果、顕著な成績向上が認められ、講義後のアンケートでも「興味を持って学問に取り組んだ」旨の回答が多数得られた。よって、これらの取り組みは、社会に有為な薬剤師を輩出するための教育方法・手段の種類を広げることに寄与できたのではないかと考えている。</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p> <p>タバコの害について 平成23年度薬物乱用防止教室 (宮崎県、延岡市立北浦中学校)</p>	<p>平成23年12月</p>	<p>タバコに含まれる化学物質が、どのように体内に吸収され、健康被害を及ぼすか、中学生および保護者向けにスライドを用いて分かりやすく説明した。がんや歯周病、妊娠時の喫煙による胎児への影響、未成年の喫煙率などグラフや写真を提示しながら、未成年時に喫煙することがなぜいけないのかを伝えた。</p>	
<p>II 研究活動</p>			
<p>著書・論文等の 名 称</p>	<p>単著・ 共著の別</p>	<p>発行または発表の 年月（西暦でも可）</p>	<p>発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称</p>
<p>Inhibitory effect of <i>Cucumis sativus</i> on melanin production in melanoma B16 cells by downregulation of tyrosinase expression. (査読付)</p>	<p>共著 (筆頭)</p>	<p>平成20年12月</p>	<p>Planta Med 2008 Vol. 74. 1785-1788</p>
<p>Studies of the Egyptian Traditional Folk Medicines. IV. New Isoflavonoid Isolated from Egyptian Licorice (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>平成20年12月</p>	<p>Heterocycles 2008. Vol. 75. 3085-3089</p>
<p>Placental transfer of melamine and its effects on rat dams and fetuses. (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>平成22年4月</p>	<p>Food Chem Toxicol 2010 . Vol. 48. 1791-1795</p>
<p>Inhibition of proliferation by agricultural plant extracts in seven human adult T-cell leukaemia (ATL)-related cell lines. (査読付)</p>	<p>共著 (筆頭)</p>	<p>平成23年7月</p>	<p>J Nat Med. 2011</p>
<p>Efficacy of Korean traditional medicines against influenza virus infection in mice and their modes of anti-influenza virus action. (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>平成24年1月</p>	<p>J Trad Med. 2011</p>
<p>III 学会等および社会における主な活動</p>			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	生薬学
職名	助教	氏名	渥美 聡孝
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年10月15日	薬用植物学の授業にて、植物本体を見るため、薬用植物園内で授業を行った。その際、代表的な根類生薬についてはその場で掘り上げて説明した。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成25年9月5日	薬用植物学(南江堂)の教科書の作成において植物の写真を提供した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年8月1日	延岡市民および本学学生に対して漢方教育に対するアンケート調査を行い、患者側および学生のニーズを解析し、実践型教育プログラムを考案した(2013年度中に大学紀要に掲載予定)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	(著書) 日本の有毒植物	共著	2012年5月
	(論文) Difference in cultivation characteristics and genetic polymorphism between Chinese and Japanese strains of Wolfiporia cocos Ryvarden et Gilbertson (Poria cocos Wolf).	共著	2012年6月
	(論文) Synthesis of a New Glycosphingolipid from the Marine Ascidian Microcosmus sulcatus using a One-Pot Glycosylation Strategy.	共著	2013年2月
	(論文) 漢方生薬「川芎 (Cnidii Rhizoma)」の抗アレルギー作用とその活性成分について	共著	2013年2月
	(論文) Effect of Atractylodis Lanceae Rhizoma on inflammatory mediator production from the RAW264 macrophage cell line.	共著	2013年8月
	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
			学研
			Journal of Natural Medicine, 66(3)
			Tetrahedron, 69
			生薬学雑誌, 67(1)
			Journal of Traditional Medicines, 30(3)
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	薬理学第1
職名	助教	氏名	金井 祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月～	「物理学Ⅰ」の講義で、自作した資料を用い、ポイントを絞って解説した。また、自宅学習用のホームワークを作成し、熱力学の知識の定着に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月～	「物理学Ⅰ」の講義資料及び、「薬理学実習」の実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
NaV1.7 sodium channel-induced Ca ²⁺ influx decrease tau phosphorylation via glycogen synthase kinase-3 in adrenal chromaffin cells.		共著	平成22年7月
Insulin-induced neurite-like process outgrowth: Acceleration of tau protein synthesis via a phosphoinositide 3-kinase-mammalian target of rapamycin pathway.		共著	平成23年11月
The defective protein level of myosin light chain phosphatase (MLCP) in the isolated saphenous vein, as a vascular conduit in coronary artery bypass grafting (CABG), harvested from patients with diabetes mellitus (DM).		共著	平成23年8月
Insulin Induces Internalization of the Plasma Membrane 5-Hydroxytryptamine (2A) (5-HT (2A)) Receptor in the Isolated Human Endothelium-Denuded Saphenous Vein via the Phosphatidylinositol 3-Kinase Pathway.		共著	平成24年1月
Endothelin-1-induced down-regulation of NaV1.7 expression in adrenal chromaffin cells: attenuation of catecholamine secretion and tau dephosphorylation.		共著	平成25年4月
III 学会等および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第1
職名	助教	氏名	鳴海 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
実務実習事前学習 I および II		平成20年～25年 I : 4月～5月 II : 9月～11月	薬学4年生次における実務実習事前学習において、その計画から実施までを行った。Iでは「服薬サポート実習」、IIでは「服薬指導」「一般用医薬品販売における来局者対応・情報提供」について担当し、学生への指導を行った。
薬局経営管理学：薬局アイテムにおける商品陳列とポップ広告作成演習		平成21年～23年4月	薬局アイテムにおける商品陳列およびポップ広告作成について、紙面上演習や実践としての陳列棚作成までを行った。陳列棚の作成（陳列、ポップ広告作成）が、売上を上げる目的以外に持つ意義を考える演習である。
模擬患者（simulated patient：SP）との面談演習		平成21年～25年12月・1月	患者対応のコミュニケーションを学ぶことを目的とした演習。延岡市の一般市民が演じる模擬患者（SP）を相手に、薬学生4年次生及び5年次生が薬剤師役として面談演習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
実務実習事前学習 I および II の教材（実習書）作成		平成20年～25年 I : 4月～5月 II : 9月～11月	I では調剤業務の基礎から応用を交えた内容とし、II ではコミュニケーションを中心とした内容で実習書の作成を行った。
講義（生物学）の教材作成		平成24年～25年	1年次を対象とした、生物学講義資料の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
“医薬品陳列・ポップ広告作成演習”の実施とその効果		平成22年10月	第43回日本薬剤師会学術大会（長野県）
様々な場面を想定した模擬患者（SP）参加型コミュニケーションとレーニング演習の効果		平成23年10月	第21回日本医療薬学会（兵庫県）
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1) 宮崎県立小林高等学校における出張講義（職業講和）		平成20年10月	高校生を対象とした薬剤師の職能などについての講和
2) 子育て講話「どうして子どもはくすりを嫌がるのか？」		平成23年5月	のべおか子どもセンター事業子育て講話
3) 健康に関するQ&A		平成23年7月	子どものための情報誌キッズワールド第37号
4) 子育て講和「子どもとくすり～えらび方とのませ方～」		平成25年9月	のべおか子どもセンター事業子育て講話
5) 臨床経験6年			

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）“児童・生徒を対象としたくすり教育教材” 作成演習のくすり教育に対する薬学生の認識に及ぼす 効果	共著	平成23年8月	医療薬学 2011, vol. 37, 495-502
（論文）宮崎県北部山間地域住民の医療アクセスと医 薬品適正使用状況	共著	平成25年4月	医療薬学 2013, vol. 39, 225-236
（論文）地域住民を対象とした調剤報酬講義の実施と その効果	共著	平成25年5月	日本プライマリ・ケア連 合学会誌 2013, vol. 36, 99-104
（論文）薬学教育における「ジェネリック医薬品実 習」の実施とその効果	共著	平成25年10月	医療薬学 2013, vol. 39, 624-634
（論文） Simultaneous detection of green tea catechins and gallic acid in human serum after ingestion of green tea tablets using ion-pair high-performance liquid chromatography with electrochemical detection.	共著	平成26年1月	Journal of chromatography B vol. 945-946
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床生化学
職名	助教	氏名	新屋 智寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年6月	2年次生化学1の講義において、学生の学習意欲向上のためにアニメーションの使用や、自宅での復習のため、練習問題を作成し、毎時間配布した。
2	作成した教科書、教材、参考書 病気と薬パーフェクトブック2012	平成24年3月	咳 177-180頁 MRSA感染症 1271-1274頁 ニューモシスチス肺炎 1278-1280頁 手術部位感染 1311-1312頁
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
Angiostatin inhibition of vascular endothelial growth factor-stimulated nitric oxide production in endothelial cells. (査読あり)		共著	平成22年3月
Mitogen-activated protein kinase phosphatase-1 modulated JNK activation is critical for apoptosis induced by inhibitor of epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase. (査読あり)		共著	平成21年3月
マクロライド薬作用の新知見		共著	平成23年7月
私の処方箋—インフルエンザ—		共著	平成23年9月
インフルエンザに対するマクロライド系薬の作用メカニズム		共著	平成23年11月
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	分析学
職名	助教	氏名	小山 裕也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Zinc, copper, and carnosine attenuate neurotoxicity of prion fragment PrP106-126.	共著	2011年7月	Metallomics, 3, 726-734
Disruption of Calcium Homeostasis in Alzheimer's Disease: Role of Channel Formation by β Amyloid Protein.	共著	2011年8月	ISBN 979-953-307-672-9
Zinc neurotoxicity and the pathogenesis of vascular-type dementia: Involvement of calcium dyshomeostasis and carnosine.	共著	2012年	J. Clinic. Toxicol., S3:002,
D-Histidine and L-histidine attenuate zinc-induced Q1 Q2 neuronal death in GT1-7 cells.	共著	2013年2月	The Royal Society of Chemistry
Disruption of Zinc Homeostasis and the Pathogenesis of Senile Dementia.	共著	in press	Manuscript for Metallomics
III 学会等および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 反田 和宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 化学演習 I および II (オムニバス形式) 薬化学実習		平成24~25年 平成21~25年 9~10月	I では「原子量, 分子量」「質量保存の法則, 代表的な化学反応について」を担当し, II では「有機化合物の立体構造について」を担当している。 学生が安全に実験を行えるよう環境を整備するとともに, 実験操作で生じる化学反応や各操作の目的を考えさせ, 理解するよう指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 化学演習 I および II の講義資料作成		平成24~25年	I, II の担当範囲の講義資料の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学移動模擬授業 (宮崎県立延岡高等学校理数科 1 年) 大学移動模擬授業 (宮崎県立延岡高等学校理数科 1 年) 大学移動模擬授業 (宮崎県立延岡高等学校理数科 1 年)		平成25年1月 平成24年1月 平成23年1月	「サリチル酸メチルの合成」の実験を担当。 「サリチル酸メチルの合成」の実験を担当。 「サリチル酸メチルの合成」の実験を担当。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)
(論文) Design and stereoselective synthesis of four peptide nucleic acid monomers with cyclic structure in backbone.		共著	平成23年6月
			J. Heterocyclic Chem., 1132-1139, 48, (2011). Wiley
III 学会等および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第2
職名	助教	氏名	瀬戸口 奈央
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
1 病気と薬 パーフェクトBOOK 2011		平成23年3月	アナフィラキシーショックについて薬物療法管理のポイントについて解説している。811-813
2 病気と薬 パーフェクトBOOK 2012		平成24年3月	アナフィラキシーショックについて薬物療法管理のポイントについて解説している。709-711
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1 薬剤師技術の向上を目指した攻めのベッドサイド実習：スキルミックスを中心に 第19回日本医療薬学会年会（長崎）		平成21年10月	ベッドサイド実習において、学生に種々の薬物投与経路からの投与法を万能人形で体験させ、さらにはバイタルサイン用生態シミュレータや測定機器・装置からの情報の重要性を認識させている。加えて、実習の締め括りには薬学的分布診断法とその診断に基づく投与法という薬術の1つを体験させている。それらの内容を報告した。
2 チーム医療に参画するためのフィジカルアセスメント教育～薬学シミュレーション教育法の導入～ 第73回九州山口薬学大会（沖縄）		平成23年11月	ベッドサイド実習で行う生体シミュレータを用いたフィジカルアセスメント（主に心音、呼吸音、腸音）教育について講演した。
3 薬学臨床技術導入学の実践を目指したベッドサイド実習とアドバンストOSCEトライアルの実施 日本薬学会第132年会（札幌）		平成24年3月	実習で行う生体シミュレータを用いたフィジカルアセスメント（主に心音、呼吸音、腸音）およびそれらの実技試験であるアドバンストOSCEについて講演した。
4 九州保健福祉大学薬学部における薬剤師および薬学生に対するフィジカルアセスメント教育の取り組み 第22回日本医療薬学会年会（新潟）		平成24年10月	ベッドサイド実習および薬剤師向け研修会で行う生体シミュレータを用いたフィジカルアセスメント教育の取り組みについて講演した。
5 薬剤師の職能向上に向けた新たな展開のために～生体シミュレータを使用したアドバンストOSCEの実施 第23回日本医療薬学会年会（仙台）		平成25年9月	生体シミュレータを用いて心音、呼吸音、腸音の正常音または異常音を聴診できるかアドバンストOSCEとして実技試験を行い、その内容について講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1 小児の薬についての話題 平成24年度のべおか子どもセンター「子育て講話」（延岡）		平成25年1月	小児を持つ母親を対象に小児が使用する頻度の高い薬を例に薬の必要性などについて講演した。
2 小児の薬についての話題 延岡市教育委員会社会教育課主催「いきいき子育て講座」		平成25年6月	小児を持つ母親を対象に小児が使用する頻度の高い薬を例に薬の必要性などについて講演した。
3 臨床経験6年			

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）薬剤師に求められる新たな薬剤師業務に関する薬学生の意識調査	共著	平成22年6月	YAKUGAKU ZASSHI, (130), 58911-58916
（論文）Experience-based education in vital-sign monitoring using simulators at pharmacy schools in Japan.	共著	平成22年9月	American Journal of Pharmaceutical Education, 74(7), Article No.132.
（論文）Preparation of simulation programs regarding excess-dose drug administration and acute-phase condition changes and its evaluation by students.	共著	平成23年4月	YAKUGAKU ZASSHI, (131), 655-659
（論文）A diclofenac suppository-nabumetone combination therapy for arthritic pain relief and a monitoring method for the diclofenac binding capacity of HSA site II in rheumatoid arthritis.	共著	平成25年2月	Biopharmaceutics & Drug Disposition, (34), 125-136
（論文）患者シミュレータを使用した新たなアドバンストOSCEによるフィジカルアセスメントの技能評価とその問題点	共著	平成25年4月	医療薬学, (39), 208-219
III 学会等および社会における主な活動			
	特になし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学	職名 助教	氏名 杉田 千泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			特記なし
2 作成した教科書、教材、参考書			特記なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年3月5日 平成25年4月 28・29日	女子高校生のためのサイエンス体験講座の開催 第44回 薬学教育者ワークショップの参加
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Factor VIII contributes to platelet-fibrin thrombus formation via thrombin generation under low shear conditions.	共著	平成21年11月	Thrombosis Research (Vol.124, No.5)
Inhibition of factor XI reduces thrombus formation in rabbit jugular vein under endothelial denudation and/or blood stasis.	共著	平成22年5月	Thrombosis Research (Vol.125, No.5)
Human C-reactive protein enhances thrombus formation after neointimal balloon injury in transgenic rabbits.	共著	平成23年1月	Journal of Thrombosis and Haemostasis (Vol.9, No.1)
Elevated plasma factor VIII enhances venous thrombus formation in rabbits: contribution of factor XI, von Willebrand factor and tissue factor.	共著	平成25年7月	Thrombosis and Haemostasis (Vol.110, No.1)
Arterial (18)F-Fluorodeoxyglucose Uptake Reflects Balloon Catheter-Induced Thrombus Formation and Tissue Factor Expression via Nuclear Factor- κ B in Rabbit Atherosclerotic Lesions.	共著	平成25年9月	Circulation Journal (Vol.77, No.10)
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年8月	日本血栓止血学会 入会		
平成24年4月	日本薬理学会 入会		
平成25年9月	日本ウィルス学会 入会		
平成25年10月	日本薬学会 入会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第3	職名 助教	氏名 小田 祐一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 1) 調剤シュミレーション		平成25年5月	「実務実習事前学習Ⅰ」において学生に調剤のシュミレーションをさせ、薬剤師業務に対する理解を深めさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 1) 第47回薬学教育者ワークショップ		平成26年1月	九州大学 病院キャンパスウエストウイングで開催される、ワークショップに参加予定である。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
該当なし			発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
III 学会等および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	九州保健福祉大学	講座名	臨床薬学第1
職名	助手	氏名	富重恵利紗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年5月 平成22年5月 平成22年4月～ 平成22年5月	小中高校生対象“くすり教育”の全面施行に向けた、薬学生への“くすり教育”演習 ジェネリック医薬品選択実習 薬局アイテムの一つ“排泄ケア用品”演習
2	作成した教科書、教材、参考書	平成22年4月～ 随時改訂	ジェネリック医薬品選択実習の教材作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成22年3月28日～30日 平成24年3月28日～31日 平成24年9月16日～17日	「くすり教育」演習の教育効果について発表、日本薬学会第130年会（岡山） 「排泄ケア用品」演習の教育効果について発表、日本薬学会第132年会（札幌） 「ジェネリック医薬品」実習の教育効果について発表、第74回九州山口薬学大会（北九州）
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年12月～現在 平成24年4月～現在 平成25年6月2日	山間過疎地域住民のための健康相談 地域住民のための骨密度測定と骨粗鬆症講義 地域住民健康啓発イベントどんだけ健康会主催
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 実務実習事前学習における「薬局製剤実習」の実施とその評価		共著	平成22年11月 医療薬学（第36巻第11号）
(論文) “児童・生徒を対象としたくすり教育教材”作成演習のくすり教育に対する薬学生の認識に及ぼす効果		共著	平成23年8月 医療薬学（第37巻第8号）
(論文) 宮崎県北部山間地域住民の医療アクセスと医薬品適正使用状況		共著	平成25年4月 医療薬学（第39巻第4号）
(論文) 薬学教育における「ジェネリック医薬品実習」の実施とその効果		共著	平成25年10月 医療薬学（第39巻第10号）
(論文) 地域住民を対象とした骨粗しょう症啓発教育のための「公民館出張講義」		共著	平成25年12月 社会薬学（第32巻第2号）
III 学会等および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。